

平成28・29年度
国立教育政策研究所教育課程センター関係指定事業

研究成果報告書

「津商モール」を柱に商業高校での 学びを実践する

～特別活動を核として商業科及び各教科で取り組む7つの資質・能力の育成～



「つしょうレインボー・プロジェクト」

岡山県立津山商業高等学校

さらなる「虹の彼方」を目指して

～「つしょうレインボー・プロジェクト」の2年間を道標に～

岡山県立津山商業高等学校
校長 榎野 滋子

教師冥利に尽きる—自分が指導する生徒の目を見張るような成長ぶりに遭遇した際、教師が抱く思いです。教師なら誰でも抱きたいけれど、なかなか抱きにくい思いでもあります。しかし幸いなことに、2年間の「つしょうレインボー・プロジェクト」の中で、「教師冥利に尽きる」と感じられる生徒の姿に何度も遭遇できました。

その最たるものが、今年の津商モール終了直後に国立教育政策研究所の長田調査官からの質問に答えた、社長・副社長を務めた3年生3人の次の言葉です。

後輩達へ一言

「挑戦することが大切。怖がらず、やりたいと思ったら積極的にチャレンジを」

先生方へ一言

「私たちの無理を受け止めてくださったことに感謝」

「一つのチームとして陰で動いてくださった。おられなかったら成功しなかった」

「おかげで自分たちの未熟さを実感できた」

「モールに関して対等な立場で話がしたいので、先生も遠慮せずに言ってほしい」

感謝したい人は？

「店頭価格も仕入れ時間も特別。こんな無理に対応してくださった企業の方々」

「『モールが楽しい』と笑顔で帰ってくださり、嬉しい気持ちをくださったお客様」

「安心感と心の支えをくれ、準備の時から遅い帰宅を待っていてくれた家族」

「自営業で店頭立つ母が、販売のコツや商品陳列の方法を教えてくれた。こうした会話ができただことに感謝！」

「つしょうレインボー・プロジェクト」で育成を目指したチャレンジ力・状況把握力・チームワーク力・コミュニケーション力が、しっかり血肉となっていることが分かる堂々とした受け答えぶりに、心の底から「この事業に取り組んで本当によかった。教師冥利に尽きる…」と感じ入ったのでした。

「つしょうレインボー・プロジェクト」は、平成28年度と29年度に本校が取り組んだ国立教育政策研究所教育課程研究指定事業「『津商モール』を柱に商業高校での学びを実践する～特別活動を核として商業科及び各教科で取り組む7つの資質・能力の育成」の愛称です。岡山県北唯一の単独商業高校である本校は、創立以来一貫して「地域を支える心と力を持った人材の育成」を目指した教育を実践してきました。このプロジェクトは、本校が、4年後の創立100周年を目前にして、今まで以上に地域の未来を明るくできる人材輩出に、全教職員で積極的かつ協働的に取り組むことを企図したものです。

2年間を振り返って痛感するのは、「特別活動の研究指定でよかった」ということです。「一人ひとりの生徒が自分らしい在り方生き方を構築し、他者とともによりよい社会作りを目指すための資質・能力の育成」に、全教職員がチームとなって取り組めたのは「特別活動を核」とした事業だったからに他なりません。新しい学習指導要領では、特別活動を要とするキャリア教育の充実が謳われています。本校はレインボー・プロジェクトのおかげで、特別活動の今日的意義をいわば「先取り」でき、前掲のような「教師冥利に尽きる」生徒の成長を目の当たりにできたと感じています。

とはいえ成果とともに改善すべき点も多くあると思われまふ。この冊子は、本事業の具体的な内容と分析の報告です。ぜひ多くの皆様に目を通していただき、忌憚のない御意見や御指導を賜りたいと思います。レインボー・プロジェクトの由来は、虹の七色に育成すべき資質・能力を重ねたことと、虹が象徴する明るい未来への希求です。この取組を道標に今後も本校がさらなる「虹の彼方」を目指せるよう、お力添えいただければ幸いです。

最後に、御多用中にも関わらず、本研究のために御助言、御指導、励ましのお言葉をいただいた国立教育政策研究所教育課程調査官の長田徹先生、岡山県教育委員会をはじめとする多くの関係機関、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

目 次

巻頭言

目次

| | | |
|-----|---|----|
| I | 学校の概要 | 1 |
| II | 研究の概要 | |
| 1 | 研究主題 | 4 |
| 2 | 研究課題 | |
| 3 | 本校における研究課題 | |
| 4 | 研究主題設定の理由 | 5 |
| 5 | 研究期間 | |
| 6 | 研究体制 | 6 |
| 7 | 期待する成果と検証方法 | 7 |
| 8 | 研究内容 | |
| 9 | 研究経過（学力向上委員会・津商モール検討委員会） | 9 |
| 10 | 2年間の主な取組 | 10 |
| III | 具体的な研究活動（平成28年度～平成29年度） | |
| 1 | 生徒の実態調査 | 11 |
| | （1）学習に関するアンケート | |
| | （2）7つの力に関するアンケート | |
| 2 | 特別活動の研究 | 15 |
| | （1）特別活動を核とした7つの資質・能力の育成 | |
| | （2）学校行事「津商モール」で7つの資質・能力の実践及び定着の検証 | |
| | （3）特別活動、各教科、各学年団等において身に付けさせたい資質・能力育成のための指導計画の明確化と効果的な学びの方法の研究 | |
| | （4）発達段階、学習活動に応じた育成する7つの資質・能力の焦点化・構造化及び活動計画の作成 | |
| | （5）特別活動と各教科等の諸活動における身に付けさせたい資質・能力育成の横断的な学習の計画及び連携によるPDCAサイクルの確立 | |
| 3 | 資質・能力の育成に係る学校行事 | 21 |
| | （1）講演会 | 21 |
| | （2）コミュニケーション・ワークショップ（文化芸術における子供の育成事業） | 24 |
| | （3）音楽祭 | 26 |
| | （4）自彊祭（学校祭） | 29 |
| | （5）孫心弁当 | 32 |
| | （6）学習成果発表会 | 34 |
| 4 | 学校行事「津商モール」の取組 | 37 |
| | （1）津商モール | 37 |
| | （2）7つの資質能力の育成及び実践 | 40 |
| 5 | 授業改善の取組「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」 | 47 |
| | （1）授業改善の取組について | 47 |
| | （2）授業改善の取組 | 48 |
| | （3）特別活動につなげる教科の取組 | 58 |
| | （4）津商型学習指導研修会報告 | 63 |
| IV | 研究の成果と課題 | 72 |
| | おわりに | 74 |
| | 関係資料（新聞記事、津商モール新聞） | |

I 学校の概要

1 創立

1921年（大正10年）設立，創立96年目

2 校是

「自彊（じきょう）」 努力してやまず，常に反省・学習すること

自彊のいわれ

「天行健，君子以自彊不息。」（四書五経の中『易経』より）

天地日時の運行は寸時もやまず，しかも永久に変わらぬ規律をもって進行するという。
人間もこうした大自然の永久不変の規律を参考に，自己と友とを錬磨し，学業・職務に励むべきである。

3 課程・学科

全日制・商業科

4 生徒数・クラス数

●平成28年度（全校生徒数 506名 男子 142名 ・ 女子 364名）

| | | | | |
|----|-------------------|-------------------|-------------------|-----|
| 1年 | 商業科（4クラス） | | | 161 |
| | 地域ビジネス科 （2クラス） | 国際ビジネス科 （1クラス） | 情報ビジネス科 （2クラス） | |
| 2年 | 75 | | 83 | 158 |
| 3年 | 83 | 31 | 73 | 187 |

●平成29年度（全校生徒数 474名 男子 143名 ・ 女子 331名）

| | | | | |
|----|-------------------|-------------------|--|-----|
| 1年 | 商業科（4クラス） | | | 160 |
| | 地域ビジネス科 （2クラス） | 情報ビジネス科 （2クラス） | | |
| 2年 | 75 | 84 | | 159 |
| 3年 | 74 | 81 | | 155 |

5 教員数

●平成28年度

| | 校長 | 教頭 | 主幹 教諭 | 指導 教諭 | 教諭 | 実習助手兼 講師・講師 | 非常勤 講師 | 合計 |
|---|----|----|----------|----------|----|----------------|-----------|----|
| 男 | | 1 | 1 | 1 | 18 | 5 | 2 | 28 |
| 女 | 1 | | | | 14 | | 6 | 21 |
| 計 | 1 | 1 | 1 | 1 | 32 | 5 | 8 | 49 |

●平成29年度

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|----|---|---|----|
| 男 | | 1 | 1 | 1 | 16 | 4 | 4 | 27 |
| 女 | 1 | | | | 15 | | 5 | 21 |
| 計 | 1 | 1 | 1 | 1 | 31 | 4 | 9 | 48 |

6 平成 28 年度・平成 29 年度 学校経営計画

○ 本校のミッション（使命，存在意義）

教育方針

校是「自彊」の精神に則り，ビジネス教育を担う県北唯一の専門高校として，知・徳・体の調和の取れた，心身ともに健全な人物を育てるとともに，時代や地域の要請に応えることのできる有為な人物の育成をめざす。

教育目標

- (1) 学業に励み，豊かな知性と情操を養い，相互の人格を尊重する人間性豊かな人物を育てる。
- (2) 勤労と責任を重んじ，豊かな社会づくりに貢献できる人物を育てる。
- (3) 個人の特性を伸ばし，自立的・自律的に行動できる人物を育てる。
- (4) 情報化の進展やグローバル社会に対応しつつ，地域に貢献しようという心と諸能力を持った人物を育てる。

○ 本校のビジョン（将来像，目指す姿）

- (1) 生徒一人ひとりが，校是「自彊」の精神を深く理解し実践することで，知・徳・体の調和の取れた人物に成長できる学校となる。
- (2) 生徒一人ひとりが，校内外における多様な学びとその成果の発表を通して，自己肯定感と他者との協働性，コミュニケーション力に富んだ，真に「自立した人間」に成長できる学校となる。
- (3) 生徒一人ひとりが，アクティブに，自律的に，礼儀正しく行動し，地域からより一層の信頼と愛情を寄せられる学校となる。
- (4) 新しい時代を力強く生き抜いて社会に貢献できる人材へと導く，指導力と組織力を持った教職員集団の学校となる。

○ 具体的な学校経営目標・計画

目標

- (1) 学びのメタ認知化と「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の推進，「指導と評価の一体化」の実践を目指した組織的な授業改善により，真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるとともに，生徒が各自で見定めた進路を保障する。
- (2) 学校行事，総合的な学習の時間，社会貢献・国際交流活動，部活動，課外活動などの，生徒の主体的な活動の更なる活性化，諸活動及び校内外との連携の強化を図る。
- (3) 安心・安全・快適な学校環境の保障と推進に努めるとともに，一人ひとりの生徒の自律性と規範意識を伸ばさせて健全な学校生活を送らせることで，本校に対する地域からの信頼を高める。
- (4) 生徒の「伴走者」として寄り添いともに学びながら進む組織的・協働的な教職員集団になることで，上記の目標の実現を目指す。

計画

- (1) 学力向上のため，全教職員で以下の取り組みを行う。
 - ①「つしょうレインボー・プロジェクト」—「『津商モール』を柱に商業高校での学びを実践する～特別活動を核として商業科及び各教科で取り組む7つの資質・能力の育成～」を研究主題とする国立教育政策研究所教育課程研究指定事業を生徒の資

質・能力育成，学校全体の教育力の向上の好機と捉え積極的にかつ組織的に推進する。

②育成する「7つの資質・能力」を焦点化・構造化した上で，取組毎にどの力をつけるかを重点化することで，取組の実効性を高める。

③各科で「〇〇科で育成する力と指導・評価の方法」とシラバスを作成し，全教職員で共有する。

④「津商授業3」の実行により，次の4点の実現を図る。a 生徒のメタ認知（「何を学ぶか，何ができるか」の理解）の促進，b 「主体的・対話的で深い学びアクティブ・ラーニング」の推進による生徒の主体性と学習意欲の喚起，c 「振り返りシート」等による生徒の自己評価，d 観点別評価にa～cを反映させる。

⑤学習評価はペーパーテストに重きを置き過ぎないようにするとともに，ペーパーテストにおいては，暗記した知識で対応できる問いばかりでなく，知識の深い理解や活用力を問う内容の出題を心がける。

⑥生徒の「伴走者」たりうる教職員集団でありつづけるための，「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の様々な手法についての研修や公開授業，研究授業等の授業改善の取り組みを，積極的に行う。

(2) 3年間を見通した，組織的・系統的なキャリア教育のあり方について，全教職員への周知徹底を図り，「一枚岩の進路指導」を実践，確立する。

(3) 刷新した校内分掌組織により，現行の諸活動の「スクラップアンドビルド」及び各活動間の連携，協力を図ることで，より意義深く密度の濃い生徒の主体的活動を展開する。

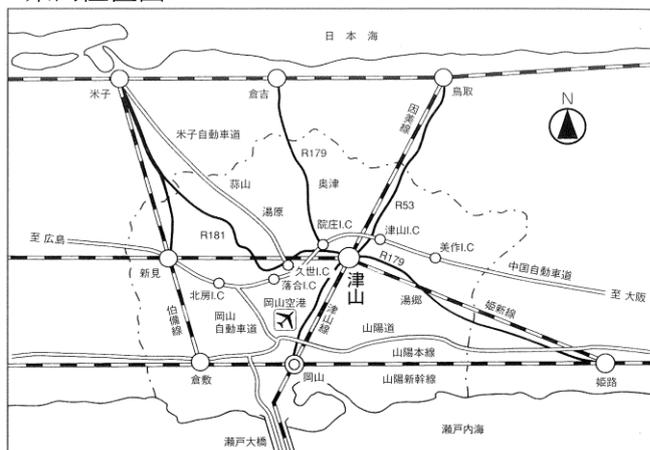
(4) 交通規則や校則といった「社会」のルール，「マナーアップ津商 めざせ日本一のビジネスマナー校」「津山商業授業マナー」等の従来からのマナーについてのスローガン，校内外の清掃活動や各種ボランティア活動の推奨などが，生徒一人ひとりの心に響くものとなって自律的行動に繋がるための取り組みを行う。

(5) あらゆる機会を通じて，本校の教育活動を保護者，地元の中学校，地域社会に広報・発信し，本校及び商業教育への理解と信頼，期待を高める。

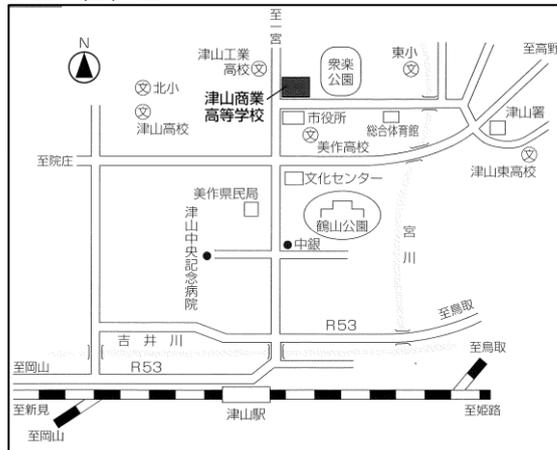
7 本校の立地

住所 岡山県津山市山北531

県内位置図



市内位置図



II 研究の概要

1 研究主題

『津商モールド』を柱に商業高校での学びを実践する
～特別活動を核として商業科及び各教科で取り組む7つの資質・能力の育成～

2 研究課題

【特別活動】

○入学から卒業まで見通し、生徒に主体性や有用性を実感させられる特別活動の研究

(ア) ホームルーム活動「(1)ホームルーム活動や学校づくり」「(3)学業と進路」に示される諸内容を中核とした活動

(イ) 学校行事「(5)勤労生産・奉仕的行事」のうち「就業体験などの職業観の形成や進路の選択の選択決定などに資する体験」を中核とした行事との系統的な取組

3 本校における研究課題

本研究は、生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成に向け、特別活動を核とし、全ての教育活動を関連させ、生徒自身が成長を実感し、教員が生徒の変容を見取れるようなPDC Aサイクルの確立を目指すものである。

中でも、学校行事「(5) 勤労生産・奉仕的行事」のうち「就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験」を中核とした、特別活動の全体計画の見直し、生徒に身に付けさせたい資質・能力ベースでの指導手法や評価方法について研究を行う。また、ホームルーム活動「(3) 学業と進路」に示される内容項目、特に「ア学ぶことと働くことの意義の理解」において、学習の見通しや振り返りの活動を取り入れたり実社会・実生活との関わりを踏まえたりすることを重視し、ホームルーム活動と各教科等の往還について明確化を図る。また、身に付けさせたい資質・能力（育成する資質・能力）については以下の表のように整理した。

育成する7つの資質・能力と特別活動で重視する力の関係

| | 育成する資質・能力 | 資質・能力の具体 | 特別活動で重視する力 |
|---|--------------------------|--------------------------------|------------------------|
| ① | 状況把握力 | 自分と周囲の人々、また、物事との関係性を理解することができる | 人間関係形成 |
| ② | 問題発見力 | 社会のニーズを見つけることができる | 社会参画 |
| ③ | アイデア力 | モノ、サービスを考案することができる | 社会参画 |
| ④ | チャレンジ力 | 失敗したことを、次の経験に活かそうとしている | 自己実現 |
| ⑤ | 企画立案力 | アイデアを提案することができる | 社会参画 |
| ⑥ | チームワーク力 | 多様な他者と協力することができる | 人間関係形成 |
| ⑦ | プレゼンテーション力 コミュニケーション力 | 自分の考えを相手にわかりやすく伝えることができる | 人間関係形成 社会参画 自己実現 |

4 研究主題設定の理由

今日の社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっている。特に産業や経済の分野ではグローバル化、情報化、ICTの進歩などその変容が著しい。そのような社会変化の中、職業決定や人生の選択など社会への出口に近い高等学校では、主体的に課題に向き合い、多様な他者と関わり合い、社会的・職業的に自立した人間となるために求められる資質・能力の育成が必要となっている。殊に地域産業をはじめ経済社会の発展を担う職業人を育成する商業高校においては、ビジネスを通じた多様な学びと実践を通して、その資質・能力を育成することが期待される。

本校では、平成27年度に、「確かな学力」「豊かな心の育成」を目指す「津商アクティブプラン」と銘打った取組において、①「新しい時代に育成すべき資質・能力」が育める教員集団を目指した授業改善の実践、②課題解決に向けて主体的・協働的に探究できる思考力・判断力と、成果等を表現できるコミュニケーション力・プレゼンテーション力を持つ生徒の育成を目指した諸活動、の2本の柱で、自主・自立し、「地域を担うスペシャリストの育成」を目指す取組を行い、その成果に大きな手ごたえを感じた。また、平成21年度に、マーケティング、会計などの商業高校で習得した知識・技術を実践する場としての販売実習を「津商モール」と名付け、商業科での取組として導入したが、地域企業及び住民とのより深い連携を図ることのできる学習活動でもあるため、平成27年度よりこれを学校行事と位置付けている。そこで、「津商アクティブプラン」の取組の成果と課題を踏まえ、「津商モール」を中核とし、各学習活動の系統的な取組にすべく、特別活動の全体計画の見直し、生徒に身に付けさせたい資質・能力ベースで指導手法や評価方法について研究することとした。また、育成する7つの資質・能力を明確にし、学校行事やホームルーム活動、生徒会活動において、学習の見通しや振り返りの活動を取り入れたり実社会・実生活との関わりを踏まえたりすることを重視し、ホームルーム活動と各教科等の往還を明確にし、新たなカリキュラム・マネジメントにも着手すべきと考えた。ここでいう、カリキュラム・マネジメントとは学校教育目標の実現に向けて、教科を横断した取組、PDCAサイクルの推進、地域との連携の充実を指している(図1)。本研究は、生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成に向け、全ての教育活動において関連性を持たせ、生徒自身が成長を実感し、教員が生徒の変容を見取ることができるようなPDCAサイクルの確立を研究の主題とする。

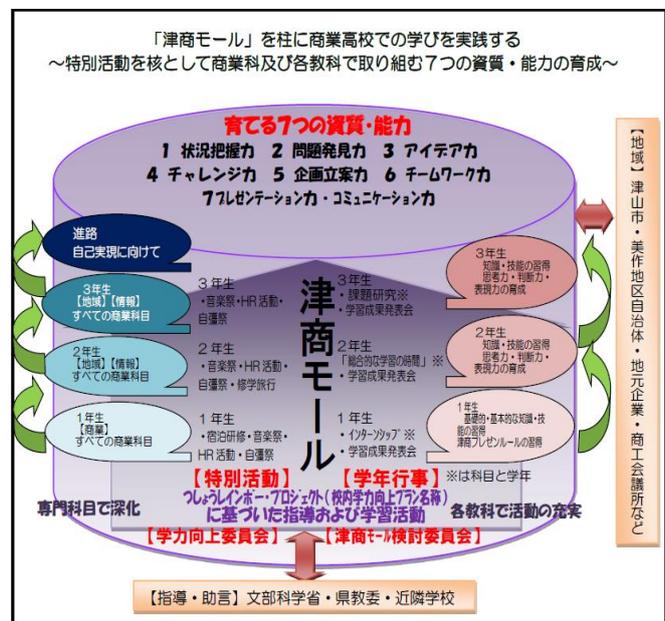


図1 概念図

5 研究期間

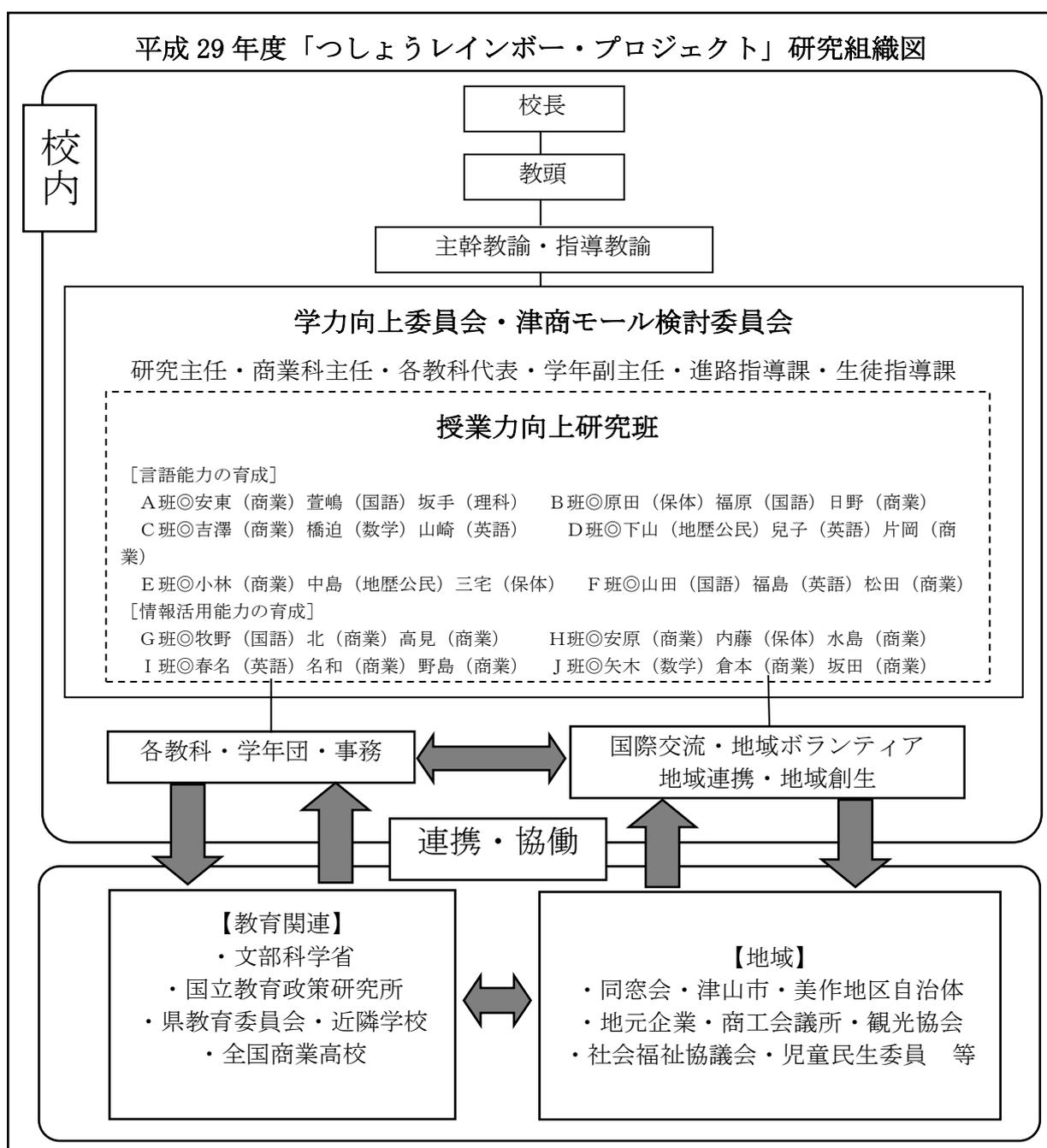
平成28年4月～平成30年3月までの2年間

6 研究体制

本研究を「7つの資質・能力の育成」に因み「つしょうレインボー・プロジェクト」と名付け、全ての学習活動と結び付け、全教職員が取り組むこととした。

校長を筆頭に、教頭及び研究主任を総括とし、学校組織内に、各教科や関係分掌等から選出されたメンバーからなる「学力向上委員会」（兼「津商モール検討委員会」）を設置し、特別活動と各教科での学び、又、地域連携等の全ての活動を結びつけるコーディネーター役とした。

「学力向上委員会」では「授業改善」、「各教科における資質・能力の育成」、「特別活動における資質・能力の育成及び指導」を重点に内容、指導方法の研究、成果の検証、研究内容や成果の普及などを行う。「津商モール検討委員会」では学校行事「津商モール」を「商業高校での学びの実践の場」とするための全体計画、実施に向けた、ホームルーム活動での事前事後の指導、全教員への取組の共有などを行う。



7 期待する成果と検証方法

- (1) 研究実践により教員及び生徒とも一昨年度に比べ、「津商モール」が学校行事として強く意識されるようになり、「7つの資質・能力（の育成）」を意識して諸活動に臨むことができる。また、生徒の主体的活動が促され、ホームルーム等における話し合い活動の充実が図られる。
- (2) 学校行事におけるPDCAサイクルの確立，アンケート等検証方法の改善，各々が身に付ける資質・能力を焦点化・重点化することにより，一層，その定着と変容を実感できる取組となる。
- (3) 特別活動及び商業科を始めとする各教科等での計画に基づいた学習活動によって育成された資質・能力が，学校行事「津商モール」における企画・立案・実施及び振り返りにより，身に付いた資質・能力として自覚され評価される。
- (4) これら商業高校での学びが「津商モール」における実践を通じて，生徒のキャリア形成に直結する学びにつながる。

研究について期待される成果については，以下の4つの方法で検証する。

- ① 学力向上委員会を中心に，教員の振り返りアンケートや学校自己評価などにより横断的かつ組織的な取組になっているかの検証を行う。
- ② 津商モール検討委員会，及び商業科を中心に生徒及び教職員対象の「津商モール」アンケート及び振り返りシートにより成果及び課題の検証を行う。
- ③ 育成する能力を焦点化した指導が行われ，生徒が実感できているかどうか，生徒による授業評価シート及び振り返りによる検証を行う。
- ④ 「津商モール」の取組に対する地域・協力企業，商工会議所等様々な立場からの意見やアンケートを基に，成果・課題の検証を行う。

8 研究内容

身に付けさせたい資質・能力については教育活動全体において育むものとしつつ，その核となるのは特別活動とし，ホームルーム活動における話し合い活動と学校行事における販売実習「津商モール」での実践と考えた。この共通理解のもと，学力向上委員会・津商モール検討委員会を中心に特別活動，商業科，各教科，各学年団等が横断的に連携して，資質・能力育成の推進を図る。研究内容は以下の通り。

- (1) 特別活動を核とした7つの資質・能力の育成
- (2) 学校行事「津商モール」で7つの資質・能力の実践及び定着の検証
- (3) 特別活動，各教科，各学年団等において身に付けさせたい資質・能力育成のための指導計画の明確化と効果的な学びの方法の研究
 - ア 特別活動（ホームルーム活動，学校行事）
 - イ 各教科
 - ウ 専門科（商業科）
 - エ 学年団
- (4) 発達段階，学習活動に応じた育成する7つの資質・能力の焦点化・構造化及び活動計画の作成
- (5) 特別活動と各教科等の諸活動における身に付けさせたい資質・能力育成の横断的な学習の計画及び連携によるPDCAサイクルの確立

9 研究経過（学力向上委員会・津商モール検討委員会）

●平成 28 年度

| 回 | 月/日 | 内 容 |
|------|-------|---|
| 1 回 | 4/4 | 本委員会の活動内容と委員の役割分担 「つしょうレインボー・プロジェクト～」について 今年度の研究の方法・内容と組織・研究計画 「7つの資質・能力」の検討 各教科で育てる力・評価とその方法について |
| 2 回 | 4/19 | 組織・研究計画の決定 授業改善の取組における班編成 本年度特別活動の取組 津商モール実施について |
| 3 回 | 4/26 | 研究の流れの確認 授業力向上の取組 教員研修「AL手法研修会」の進め方について 研究テーマの選択及び班編成 |
| 4 回 | 5/10 | 授業力向上の取組の年間計画 津商型学習指導研修会実施計画 委員内役割分担 |
| 5 回 | 5/17 | コミュニケーション講演会実施計画 生徒対象のアンケート調査実施について 第8回津商モール実施について |
| 6 回 | 5/24 | 学習指導案シートの検討 |
| 7 回 | 6/5 | 「学習に関するアンケート」結果分析 |
| 8 回 | 6/7 | 津商型学習指導研修会実施計画 授業力向上のための公開授業計画 |
| 9 回 | 6/19 | 津商型学習指導研修会詳細について 授業力向上のための公開授業計画 |
| 10 回 | 6/26 | コミュニケーション・ワークショップ実施計画 「津商モール」に係るホームルーム活動計画 |
| 11 回 | 9/5 | 7つの力の意識付け方法とその活用について |
| 12 回 | 9/13 | 先進校視察・研修会等参加について |
| 13 回 | 9/20 | 津商型学習指導研修会詳細計画 |
| 14 回 | 9/27 | 教員研修実施計画 |
| 15 回 | 10/18 | 教員研修会 |
| 16 回 | 11/8 | 津商モール準備 |
| 17 回 | 11/15 | 津商モールアンケート結果について |
| 18 回 | 11/29 | アンケート分析 授業改善に係るティーチングスタイルチェックシートについて |
| 19 回 | 1/17 | 来年度の特別活動計画 |
| 20 回 | 1/24 | 来年度各科目の育てる力について 来年度シラバス様式について |
| 21 回 | 1/31 | 研究協議会発表リハーサル |
| 22 回 | 3/17 | 研究協議会の報告 来年度の取組計画 来年度の特別活動の取組の重点と指導について 研究の報告とまとめ |

●平成 29 年度

| 回 | 月 日 | 内 容 |
|------|-------|---|
| 1 回 | 4/4 | 本委員会の活動内容と委員の役割 昨年度の課題と今年度の取組計画 今年度の研究の方法・内容と組織・研究計画 学力向上及び授業改善計画 特別活動について（音楽祭・自彊祭・津商モール） |
| 2 回 | 4/24 | 組織・研究計画の決定 授業改善の取組における班編成 学習指導案様式・授業評価シートの検討 「学習に関するアンケート」「7つの力アンケート」の修正検討 |
| 3 回 | 5/1 | 研究の流れ確認 各教科の作成物 授業改善の方向性 コミュニケーション講演会実施計画 教員研修会実施計画 特別活動年間指導計画・身に付ける資質・能力 研究の成果とまとめについて |
| 4 回 | 5/8 | 「つしょうレインボー・プロジェクト」に係る諸行事について 津商型学習指導研修会実施について 「学習に関するアンケート」「7つの力アンケート」の実施について |
| 5 回 | 5/16 | 研究チーム活動の推進状況報告 コミュニケーション講演会実施計画 生徒対象のアンケート調査実施計画 第9回津商モール実施検討 7つの資質・能力の重点化・焦点化について |
| 6 回 | 5/29 | 「津商モール」に係るホームルーム活動計画 |
| 7 回 | 6/5 | 「学習に関するアンケート」結果分析 |
| 8 回 | 6/19 | 授業力向上の取組について |
| 9 回 | 6/26 | 津商型学習指導研修会実施計画 授業力向上のための公開授業 |
| 10 回 | 7/3 | コミュニケーション能力育成のための芸術表現体験授業実施について |
| 11 回 | 9/13 | 「津商モール」ホームルーム学習計画 |
| 12 回 | 9/25 | 「津商モール」ホームルーム学習計画 音楽祭・自彊祭「7つの力アンケート」結果分析 |
| 13 回 | 10/2 | 津商型学習指導研修会実施計画 |
| 14 回 | 10/16 | 津商モール |
| 15 回 | 10/23 | 津商型学習指導研修会の振り返り 先進校視察について |
| 16 回 | 11/6 | 教員研修会について 「学習に関するアンケート」「7つの力アンケート」アンケート分析 |
| 17 回 | 11/13 | 来場者アンケートについて |
| 18 回 | 11/20 | 教員研修実施計画 |
| 19 回 | 1/15 | 来年度の特別活動計画 |
| 20 回 | 1/22 | 来年度各科目の育てる力について 来年度シラバス様式について |
| 21 回 | 2/5 | 研究協議会発表リハーサル |
| 22 回 | 3/19 | 研究協議会の報告 来年度の取組計画 |

10 2年間の主な取組

| | |
|--------|--|
| 平成28年度 | <p>4月・学力向上委員会及び津商モール検討委員会による全体計画・年間指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動，各教科，学年団担当部署で全体計画に基づき活動計画を作成 ・1年宿泊研修に向けたホームルーム活動での話し合い活動，準備，実施，振り返り <p>5月・コミュニケーション講演会</p> <p>7月・インターンシップ（1年生）事前指導，準備，実施，まとめ（1年生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事「音楽祭」に向けたホームルーム活動での話し合い活動，準備，実施，振り返り（7つの資質・能力に関するアンケート） ・コミュニケーション・ワークショップ「文化芸術による子供の育成事業（芸術家の派遣事業）」 <p>7月～8月 学校行事「自彊祭」に向けての話し合い，準備</p> <p>9月・学校祭「自彊祭」本番振り返り及びアンケート実施</p> <p>10月・津商型学習指導研修会</p> <p>10月～11月・津商モールに向けたホームルーム活動等での話し合い，準備</p> <p>11月・第8回「津商モール」実施</p> <p>11月・「津商モール」振り返り及びアンケート実施</p> <p>12月・第8回「津商モール」のまとめ，発揮された資質・能力の整理</p> <p>事前，実施，事後の取組についての課題の洗い出し及び改善策の検証</p> <p>2月・学習成果発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成された資質・能力についてアンケートによる検証 <p>2月・修学旅行（2年生）</p> <p>3月・次年度の研究及び年間指導計画の策定</p> |
| 平成29年度 | <p>4月・学力向上委員会及び津商モール検討委員会による全体計画・年間指導計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動，各教科，学年団担当部署で全体計画に基づき活動計画を作成 ・1年宿泊研修に向けたホームルーム活動での話し合い活動，準備，実施，振り返り <p>5月 コミュニケーション講演会</p> <p>7月・1年生インターンシップ事前指導，準備，実施，まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事「音楽祭」に向けたホームルーム活動での話し合い活動，準備，実施，振り返り（7つの資質・能力に関するアンケート） ・学力に関するアンケート，授業評価アンケート ・コミュニケーション・ワークショップ「文化芸術による子供の育成事業（芸術家の派遣事業）」 <p>8月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事「自彊祭」に向けたホームルーム活動での話し合い活動，準備，実施，振り返り（7つの資質・能力に関するアンケート） <p>10月・津商型学習指導研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行（2年生）に向けたホームルーム活動での話し合い活動，グループでの話し合い活動，準備，実施 <p>11月・「津商モール」に向けたホームルーム活動での話し合い活動，準備，実施，振り返り（7つの資質・能力に関するアンケート）</p> <p>12月・社会貢献活動「孫心弁当」（3年生）</p> <p>1月・特別活動のまとめ，発揮された資質・能力の整理及び事前，実施，事後の取組についての課題の洗い出し及び改善策の検証</p> <p>2月・学習成果発表会</p> <p>3月・次年度の研究計画及び年間指導計画の策定</p> |

Ⅲ 具体的な研究活動（平成 28 年度～平成 29 年度）

1 生徒の実態調査

生徒に身に付けさせたい資質・能力についての実態把握と、取組によってどれだけ身に付いたかを見取るために「学習に関するアンケート」「7つの力に関するアンケート」を作成し実施した。アンケートについては、平成 28 年度の調査結果より、身に付けさせたい資質・能力を焦点化・構造化し、検証することとしたため、内容をより具体的に説明し、生徒が答えやすいものに変更して平成 29 年度当初に 2 種類のアンケートを実施した。

「学習に関するアンケート」は学期末ごとに 3 回、「7つの力に関するアンケート」は 7 月「音楽祭」、9 月「自彊祭」、11 月「津商モール」の実施後に 3 回実施し、変容を見取った（詳細は各行事の項参照）。

(1) 学習に関するアンケート（年度当初）

実施日 平成 29 年 5 月 8 日

調査対象 472 名（1 年生：160 名 2 年生：158 名 3 年生：154 名）

調査項目

質問Ⅰ 各項目について、該当する番号を選んでください。

①あてはまる ②どちらかと言えばあてはまる

③どちらかと言えばあてはまらない ④あてはまらない

1. 授業が好きである。 2. 授業は大切である。
3. 勉強（学習）は普段の生活や将来に役立つ。 4. 学習内容についてより深く知りたい。
5. 授業を受けることで、自分の学習活動は充実している。
6. 宿題や予習・復習は定期考査や成績のためにするものである。
7. 勉強（学習）は自分の興味・関心を深めるためのものである。

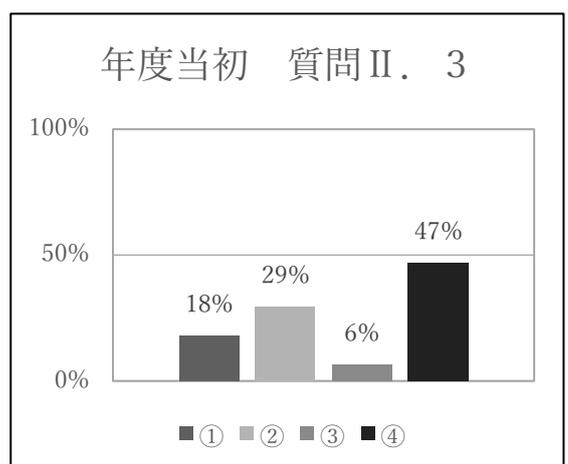
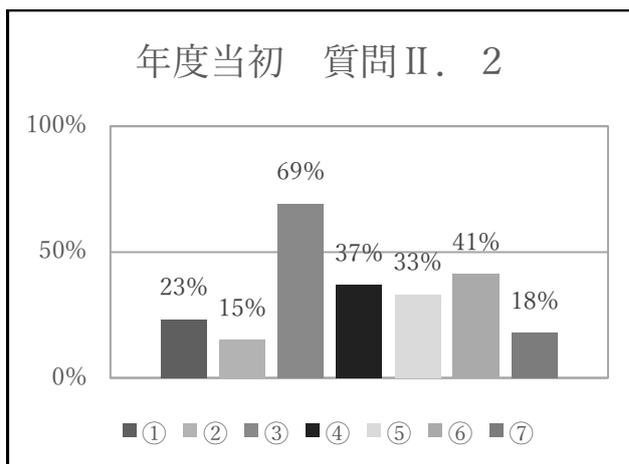
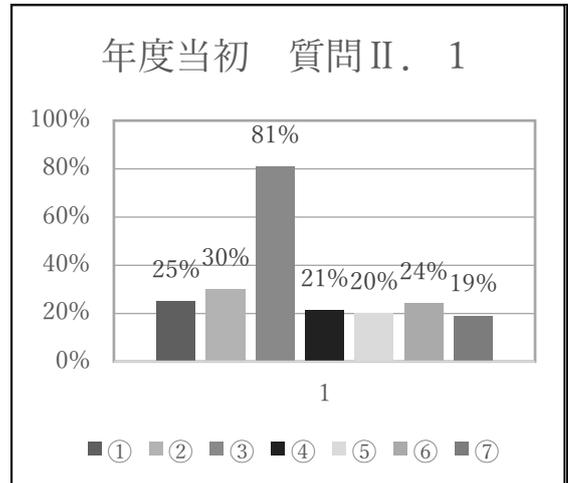
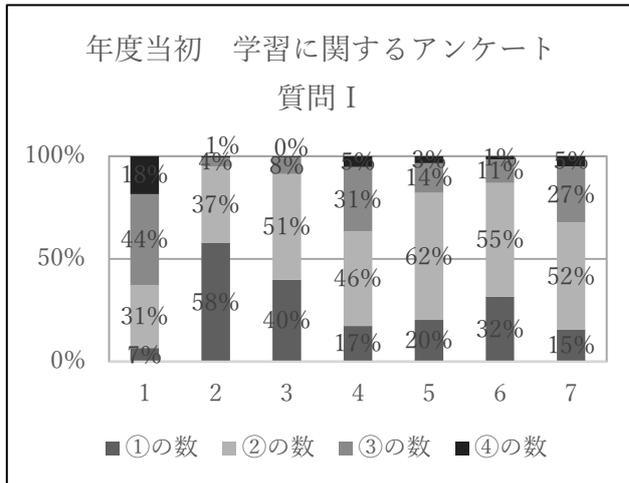
質問Ⅱ

1. 授業中に充実（理解）していると感じるのはどのようなときか。（最大 3 つまで回答）
 - ① 先生の説明を聞いているとき
 - ② 板書をノートやプリントなどに書いているとき
 - ③ 既習の問題の類題が解けたとき
 - ④ 文章や図表などに示されている内容を読み取っているとき
 - ⑤ 自分の意見や考えなどを文章に書き表しているとき
 - ⑥ 与えられた課題についてグループで相談しているとき
 - ⑦ 自分の意見やグループで話し合ったことをグループやクラスで発表しているとき
2. 授業で思考して（考えて）いると感じるのはどのようなときか。（最大 3 つまで回答）
 - ① 先生の説明を聞いているとき
 - ② 板書をノートやプリントなどに書いているとき
 - ③ 既習の問題の類題を解いているとき
 - ④ 文章や図表などに示されている内容を読み取っているとき
 - ⑤ 自分の意見や考えなどを文章に書き表しているとき
 - ⑥ 与えられた課題についてグループで相談しているとき
 - ⑦ 自分の意見やグループで話し合ったことをグループやクラスで発表しているとき

3. 学校ではどのような授業をしてほしいと思うか。(1つのみ回答)

- ① 新たな知識・技能を得ることができる授業
- ② 反復学習をすることで理解を深めることができる授業
- ③ 学習内容について自分なりに考えたり，表現したりしていく力を育ててくれる授業
- ④ 学習内容への興味・関心を高めてくれる授業

調査結果



分析と考察

質問 I から，学習の重要性については十分に意識しているが（項目 2，3），学習に対する意欲はさほど高くない様子である（項目 1，4）。主体的，意欲的に取り組む意欲を更に高める授業の工夫が必要である（項目 5，7）。学年間の比較を行ってみると，（結果は省略）2，3 年生に比べて 1 年生のほうが授業や学習に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえた。質問 II の 1 から，生徒に「思考」していると捉えて欲しい場面で（質問④⑤），「思考している」と感じる割合より，「充実している」と感じる割合が低い。考えてはいるが充実していると感じられていない生徒がいくらかいる。教科の学びで考えたことが，充実していると感じられる，学びのスタイルや体験などを通して実感できる学びになるように，特別活動での充実した活動や教科間の横断的な学びに改善していきたい。

(2) 「7つの力」に関するアンケート（年度当初）

実施日 平成 29 年 7 月 6 日（木）

調査対象 474名 (1年生:160名 2年生:159名 3年生:155名)

※7つの力アンケート実施に際し、それぞれの力が指す具体的内容については以下のよう
に説明をしている。

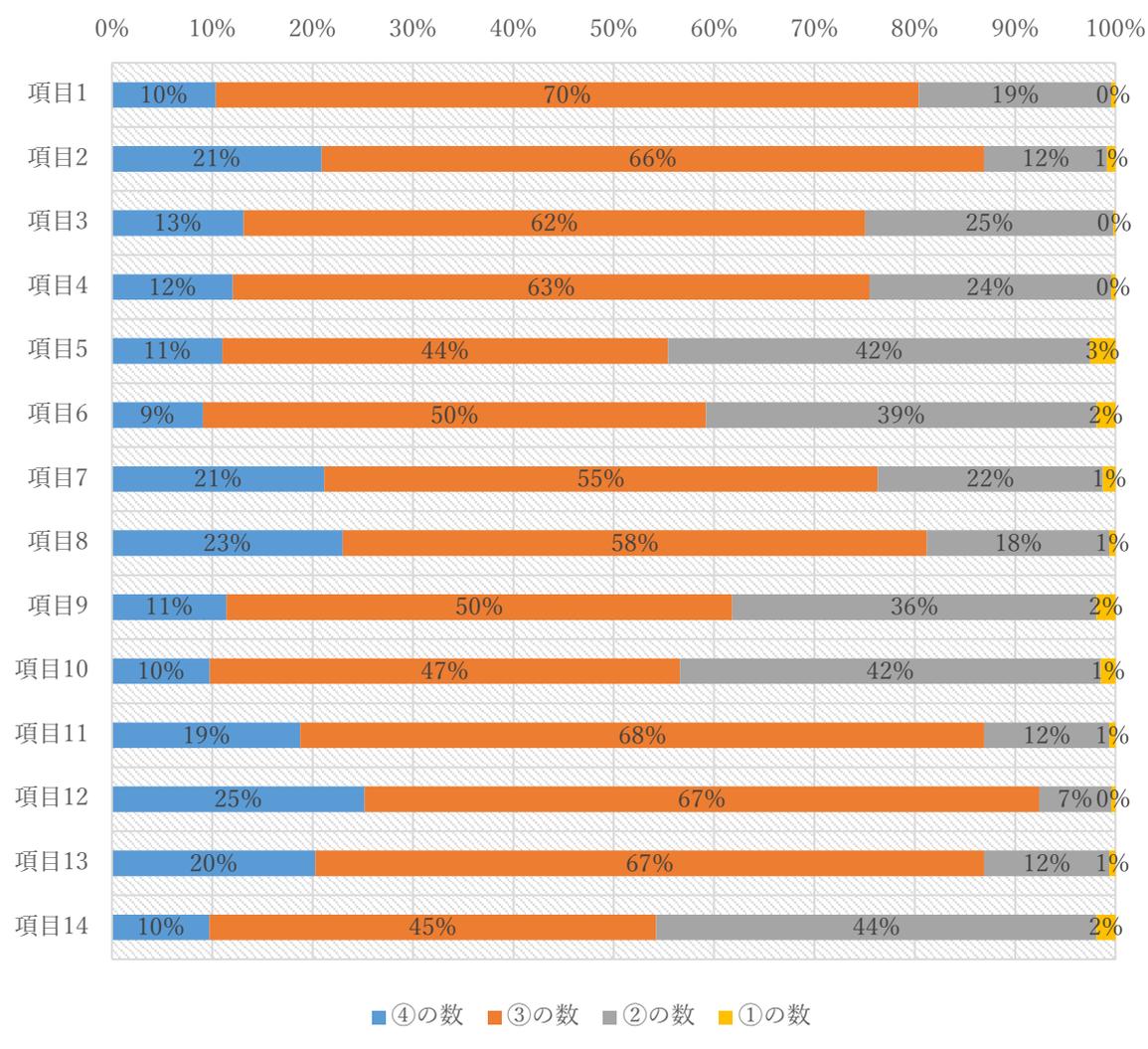
- ①「状況把握力」とは以下のようなことを指しています。
 - ・場面に応じて、必要な情報を収集ができること。
 - ・場面に合わせて、自分の言動を適切に調節することができること。
- ②「問題発見力」とは以下のようなことを指しています。
 - ・問題意識をもって、物事を観察すること。
 - ・解決すべき課題を見つけること。
- ③「アイデア力」とは以下のようなことを指しています。
 - ・前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想すること。
 - ・自分たちの取組を、他者に理解してもらうための工夫ができること。
- ④「チャレンジ力」とは以下のようなことを指しています。
 - ・初めての体験に対しても、積極的に取り組むこと。
 - ・やり始めた事柄に対して、粘り強く最後までやり遂げること。
- ⑤「企画立案力」とは以下のようなことを指しています。
 - ・目標達成に向けて、見通しを持って計画を立てることができること。
 - ・目標達成に向けて、遂行するためのより良い手順を提案できること。
- ⑥「チームワーク力」とは以下のようなことを指しています。
 - ・チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすこと。
 - ・チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすこと。
- ⑦「コミュニケーション力・プレゼンテーション力」とは以下のようなことを指しています。
 - ・他者の意見を聴き、正しく理解すること。
 - ・自分の考えを、相手がわかるように説明すること。

調査項目

- ①項目 1. 場面に応じて、必要な情報を収集することができる。
- ①項目 2. 場面に合わせて、自分の言動を適切に調節することができる。
- ②項目 3. 問題意識をもって、物事を観察することができる。
- ②項目 4. 解決すべき課題を見つけることができる。
- ③項目 5. 前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想することができる。
- ③項目 6. 他者に自分たちの取組を理解してもらうための工夫ができる。
- ④項目 7. 初めての体験に対しても、積極的に取り組むことができる。
- ④項目 8. やり始めた事柄に対して、粘り強く最後までやり遂げることができる。
- ⑤項目 9. 目標達成に向けて、見通しを持って計画を立てることができる。
- ⑤項目 10. 目標達成に向けて、遂行するためのより良い手順を提案できる。
- ⑥項目 11. チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。
- ⑥項目 12. チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすことができる。
- ⑦項目 13. 他者の意見を聴き、正しく理解することができる。
- ⑦項目 14. 自分の考えを、相手がわかるように説明することができる。

調査結果

年度当初（全学年）



| 全学年 | 項1 | 項2 | 項3 | 項4 | 項5 | 項6 | 項7 | 項8 | 項9 | 項10 | 項11 | 項12 | 項13 | 項14 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ④の数 | 10% | 21% | 13% | 12% | 11% | 9% | 21% | 23% | 11% | 10% | 19% | 25% | 20% | 10% |
| ③の数 | 70% | 66% | 62% | 63% | 44% | 50% | 55% | 58% | 50% | 47% | 68% | 67% | 67% | 45% |
| ②の数 | 19% | 12% | 25% | 24% | 42% | 39% | 22% | 18% | 36% | 42% | 12% | 7% | 12% | 4% |
| ①の数 | 0% | 1% | 0% | 0% | 3% | 2% | 1% | 1% | 2% | 1% | 1% | 0% | 1% | 1% |

分析と考察

「7つの力」に関するアンケートでは、概して、「大変よくできる」「できる」の割合が高く、「できない」と答える生徒はほぼ見当たらない。「チャレンジ力」の項目7・8の2項目及び「チームワーク力」の項目11・12の2項目では「よくできる」と感じている生徒の割合が高い。「アイデア力」のうち項目6、「コミュニケーション力・プレゼンテーション力」のうち項目14の「よくできる」と感じている割合が低い。両項目に共通した、「他者へ伝えること」という能力については、低いと感じているようである。本校では「音楽祭」、「自彊祭」、「津商モール」とクラス単位で、活動する学校行事が定期的に行われており、それに向けた話合いや協働の場面が多く設定されている。協力して物事の解決や推進に向けて取り組むことで、他の資質・能力の育成が促されることを期待したい。

2 特別活動の研究

(1) 特別活動を核とした7つの資質・能力の育成

社会人となって求められる知識・技術・ビジネスマナー・起業家精神教育などを学習し、地域経済の活性化に寄与するビジネスリーダーの育成を目標としている本校では、職業や仕事の体験を通じた学びを重視し、地域企業等と連携した学習活動を多く取り入れている。そのため、基礎的な知識・技能の習得と、それらを活用するためのさまざまな資質・能力の育成が必須となっている。そこで、学校と地域、また、学校での学びと実社会の経済活動との関連が図られる販売実習「津商モール」を、それら資質・能力の実践の場として位置付け、特別活動で重視される人間関係形成、社会参画、自己実現を図るための能力を、次の7つの力 ①状況把握力 ②問題発見力 ③アイデア力 ④チャレンジ力 ⑤企画立案力 ⑥チームワーク力 ⑦プレゼンテーション力・コミュニケーション力) で示し(詳細は p. 4) , ホームルーム活動や学校行事において、見通しを持った活動計画や振り返り等を行い、資質・能力の育成を図った。

ア 特別活動で育成する7つの資質・能力の意識付け

特別活動で育成する7つの資質・能力を意識して諸活動に取り組めるよう、「7つの力マグネット」(資料1)を作成し、音楽祭、自彊祭(学校祭)、津商モールの学校行事に向けたホームルーム活動時に提示した。

「本時の目標」の明示とともに、各活動において、身に付けさせたい資質・能力を「7つの力マグネット」を提示する。



7つの力マグネット



マグネットを使用した授業

資料1 7つの力マグネット

イ 特別活動における「目標シート・振り返りシート」の作成

特別活動では「目標シート・振り返りシート」を作成し、授業導入時に本時の目標と内容、振り返り時に評価と気づきや感想をそれぞれ記入させ、活動の記録をすることで、次回や次の行事への見通しを持たせ、つながりを意識できるようにした。「目標シート・振り返りシート」については、身に付ける7つの資質・能力と振り返りや評価の記入について、より効果的なものになるよう平成29年度に改良を行った。(資料2・3)。

「役割分担別目標・振り返りシート」記入見本

10月5日、いよいよ津商モールに向けて、活動が本格化します。このシートを活用し、どんな力をばよいのかを生徒に意識させた上で、LHRを展開してください！！

| 10/5(水) 5限「LHR」 | | | | 10/21(金) 7限「LHR」 | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------------|----|--|---|----|------|
| 学年 | 役割分担 | 内容 | 目標 | 振り返り | 内容 | 目標 | 振り返り |
| 1年 | キッズ 受付・10/7係 | YEGさんと組み合わせ、担当部署や仕事内容を理解する。 | | 【B】気づいたこと・感想 小学生が喜んでくれるように案内を工夫したい。 | 【A】気づいたこと・感想 お金を手当てしてくれてる小学生がうれしそうに、がんばろうと思ってる。お礼も大事にしよう！！ | | |

資料2 平成28年度 目標シート・振り返りシート

| つしゅうレインボープロジェクト 目標&振り返りシート | | | | | | | | | |
|--|--|---|----|-----|----------------|------|--|-------|--|
| 年 | 組 | 番 | 氏名 | | | | | | |
| 行事・活動名 | 音楽祭 | | | | | | | | |
| この活動を通して | アイデアカ・チームワークカ を身につけよう!! | | | | | | | | |
| 7つのカ | 身に付ける「カ」は主に下のようなことを指しています。 | | | | | | | | |
| アイデアカとは... | 5. 前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想すること。 6. 自分たちの取組を、他者に理解してもらうための工夫をすること。 | | | | | | | | |
| チームワークカとは... | 9. チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすこと。 10. チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすこと。 | | | | | | | | |
| ★これらのことを意識して活動に参加しましょう。 | | | | | | | | | |
| 1. この活動での私の役割・立場は | <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> です。 | | | | | | | | |
| ★この欄には、集団の中で自分がどのような立場で活躍するかを書きましょう。 | | | | | | | | | |
| 2. その中で私は | <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> です。 | | | | | | | | |
| ★この欄には、〇〇を頑張りたい、〇〇を大切にしたい、〇〇に挑戦したい、〇〇を身につけたいなどを書きましょう。 | | | | | | | | | |
| 3. 活動の振り返り | <table border="1"> <thead> <tr> <th>日にち</th> <th>作業したこと、内容、感想など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月7日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月10日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 日にち | 作業したこと、内容、感想など | 7月7日 | | 7月10日 | |
| 日にち | 作業したこと、内容、感想など | | | | | | | | |
| 7月7日 | | | | | | | | | |
| 7月10日 | | | | | | | | | |

| つしゅうレインボープロジェクト 目標&振り返りシート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|-------|-----------|---------|----------|-------|-----------|------|----------------------------------|---|---|---|---|----------------------------------|---|---|---|---|-----------------------------------|---|---|---|---|--------------------------------------|---|---|---|---|
| 年 | 組 | 番 | 氏名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 行事・活動名 | 音楽祭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| この活動で重点的に身に付けたいカは | アイデアカ・チームワークカ です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アイデアカとは... | 「前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想すること。」「自分たちの取組を、他者に理解してもらうための工夫をすること。」を指しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| チームワークカとは... | 「チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすこと。」「チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすこと。」を指しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 事後アンケート | <table border="1"> <thead> <tr> <th>アンケート項目</th> <th>とてもよくできる</th> <th>よくできる</th> <th>あまりよくできない</th> <th>できない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5. 前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想することができる。</td> <td>④</td> <td>③</td> <td>②</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>6. 自分たちの取組を、他者に理解してもらうための工夫ができる。</td> <td>④</td> <td>③</td> <td>②</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>9. チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。</td> <td>④</td> <td>③</td> <td>②</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>10. チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすことができる。</td> <td>④</td> <td>③</td> <td>②</td> <td>①</td> </tr> </tbody> </table> 上のカについて、具体的にどのようなことができましたか？ | | | アンケート項目 | とてもよくできる | よくできる | あまりよくできない | できない | 5. 前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想することができる。 | ④ | ③ | ② | ① | 6. 自分たちの取組を、他者に理解してもらうための工夫ができる。 | ④ | ③ | ② | ① | 9. チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。 | ④ | ③ | ② | ① | 10. チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすことができる。 | ④ | ③ | ② | ① |
| アンケート項目 | とてもよくできる | よくできる | あまりよくできない | できない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想することができる。 | ④ | ③ | ② | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 自分たちの取組を、他者に理解してもらうための工夫ができる。 | ④ | ③ | ② | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。 | ④ | ③ | ② | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすことができる。 | ④ | ③ | ② | ① | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 活動を終えて... | 自分自身を振り返り、グループやペアで話し合いをして、お互いを評価してみよう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 他の方からのメッセージを受けて... | <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

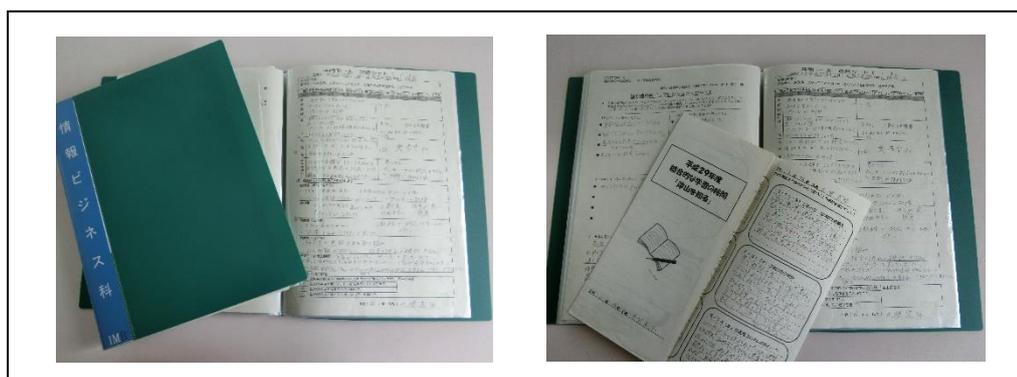
資料3 平成29年度 目標シート・振り返りシート

(2) 学校行事「津商モール」で7つの資質・能力の実践及び定着の検証

7つの資質・能力は学校行事「津商モール」において実践されるものとして、津商モール検討委員会を中心に事前指導、実施、振り返り、事後指導までの計画を策定した。事前のホームルーム活動及び本番当日の目標の設定及び振り返りを実施し、7つの資質・能力の育成及び定着に係る調査を行った。外部からの評価として、地域企業には依頼時に7つの資質・能力の育成を目標としていることを提示し、アンケートの協力を依頼した。また、来場者アンケートを実施し、記述内容から資質・能力の定着を見取ることとした。(詳細は p. 41)

(3) 特別活動、各教科、各学年団等において身に付けさせたい資質・能力育成のための指導計画の明確化と効果的な学びの方法の研究

特別活動、各教科、各学年団等において身に付けさせたい資質・能力ベースで年間指導計画を立て、実施、検証し、効果的な学びの方法を模索した。また、特別活動・学年団等の学習活動における目標シート・振り返りシートやワークシート等、行事ごとの記録をキャリアファイル(進路ファイル)(資料4)に蓄積し、活動での学びの振り返りや次回への改善につなげた。



資料4 キャリアファイル(進路ファイル)

ア 特別活動（ホームルーム活動，学校行事）

(ア) ホームルーム活動，音楽祭，自彊祭（学校祭）等において，身に付けさせたい資質・能力について，特別活動で重視する力を考慮し，年間の指導計画を立てた（資料6）。活動の企画・立案に際しては，他者と協働し，円滑な計画及び実施を図るため，話し合い活動を取り入れた自己決定や集団決定がなされるように計画した。活動事項については，各活動が横断的に連携できるように，学力向上委員会，津商モール検討委員会で年間実施計画を作成し調整を行った（資料7）。

| 平成29年度 特別活動(3学年)年間指導計画・身に付ける資質・能力 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|-----|--------------|--------|-------|-------|---------------|---------|--------|-------------------------|
| | | | | 3 学年 | | | 岡山県立津山商業 高等学校 | | | |
| 月 | 日 | 各活動 | 実施内容 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| | | | | 人間関係形成 | 社会参画 | 社会参画 | 自己実現 | 社会参画 | 人間関係形成 | 社会参画 自己実現 人間関係形成 |
| | | | | 状況把握力 | 問題発見力 | アイデア力 | チャレンジ力 | チームワーク力 | 企画立案力 | プレゼンテーション コミュニケーション力 |
| 1 学期 | | | | | | | | | | 目 標 |
| 4 | | H | 進路LHR(5限と振替) | | | | | | | |
| | | H | クラスLHR | | | | | | | |
| | | 学・体 | 球技大会 | | | | | | | |
| 5 | | 生 | 生徒総会議案審議 | | | | | | | |
| | | 学・文 | 創立記念講演会 | | | | | | | |
| | | 生 | 生徒総会 | | | | | | | |
| 6 | | 学・健 | 薬物乱用防止教室 | | | | | | | |

資料6 特別活動年間指導計画・身に付ける資質・能力

| 「津商モール」を柱に商業高校での学びを実践する ～特別活動を核として商業科及び各教科で取り組む7つの資質・能力の育成～ | | | | | | | | | | | |
|--|---------------------|--------------------------------------|------------------------------|------------------------|--------------------------|----------------------------|-------------|---|-------------|--------------------|--|
| 実施時期 | 1 学年 (1) インターアップ | 2 学年 (総) 総学 | 3 学年 (課) 課題研究 | 商業科 | 各教科 | 生徒会 | 学力向上委員会 | 津商モール検討委員会 | 進路指導課 | その他 | |
| 1 学期 | 4月 | 年間指導計画 活動計画 | 年間指導計画 活動計画 | 年間指導計画 活動計画 | 年間指導計画 ビジネス教育 | 年間指導計画 | 年間計画 対面式 | 全体計画 | 全体計画 | 年間指導計画 進路の手引き配布 | |
| | | 入学式 宿泊研修 津商フレイション4の 習得 | | | シラバス作成 フック・ジ・カフェ (週1) | シラバス作成 フック・ジ・カフェ・英 (週1) | | シラバスの改善 授業力向上研修会 「AL研修会」 授業評価システムの構築 | 目指す能力育成指導計画 | | |
| | 5月 | 中間考査 津商モール全校集会 (1) インターアップ 説明会 | 中間考査 津商モール全校集会 (総) 地域学 | 中間考査 津商モール全校集会 | (商) 販売実習 中間考査 | 中間考査 シラバス提出 | 美術地区総合体育大会 | | 津商モール全校集会 | | |
| | 6月 | (1) 実習 先希望調査 | (総) テマ別研究 | | (商) 商品企画 | | 音楽祭準備 | 公開授業週間 | | インターアップ 説明会 | |
| 7月 | 期末考査 | 期末考査 | 期末考査 | (商) 商品開発フレイション 期末考査 | 期末考査 | 音楽祭 | | | | | |

資料7 特別活動年間実施計画一覧

(イ) 特別活動を始め，各教科，各学年団等で身に付けた資質・能力が，「津商モール」において生徒に主体性を持って実践され，その振り返りにより定着しているかどうかを検証し，更なる効果的な学びの方法を研究する。（詳細は p. 43）

イ 各教科

(ア) 各教科の「〇〇科で育成する力と指導・評価の方法」とシラバスを作成する，その際7つの資質・能力の育成を念頭に年間指導計画を立て，本研究で育成する7つの資質・能力との関連を示した。授業では目標の明示とともに7つの資質・能力を意識した授業を展開した。生徒の授業評価アンケートにおいても，それらの活動により資質・能力の定着が意識されていることが分かる。（詳細は p. 56）

(イ) 各教科では基礎的な知識・技能の習得とともに，主体的な学びにつながる取組を行い，単元の中で①～⑦の能力の育成や定着が図れるように授業を工夫した。（詳細は p. 48）

ウ 専門科（商業科）

知識深化と能力育成を図り、実践に資するため、各学年で実施する専門科目において目指す資質・能力を育成するための学習活動を検討する。専門科目では、特に特別活動による実践が期待される下記の科目で身に付けさせたい資質・能力の育成について研究を行った。

（詳細は p. 58）

（ア）1年生

科目「ビジネス基礎」では、ビジネスに対する心構え、コミュニケーションの基礎、情報活用や状況把握、問題解決の方法を身に付けさせる。そのために言語活動、ICT活用を学習活動に積極的に取り入れ、必要な資質・能力の育成を図った。

（イ）2年生

「マーケティング」において、顧客満足の実現を目指すマーケティング活動を計画的、合理的に行うため、市場調査・商品計画などの学習活動を通じて状況把握、問題発見、アイデア等の力の育成を行った。

（ウ）3年生

「総合実践」において、各分野で学んだ知識・技術を総合的に応用し、成果につなげるための資質・能力の育成及び主体的に取り組む態度を養った。

「商品開発」において、地元企業と連携した商品コンセプトの考案、企画及びプレゼンテーションの実施を通じてアイデア力・企画立案力、また、商品デザインなど視覚に訴えるコミュニケーション手段の技法の習得によりコミュニケーション力育成を行った。

「広告と販売促進」において、適切な販売促進について、それらを主体的、創造的に行うことや販売者と消費者間のコミュニケーション等の資質・能力の育成を図った。

「課題研究」はこれら育成された資質・能力の集大成の場として位置付けた。

エ 各学年

学年団を軸として諸活動を整理し、各活動や教科との連携を図る。特に3年生は「自彊祭」、 「津商モール」の主導者として、各活動において必要とされる資質・能力の違いに気づき、話し合い活動を重ねながら課題の洗い出しやその解決に向け、主体的に行った。

（ア）1年生

① 全員実施の「インターンシップ」を活用し、7つの力のうち状況把握力、コミュニケーション力、チャレンジ力、チームワーク力の育成を図る。

② 「※津商プレゼンルール」（※「説明型・説得型プレゼンテーション技術向上のためのルール」の名称）の習得後、「インターンシップ」の報告作成に活用し、発表を行う。

（イ）2年生

① 全員履修の「総合的な学習の時間」での地域理解・地域貢献を中心とした調査・分析を通して、7つの力のうち問題発見力、アイデア力、企画立案力、コミュニケーション力の育成を図る。

② 「修学旅行」において販売実習を企画し、販売商品を選定するための事前調査及びリサーチ、実際の販売などに活用する。

（ウ）3年生

① 家庭科「家庭総合」と連携し、「孫心弁当」（宅配ボランティア活動）を活用し、実施までの教科の学習で、問題発見力、アイデア力、チャレンジ力、企画立案力、チ

ームワーク力、プレゼンテーション力・コミュニケーション力の育成を図った。（詳細は p. 32）

(4) 発達段階、学習活動に応じた育成する7つの資質・能力の焦点化・構造化及び活動計画の作成

1年目の課題を踏まえ、年度当初の「7つの資質・能力に関するアンケート」及び「学習に関するアンケート」の分析結果より、特別活動及び各教科等で、発達段階あるいは学習活動に応じて「身に付けさせたい資質・能力」を焦点化・構造化した上で、学習活動の計画を策定した。

ア 1年生

商業高校生活での学びでは、基礎的・基本的な知識・技術の確実な習得が重要となるため、チャレンジ力や状況把握力やコミュニケーション力を焦点化し育成する。それらを1年生全員実施のインターンシップにおいて、資質・能力の実践につなげた。

イ 2年生

基礎的・基本的な知識・技術の向上に加え、「マーケティング」、検定取得等で育成されるアイデア力やチャレンジ力の育成を焦点化。それらを「自彊祭」での模擬店や「津商モール」での店舗経営につなげた。

ウ 3年生

2年時の店舗経営の経験を踏まえ、企画立案力、チームワーク力またプレゼンテーション力を身に付け、自身の進路選択にもつながる実践的な学びを意識し、取り組んだ。

エ 全学年

「音楽祭」では、クラス単位の活動のためアイデア力・チームワーク力を、「自彊祭」では、クラスまたは団（縦割り、各学年1クラス）単位の活動のため企画立案力・コミュニケーション力・チャレンジ力・アイデア力を焦点化し、取り組んだ。

オ 津商モール

店舗経営に係るクラス、また、係別に7つの資質・能力をそれぞれ焦点化し、身に付けさせたい資質・能力の定着を事後のアンケート調査により検証した。

(5) 特別活動と各教科等の諸活動における身に付けさせたい資質・能力育成の横断的な学習の計画及び連携によるPDCAサイクルの確立

ア 特別活動の取組

「身に付けさせたい資質・能力」を示した目標シート・振り返りシートを作成し、事前のホームルーム活動において生徒に記入させた。これにより生徒自身が自分の役割や立場と資質・能力の関連を意識し、活動の見通しを持った取り組みとなるようにした。また、振り返り時に、ペアやグループでそれらの活動を相互に評価し合う場を設けた。

イ 各教科の取組

「主体的・対話的で深い学び」の実践を目指し、授業改善を行った。全教員3人ずつの研究班を編成し、生徒の「主体的な学び」と「7つの資質・能力の育成」を図った。本年度は更に「言語能力」と「情報活用能力」の育成を意識した学習指導案を作成し、公開授業を年1回以上実施した。班員は相互に授業を参観し、実施後に班ごとに研究協議を行い、成果や課題をまとめ、授業改善に活かした。（詳細は p. 47）

ウ 特別活動と各教科等をつなげる取組

(ア) 特別活動、共通フォームの学習指導案は教科・科目の違いを乗り越え、教科横断・学年

縦断で資質・能力を育成しようとする、教員のチーム性の育成につながった。

- (イ) 商業科で学ぶ知識・技術は、実社会で活用する場面を想定し実践することで、目指す資質・能力の定着が図られるため、学校行事「津商モール」を学びの実践の場として位置付けることに意義があった。
- (ウ) クラス毎の店舗経営では、ホームルーム活動での話し合いと協働による、よりよい運営のための経営戦略、地域企業との取引及び連携、地域の人々への広報活動を目指した。これらは各教科等における「7つの資質・能力」の育成を意識した学びを発揮する場としての機能も果たした。
- (エ) 各教科において、「〇〇科で育てる力と指導・評価の方法」を策定し、「育てる力」、「7つの資質・能力」の育成との関連を明確にし、シラバスを作成した。
- (オ) 特別活動を始め各教科の「7つの資質・能力」に係わる諸活動においては、その定着が測れるよう、学期・行事ごとに「学習に関するアンケート」、「7つの資質・能力に関するアンケート」を実施し、数値の伸びや記述により変容を見取った。また、事前事後の学習の取組状況や振り返りシート等による検証を行い、次年度の計画に資することができるようになる等、授業や各取り組みの位置付けや流れを示す(図1)ことでPDC Aサイクルが確立された。

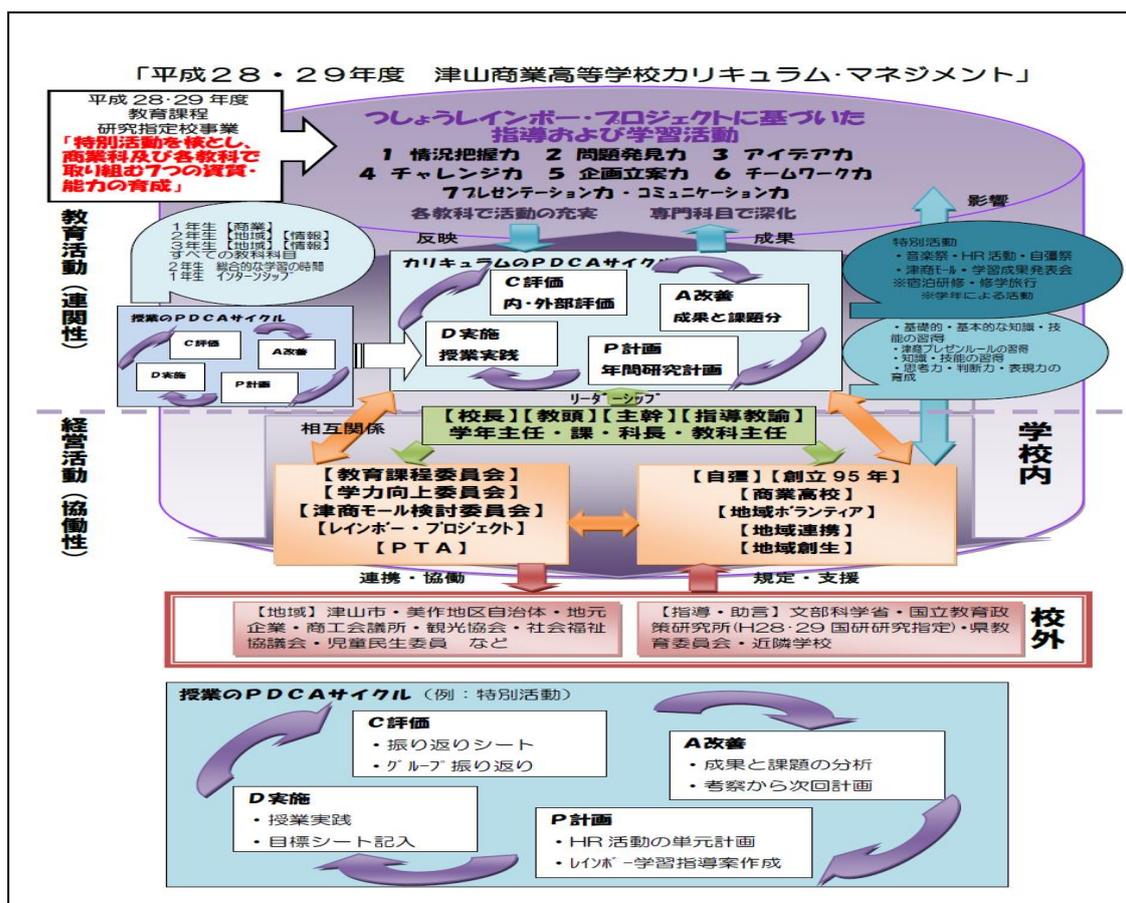


図1 特別活動と各教科におけるPDC Aサイクル

3 資質・能力の育成に係る学校行事

(1) 講演会

ア 演 題 「震災から学ぶ」

対 象 全校生徒

日 時 平成 29 年 4 月 21 日 (金)

講 師 国立教育政策研究所教育課程センター 教育課程調査官 長田 徹先生

内 容 「3. 1 1 東日本大震災」での先生ご自身の体験をもとに、震災の生々しい爪痕を映した写真とともに当時の様子を説明していただきました。その中で、誰かのために自分で考えて動いた同年代の生徒たちの行動や活動について触れられ、その行動が日々の生活の中での学びからなされたものであったこと、クラスメイトや地域の人々との協力の中から生まれたものであることを、児童生徒の言葉を通じて伝えてくださいました。この講演で、多くの生徒が感じていたのは「悲しい」「怖い」だけでなく、「今の自分ならどうしただろう」、「今の自分なら何ができたろう…」と震災を経験した彼らの行動や言葉を素直に尊敬するとともに、改めて、自分自身の行動力、思考力を振り返り、将来の生活の中で直面する課題に向け、自分達が身に付けるべきこと、やるべきことについて考え、高校での学びの大切さを強く意識することができました。(写真1)。



写真1 講演の様子

生徒の感想 (抜粋)

- ・講演で一番大切だと思ったことは、人間は一人では生き抜くことができないということです。誰かの支えや助けがあってこそ、過酷な状況を生き抜き、人として成長できるということ。そのためにも、日々こうして学校で学べることへのありがたみを忘れず、この中で自分にできることは何かを考えながら学び、強い心を持てるよう努力したいと思います。(2年男子)
- ・被災地では高校生が誰かの力になりたいと感じ、多くの人を助けていた。震災でも、学校で学んだことがとても役に立っている。と話していた。学校での勉強が、非常時にも活かされていると知り、学べることのありがたさとともに大切さが実感できた。(3年女子)
- ・自分たちと同じ高校生がそれぞれ協力して頑張っていたのが伝わってきました。普段から防災訓練などもきちんとしているということでした。先生の話をちゃんと聞いていたこと、それを活かしていたこと本当にすごいと思いました。日々の積み重ねの大切さを実感することができました。意味がないかもしれない、使うことがないかもしれないと思っていることでも役に立ったりその意味を感じたりする場面があるかもしれないということに気付きました。日常生活でいい加減にしてしまっているところや自分で意味がないと決めつけていることもあるので、日々の勉強や積み重ねを大切にしていきたいと思います。(2年女子)

イ 演 題 「～What's communication?!～」

対 象 1年生全員 (実施はクラス単位)

日 時 平成 29 年 5 月 16 日 (火) 9:50～12:40 (各組 各 50 分)

講 師 実践コミュニケーション研究所

所長・代表 コミュニケーショントレーナー 西田弘次先生

- 内 容 コミュニケーショントレーナーである西田先生には、コミュニケーションが「わかる」ではなく「できる」ようになるために、どのような力をどのようにして身に付けるかを理論に基づき、ペアワークや体を使った体験により実践的に身に付ける方法を教えていただきました（写真2）。（以下は内容の抜粋）
- ・「力」を身に付けるためには①反復（繰り返す）、②負荷（チャレンジ）、③意識が必要。
 - ・コミュニケーションとは自分の気持ちや考えを伝えたい人に届け、相手の気持ちや考えを受け取ること。
 - ・コミュニケーションに必要なのは（キャッチボールの例えで）発信（相手をよく見て、取りやすいボールを投げてあげる）と受信（相手がボールを投げやすいような状態を作ってあげる）。イライラしていたり、相手のことを考えていなかったりしたらうまくボールは投げられない。
 - ・受信力を高めるには①身体、②目、③反応を意識する。
 - ・発信力を高めるには、【ことば】「あいさつ」「ありがとう」「ごめんなさい」「おねがいます」の基本のことばをしっかりと使えること。【ことば以外】では①パーソナルスペース、②セルフプレゼンテーション、③ボディランゲージ、④パラランゲージを認識し、意識すること。
 - ・人生の中で大切なことは、生まれた順番に逝くということ。自分で命を断つようなことはしてはいけない。
 - ・世の中のデジタル化が進み、SNS等の普及でコミュニケーションもデジタル化している。しかし、直接会って身体を向けて目を見て反応しながら コミュニケーションをとることがより大切。



写真2 講演の様子

生徒の感想(抜粋)

- ・人とのコミュニケーションはあまり得意ではない、でもこの先きっと多く求められると思いきい不安だった。しかし今日の講演を受けて、以前よりも不安がなくなった。また、不安話したことの無い相手に、目をつぶって身を預けるのは結構怖かったけど、少し話した後だったら最初の時よりも安心感があった。少し会話するだけで人との関係の築き方も変わってくるのが身をもって知れたので、普段の会話や挨拶をしっかりとしていきたいと思った。（1年女子）
- ・コミュニケーションは、最初は難しそうでも、たくさんの人の話を聞くうちにだんだんと良い話の聞き方ができるようになることが分かりました。これから社会に出ていくうえで、最も大切な力だと思うので、高校3年間でしっかりと身に付けていきたい。（1年男子）

- ウ 演 題 「What's communication?!」～しゃべり場！貴方の質問に答えます～
- 対 象 2・3年生希望者
- 日 時 平成29年5月16日（火）10:50～12:40
- 講 師 実践コミュニケーション研究所
 所長・代表 コミュニケーショントレーナー 西田弘次先生
- 内 容 昨年度の「～What's communication?!～」を体験した2・3年生対象にQ&A方式で、実社会で必要なコミュニケーションに関する自分自身の様々な課題を解決する方法のヒントをいただきました。「初対面の人に好印象を与えるにはどうすればよいか。」「人前で話すときに、とても緊張してしまう。緊張しないためにはどうすればよいか。」等、生徒の具体的な質問に対し、言語だけでなく、笑顔、相手の眼を見る、姿勢など非言語の重要性や「緊張するのはよいこと。多少は緊張をしたほうが良い。普段から緊張感を持って、緊張に慣れておく」など、異なった視点や新しい見方を生徒に投げかけていただきました。また、姿勢とメンタルの関係など具体例を交えて生徒の質問に答えていただき、生徒は社会に出る自分たちの将来像と重ね合わせながら、夢を実現するための取組を継続するためには（例えば勉強を）、①邪魔なものを排除（勉強部屋にいらぬものは置かない）。②すぐに取り掛かれるように準備する（ノートも開いたまま、鉛筆も出したまま）。③10分間続ける（机の前に座って耐える）。④3週間続ける（習慣化する）。目標の大きさを考える。目標が大きすぎると頑張れない。小さな目標を大事にする。よしっという気持ちはやる気を引き出す、等、すぐに実践できそうと生徒が実感し、将来の目標の立て方とその取組に自信を持ち臨めるようになりました（写真3）。



写真3 講演の様子

生徒の感想（抜粋）

- ・人見知りをするタイプで、自分から話しかけたり、話題を振ったりするのが苦手です。しかし、コミュニケーションを取るきっかけや方法が学べたので、これを意識して自分から積極的に交友関係を広げ、社会に出て色々な人とコミュニケーションが取れるようにしたい。これから進学に向け面接もあるので、印象をよくするためにも意識的に練習・反復しながら声や笑顔や姿勢に気を付けていきたい。（3年女子）
- ・将来美容師を目指している。将来的には、聞き上手になって、お客様に「またこの人にやってもらいたい」「この人いいな」と思ってもらえるような美容師になりたいと思えるようになった。そのためには「笑顔で姿勢良く接客する」を常に心掛け、挨拶する等、日々実践できるような簡単なことからがんばろうと思った。（2年女子）

(2) コミュニケーション・ワークショップ（文化芸術における子供の育成事業）

ア 題 目 ～演劇的ワークショップ「イスに座って本を読んでいる『きたむー』を椅子から立たせよ」～

対 象 3年生全員（1組38名 2組37名 3組40名 4組41名）

日 時 第1回 7月 7日（金） 各クラス50分 作戦会議

第2回 7月10日（月） 各クラス50分 本番1回目

第3回 7月11日（火） 各クラス50分 本番2回目

講 師 特定非営利活動法人パブリック

「なるさん」こと林 成彦氏 「きたむー」こと北村 耕治氏

「コーちゃん」こと河野 悟氏 「きっこちゃん」こと菊池 祐美子氏

内 容 ワークショップは3人ないし4人のチームに分かれて「本に集中する『きたむー』を時間内にイスから立たせる」という作戦を決行する。「なるさん」こと、林成彦先生の指導のもと、「きたむー」こと、北村耕治先生との90秒のやりとり（演劇）の中で、「きたむー」の心を動かし、読書を中断させて椅子から立たせるといったもの。

イ 授業の様子

○1日目〈7月7日（金）〉

①オリエンテーション（講師自己紹介、ねらい、注意事項）、②チーム分け、③「『きたむー』をイスから立たせる」のルール説明、④チームに分かれて作戦会議（役割分担、人物設定と場所の設定、チーム内練習）、⑤リハーサル、⑥リハーサルの振り返りとブラッシュアップ

アイスブレイクの後、今回の授業の目的や進め方の説明を受ける（写真1）。チームのメンバーは「リーダー」「しゃべる人」「しゃべらない人」「きたむー役」のいずれかを分担する。全員でどんな劇にするか、作戦をたて練習をする（写真2）。出演者は、「しゃべる人」と「しゃべらない人」の2人。本番では「きたむー」には事前に状況を知らせないため、90秒の演劇の中でそれが伝わるようにするにはかなりの工夫を必要とする。リハーサルは、各グループの「きたむー役」が入れ替わって行われた。また、演出家や俳優といった、普段は接する機会のないタイプの大人との出会い（写真3）に、生徒の中には興奮と緊張の両方が伺われた。チーム分けを自分たちに任されたことで、より主体的に作戦会議に臨むことができていた。



写真1



写真2



写真3

○2日目〈7月10日（月）〉

①チームに分かれて作戦の最終確認、②1チームずつ「『きたむー』をイスから立たせる」の作戦実行、上演、③講師からの講評、④チームに分かれて作戦会議

どのグループも「きたむー」を立たせようと、熱演を繰り広げるが、結果としては全てのチームが制限時間内に「きたむー」をイスから立たせることはかなわなかった。しかし、生徒たちはよく話し合い（写真4）、作戦の準備を整え、本番では「きたむー」とのコミュニケーションに真剣に取り組んでいた（写真5）。「きたむー」の反応は多くの場合、生徒たちにとって想定外のことであったろうが、よく踏みとどまり、しっかりと「きたむー」に向き合っていた（写真6）。林先生は、「きたむー」の心を動かすヒントは、童話

「北風と太陽」にあるということを説明し、自然に「きたむー」の心が動いていくような設定や場面を考えていくことが大切と話された。



写真4



写真5



写真6

○3日目〈7月11日(火) 会場：講義室〉

①チームに分かれて作戦の最終確認, ②1チームずつ「『きたむー』をイスから立たせる」の作戦実行, 上演, ③講師からの講評, ④チームに分かれてワークショップ全体の振り返り, ⑤講師からのまとめ

前回の体験を踏まえ、生徒たちは一層真剣みを増した態度で作戦づくりに取り組んでいた。発表された作戦はバラエティに富んでおり、また「立ってください」「来てください」「助けてください」という直接的な要求ではなく、「きたむー」が自分から立ちたくなるような働きかけ方がよく工夫されていた(写真7)。3チームがミッションを達成したが、「きたむー」が立った瞬間は観客も含め生徒たち全員が歓声を上げていた(写真8)。



写真7



写真8

ウ 生徒の感想

世の中には色々な人がいると再認識した。初めは演じるのも嫌で、作戦を考えるのも大変だったが、実際にやってみると作戦を立てるのも演技するのも本当に楽しく、他の人たちがやるのを見るのも面白かった。先生の演技は面白かったが、実際にこんな人がいたら嫌だろうと思った。しかし、社会に出ると色々な人がいるのが当たり前なのでどう接していくか考えさせられる時間となった。(男子)

エ 成果

初めは戸惑っていたようだが、講師の先生の指導や話に引き込まれ、どのグループも積極的かつ主体的に活動した。また、グループ内の話し合いの場面では、今までより相手のことを考えながら自分の意見を述べるできるようになったという生徒もいた。この活動を通して生徒達は、コミュニケーションの目的は相手を知ることであり、相手を変えようとする前に、自分が変わっていくことが大切だということを実感した。卒業後は多くの生徒が実社会に出、様々な人々と関わりあっていかなければならない。この体験によって、自分たちの価値観では測れない人々との関わり方、それに対峙する力の必要性について身をもって体験することができた。また、仲間と一つのステージを作り上げるという楽しさや他のグループの発表をドキドキしながら鑑賞する等、楽しく取組むことができ、更にその力の定着が図れる良い学びとなった。

教員にとっても50分の授業を組み立てる上で、目標の明示や授業の流れが分かる工夫や生徒が動きやすい仕掛けがなされており、授業展開の参考になった。

(3) 音楽祭

ア 音楽祭とは

クラス発表、学年合唱の二つの発表形態があり、クラス発表は歌、ダンス、楽器演奏など音楽祭にふさわしい内容をクラスで企画し、クラス全員で発表する。学年合唱は学年で選曲し、学年全員で合唱する。クラス発表では、①声量のあるまとまった声であるか ②アイデアは独創的か ③パフォーマンスにまとまりがあるか、学年合唱では①声量のあるまとまった声であるか ②ハーモニーがきれいか ③姿勢、並びはよいか等の観点により審査されるため、文化委員を中心に、高得点を目指し企画・準備・練習を行う。

イ ねらい

- ・文化委員を中心としたクラスの話合いと協働によって、企画・準備・練習を行うことで、アイデア力の育成を図る。
- ・企画・準備された内容を、クラス全員で共有し、練習を行い発表につなげることでチームワーク力の育成を図る。

ウ 実施日時・会場（平成 29 年度）

平成 29 年 7 月 14 日（金）9：30～13：00 ベルフォーレ津山（アルネ津山 5F）

エ 事前・事後の活動

| 月 | 日 | 活動の場 | 活動の内容 |
|-----|-----------------|----------|--|
| 7 月 | 7 日 (100 分) | 学級 | ・音楽祭の意義を知り、音楽祭当日までの活動を確認する。 ・一人一人の役割を確認し、活動の計画を立てる。 ・目標シートの記入 |
| | 10 日 (100 分) | 学級 | ・自分の役割を確認するとともに、練習を通して、積極的にアイデアを出し合う。 ・自分の役割や活動について振り返りを行い、できたことの確認や次回の活動の見通しを持つ。 |
| | 11 日 (100 分) | 学級 | ・自分の役割を確認するとともに、練習を通して、クラスの取組がより伝わるようアイデアを更に出し合う。 ・自分の役割や活動について振り返りを行う。 |
| | 12 日 (100 分) | 学級 学年 | ・自分の役割を確認するとともに、練習を通して、チームワークを高める。 ・自分の役割や活動について振り返りを行う。 |
| | 13 日 (200 分) | 学級 学年 | ・クラスの最終練習午後（学年練習） ・文化委員会・生徒会執行部によるベルフォーレ前日準備 |
| | 19 日 (50 分) | 学級 | ・事後アンケート（アイデア力・チームワーク力） ・振り返りシートの記入 |

オ 事前指導

- (ア) 音楽祭は文化委員を中心に実施するため、文化委員会を開催し、各クラス文化委員 2 名を招集し、要項を元に、音楽祭の目的、クラスでの活動、文化委員の役割等を確認させた。
- (イ) 音楽祭の活動を通してアイデア力、チームワーク力の育成を目標とするため、ホームルームの自主的な活動となるよう、文化委員の主導により、クラスでの話合いや協力を通して発表の企画・準備・練習・発表に向けた活動に取り組ませた。
- (ウ) 「目標&振り返りシート」を活用し、以下の活動を行った。
- ①活動を通して身に付ける資質・能力を明示し、目標を立てさせた。
 - ②活動で自分の役割・立場を自分で考え、その中で頑張りたいこと、大切にしたいこと、挑

ク 音楽祭 事後アンケート結果

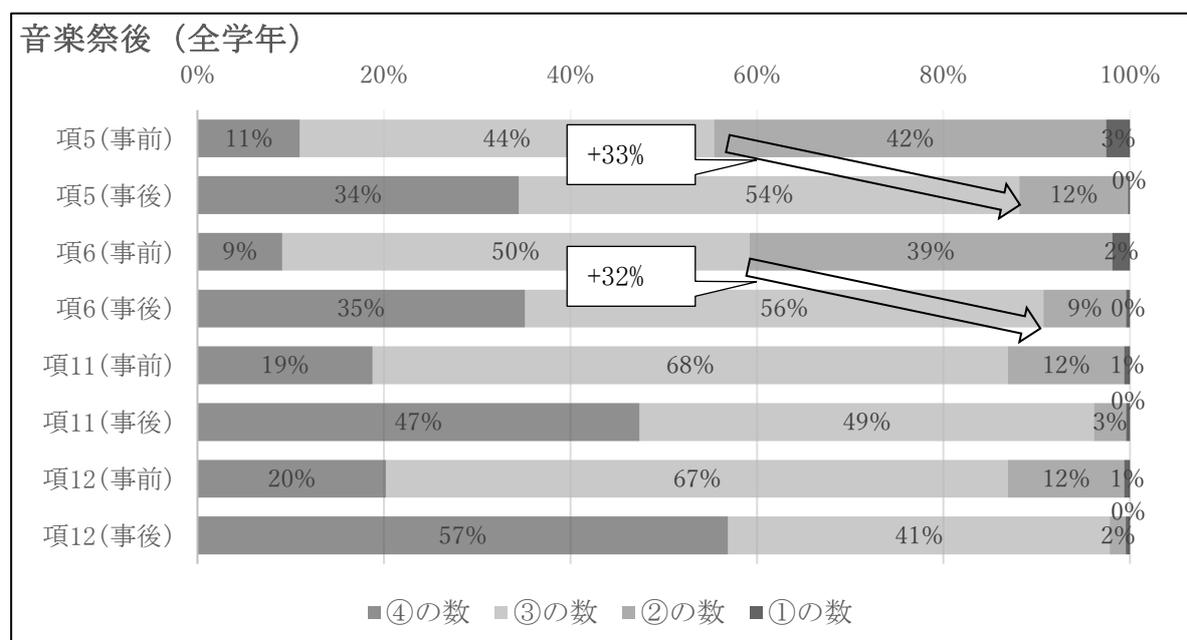
音楽祭 7つの力に関するアンケート (実施日：平成29年7月19日)

データ数：470名分 (1年生：157名 2年生：158名 3年生：155名)

身に付けさせる7つの資質・能力については、特別活動ごとに焦点化して育成を図ることとし、音楽祭では7つの資質・能力のうち「アイデア力」、「チームワーク力」(表1)について、アンケートによりその変容を測った。

事前調査を7月7日、事後調査を7月19日に実施した。項目に対して「④とてもよくできる」、「③よくできる」、「②あまりできない」、「①できない」で回答させたところ、下のような結果であった。

| | |
|---------|--|
| アイデア力 | 項目5. 前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想できる。 |
| | 項目6. 他者に自分たちの取組を理解してもらうための工夫ができる。 |
| チームワーク力 | 項目11. チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。 |
| | 項目12. チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすことができる。 |



従来、まじめで、勤勉な生徒が多いと感じられる本校の生徒は、チームの中で自分の役割をしっかりと果たそうという意識が高く、「チームワーク力」の項目11, 12については、事前調査でも9割近い生徒がチーム内で役割を果たし、また、協力できると感じており、実施後には、生徒のほぼ100%ができると認識しているという結果であった。「アイデア力」の項目5, 6については、ともに、「たいへんできる」と感じている生徒が30%以上の伸びを示した。生徒の振り返りシートの記録からも分かるように、文化委員を中心としたクラスの話合いを通して、文化委員や他のクラスメイトへの協力という態度が養われ、それぞれが話し合いの中で活発にアイデアを出し合うことで、音楽祭の成功という皆の目標が達成されると実感でき、更なる協力へつながっていったと思われる。このことから、今回焦点化した2つの資質・能力は密接なつながりを持っていることも分かった。

(4) 自彊祭

ア 自彊祭

文化の部，体育の部の2部。各学年縦割りで，赤・青・桃・緑の四つの団を構成する。団長・副団長が全部門の様子を掌握し，1・2年生と連携を取り，団の取組をとり仕切る。会計係を置き，団会計，クラス会計で予算に応じた計画を立て，予算の執行を行う。

○自彊祭 文化の部

学年別にステージ（3年生），模擬店（2年生），展示（1年生）の内容を割り振り，クラス毎に企画・準備・制作・販売を行う。

○自彊祭 体育の部

応援係は応援合戦の内容を企画し，団員に周知する。従来の型にとらわれない新しい方法を工夫することが望まれる。太鼓係，衣装係は地元「鶴丸太鼓」の指導者に指導を仰ぎ，地域伝統芸能の習得とその披露，また，それを演出する衣装を創作し，応援合戦を盛り上げる。パネル係は団のカラーを表出した大パネルを作成する。

イ ねらい

- ・生徒が主体的に参加し，創意工夫を凝らした取組を行うことを通して，アイデア力・企画立案力の育成を図る。
- ・実施に向けた取組において，活発で積極的な話し合いによりコミュニケーション力を育成し，生徒同士の友情や和を育む。
- ・規則を守り計画性を持って最後まで粘り強く活動しようとするチャレンジ力を育む。

ウ 実施日時（平成29年度）

文化の部：平成29年9月6日（水）8:30～14:00

体育の部：平成29年9月7日（木）11:00～15:00（雨天により遅らせて開始）

エ テーマ 平成29年度「一念発起 初めの第一歩 EPISODE 1」

オ 事前・事後の活動

| 月 | 日 | 活動の場 | 活動の内容 |
|----|-----|----------------|---|
| 6月 | 29日 | 生徒会 | 中央委員会において自彊祭テーマの募集を行う。 |
| 7月 | 6日 | 生徒会 | 中央委員会＋各団団長・副団長・体育の部責任者（3年） |
| | 12日 | 学級・団 | 各団役割分担決定 |
| | 19日 | 学級・団 | 自彊祭結団式 企画書1次締め切り 自彊祭実行員会・予算原案提出・団費支給 |
| | 21日 | 団 | 予算修正案提出 |
| | 31日 | 学級 (50分) | 目標シート記入 企画書2次締め切り 体育の部選手決定 |
| 8月 | 28日 | 学級・団 (50分) | 午後準備・練習 |
| | 29日 | 学級・団 (150分) | 1日準備・練習 |
| | 30日 | 学級・団 (150分) | 1日準備・練習 |
| | 31日 | 学級・団 (100分) | 1日準備・練習 応援席設営 体育の部係別打ち合わせ |

| | | | |
|----|----|---------------|-------------------------------------|
| 9月 | 1日 | 学級・団 (50分) | 体育の部係別 反省会・打ち合わせ |
| | 4日 | 学級・団 (50分) | 1日準備・練習（予行予備日） |
| | 5日 | 学級・団 (50分) | 1日準備・練習 文化の部会場準備・パネル設営・諸帳簿チェック |
| | 6日 | 全体 | 文化の部終了後，体育の部準備 |
| | 7日 | 全体 | 体育の部 |
| | 8日 | 全体 学級・団 | 片付け・清掃・全校集会・解団式 LHR 事後アンケート・振り返り |

カ 事前指導

- ・中央委員会を受けて，自彊祭の文化の部，体育の部のそれぞれの趣旨に合った「テーマ」を全校生徒に考えさせた。（テーマは，文化の部では自彊祭にかかわる全ての人たちが喜びを感じられる。体育の部では全校生徒が一致団結できるテーマの案を募集する。）
- ・音楽祭同様，自彊祭で身に付ける力について目標シートで確認し，その活動の中での役割・立場を明確にさせた。また，その役割において，自分が頑張りたいこと，大切にしたいこと身に付けたいことなどを考えさせた。
- ・自彊祭に向けたホームルーム活動，団活動において，振り返りを行い，実施に向けた課題に気付かせたり，次回への見通しを持たせたりした。

キ 事後指導

- ・7つの力アンケートと振り返りシートを記入させ，自分の役割，また，身に付いた力について自己評価をするとともに，他者からの評価を受け，気づきや，これからの目標について考えさせた。

ク 生徒の振り返りシートより

- ・パネル作業で自分の考えや指示をうまく伝えることができず，悔しい思いもしたけど，自分なりにどうしたら伝わるのか考えたり実践したりすることで，今後役立つ力を身に付けられたと思う。（3年女子）
- ・アイデアを出し合い，テーマに沿って工夫することができた。展示を見に来てくれる人に楽しんでいただけるようにできた。（1年女子）
- ・皆に指示を出すことは大変だということが分かった。このことで，言われたことだけでなく，大変そうだったら手伝ってあげたり，気を配ったりすることができるようになったと思う。また，クラスのみならず協力して取り組めたことが良かったと思う。（3年女子）
- ・ハプニングがあり，皆のやる気が下がっていたが，団長にかけられた言葉で，全員の士気も上がった。団長の思いがすごく伝わり，コミュニケーション力の大切さがよく分かった。どんなに混乱していたり，悔しい思いをしていたりしても，団結していれば，最高のものにできると実感した。（2年女子）
- ・練習を重ねていくうちにクラスが団結していく感じがとてもよかったと思う。お互いに言い合いになったりもしたが，この自彊祭をよくしたいという共通の意識や考えを持ってやることができた。全校生徒が一生懸命やっている姿を見て，自分も頑張ろうと思えた。この経験は社会人として，また，自分の人生としても役に立つと思う。また，この経験をクラス，全校生徒で津商モールに活かしていく。（3年男子）

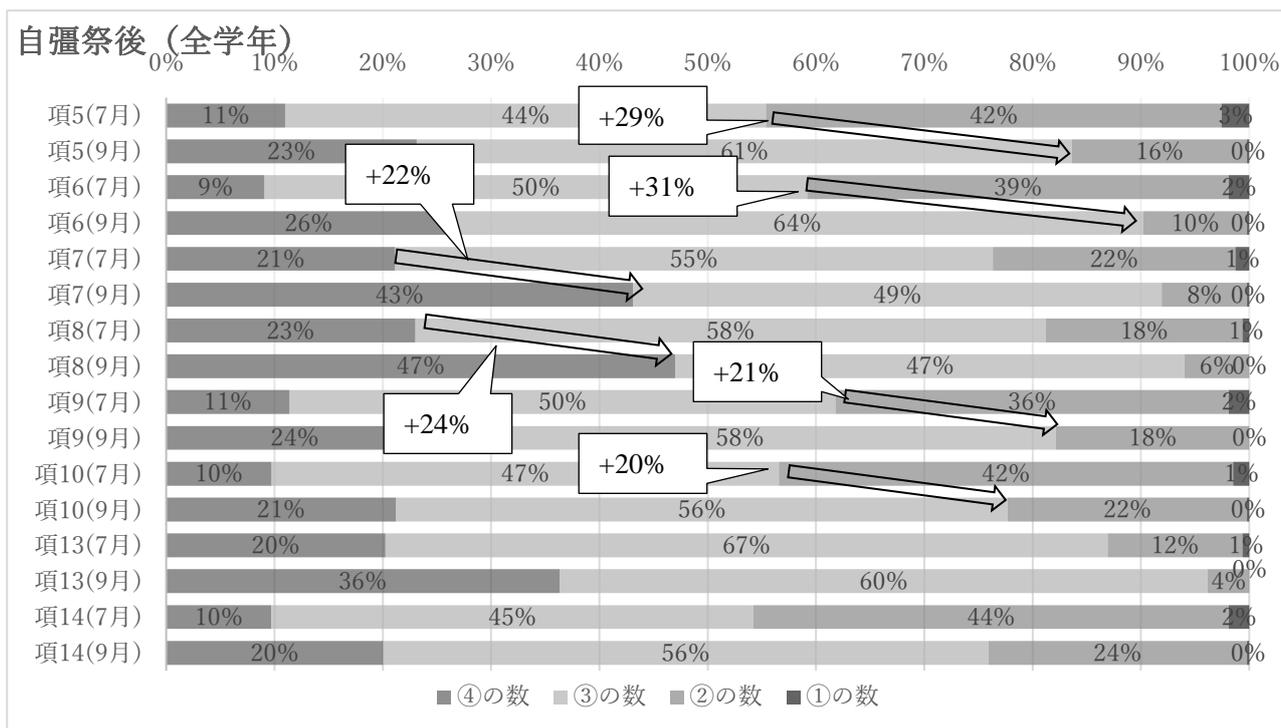
ケ 自彊祭 事後アンケート結果

自彊祭 7つの力に関するアンケート (実施日：平成29年9月8日)

データ数：470名分 (1年生：159名 2年生：157名 3年生：154名)

自彊祭では7つの資質・能力のうち「アイデア力」, 「企画立案力」 「コミュニケーション力・プレゼンテーション力」 「チャレンジ力」 (表1) について, アンケートによりその変容を測った。項目に対して「④とてもよくできる」, 「③よくできる」, 「②あまりできない」, 「①できない」で回答させたところ, 下のような結果であった。

| | |
|-----------------------|--|
| アイデア力 | 項目5. 前例にとらわれず, 新しい視点で物事を発想できる。 |
| | 項目6. 他者に自分たちの取組を理解してもらうための工夫ができる。 |
| 企画立案力 | 項目9. 目標達成に向け, 見通しを持って計画を立てることができる。 |
| | 項目10. 目標達成に向けて, 遂行するためのより良い手順を提案できる。 |
| コミュニケーション力・プレゼンテーション力 | 項目13. 他者の意見を聞き, 正しく理解することができる。 |
| | 項目14. 自分の考えを, 相手がわかるように説明することができる。 |
| チャレンジ力 | 項目7. 初めての体験に対しても, 積極的に取り組むことができる。 |
| | 項目8. やり始めた事柄に対して, 粘り強く最後までやり遂げることができる。 |



音楽祭と同様, アイデア力の伸びが大きく, クラスごとのいろいろな工夫を凝らした展示や模擬店, ステージ発表での経験が能力の育成とその時間につながっている。また, 様々な制作物を限られた期間で仕上げなければならないため, 見通しを持って計画を立てたり, 遂行したりするためのより良い手順を提案できたと感じるなど, 企画立案力の伸びも大きくなっている。チャレンジ力については「とてもよくできる」と答えた生徒が大きく伸びている。学年ごとで担当する内容が異なっているので, 経験値を活かすことが難しい。それゆえにチャレンジの実感は強いものがあると思われる。

(5) 孫心弁当 (宅配ボランティア活動)

ア 孫心弁当

平成3年から続く、津山市社会福祉協議会と本校家庭クラブの共同主催で、城北地区民生児童委員協議会の方に御協力をいただき、城北地区在住の高齢者の方に手作り弁当を直接お渡しするボランティア。献立は、本校家庭クラブ員(3年生)155名がグループ毎に弁当の献立を作成し、コンテストを行い投票によって決まったものを原案とした。当日の調理は3年生希望者(66名)が担当し、約100食の弁当を手作りする。

イ ねらい

学校家庭クラブ(高校で家庭科を学ぶ生徒が学校単位で活動する組織)活動の一環として、高校生が手作りした弁当を高齢者の方にお届けすることに携わり、高齢者福祉に関心を持ち、思いやりの心を育み、豊かな感性を育成する機会とする。また、「家庭総合」の学習活動を通して、7つの力(①状況把握力②問題発見力③アイデア力④チャレンジ力⑤企画立案力⑥チームワーク力⑦プレゼンテーション力・コミュニケーション力)育成をする。

ウ 日時:平成29年12月15日(金)8:50~12:40

エ 配付対象:城北地区にお住まいの一人暮らしの84歳以上の高齢者の方90名

オ 調理・配食担当:3年生希望者66名が調理に参加(内33名が配食)

カ 事前指導 家庭科「家庭総合」にて

4月 家庭クラブ役員選出 前年度の「孫心弁当」作りの振り返りを用いた学習

8月 夏季休業課題:献立1品、プレゼント案、メッセージ案を考案する

10月 外部講師(大学教授、津山市の栄養士・保健師)による食育講座
内容:バランスの良い食事、栄養について

11月 高齢者食の調理と試食

11月 孫心弁当献立企画(図書館での図書活用) (写真1)

11月 孫心弁当献立コンテスト(写真2・3)



写真1 献立企画



写真2 献立コンテスト



写真3 完成品

キ 生徒の感想(一部抜粋)

☆ 調理・訪問参加者の感想 ☆

・どの方も笑顔で出迎えてくださり、ありがとうございますと声をかけてくださったので、私も嬉しくなりました。今まで地域の方とお話する機会が少なかったもので、初めは緊張していましたが、みなさん明るくてすぐに緊張も解けました。朝から一生懸命作ったお弁当を地域の方に食べていただき、津山の活性化に繋がればいいなと思いました。将来自分は看護師になるので、高齢者の方との関わり方、声の大きさなどの注意点も学べ、とても良い経験となりました。

- ・一軒目の高齢者の方は足が悪くて、階段をゆっくり歩いてきて私たちの顔が見えると、「楽しみに待ってったんで〜。」と優しく声をかけてくださいました。とても喜んでくださって、私も笑顔になりました（写真4）。もち麦やお弁当の説明もしっかりできました。高齢者の方はもち麦をご存じなかったので、たくさん説明をしてあげることができました。興味を持ってくださって、質問もしてくださいました。お弁当のほかにもプレゼントを渡すと、「お弁当だけじゃないんか!」と驚いて喜んでくださり、とても嬉しかったです。毎年地域の方に支えられて孫心弁当行事ができていいることを実感できました。
- ・先週と今週、試作や献立のレイアウトなど、たくさん考えてきました。今日、実際に調理をして、作る量も人数も作業も多い中、役員としてみんなに指示をしたり、テキパキと行動したりすることができました。私は自分のおばあちゃんに届けるつもりでお弁当を作ったのですが、いつも自分の家でご飯を作るときは、家族の分の材料しか買わないし、今回のようなこんなに多い分量での調理は、味の調節がとても難しく、改めて100食ほどの量を作るのは大変だなあと思いました。高齢者の方向けのメニューを考え、普段自分が食べているようなものをより食べやすく、また味も食べやすく好むようなものを考えるのは、将来自分がおばあちゃんになった時に食べるご飯を考えているようで、将来の自分に向き合っているみたいでした。どの方も『待ってましたよ〜』と、家から出てきてくださったり、中には家の外で待っていてくださったりして、初めて会う商業の生徒に対して、こんなにも温かく出迎えてくださるんだなど、大変感動しました。また、民生委員の方の提案で、訪問した方々全員と握手をしました。握手をすることで、一気に距離が縮まるし、それに皆さんとても手が温かくて、男性・女性に関わらず、大きな手やとても温かい手、しわくちゃな手などの握手に感動しました。本当にこの孫心弁当のボランティアに参加してよかったと思えました。

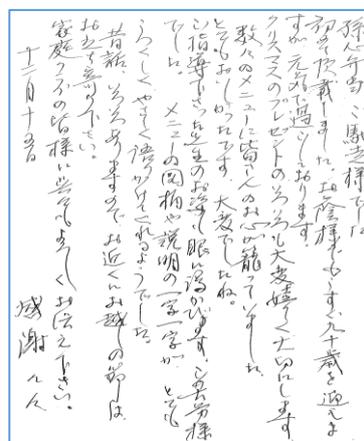


写真4 礼状

☆ 調理参加者の感想 ☆ …一部抜粋

- ・今回孫心弁当（もち麦入りちらし寿司）を作って、日頃家庭総合の実習で培ってきたことが孫心弁当作りを通して最大限に発揮することができたと思っています。また作る過程で、役割分担をして作業が効率よく実行することができたと思っています。普段からお世話になっている地域のおじいちゃん、おばあちゃんへの感謝の気持ちを込めて調理しました（写真5）。今回作った栄養満点でバランスの良いお弁当を食べて、健康を意識した生活を送ってもらえたらなと思います。
- ・歴代の先輩がお年寄りの方々に孫心弁当を配付していることを知り、入学する前から地域に深く寄りそったこの活動、そして津山商業高校に憧れていました。そんな活動に参加することができて、本当に嬉しかったし、忘れられない良い思い出になりました。今日、このような貴重な体験をさせてくださって、本当にありがとうございました。試作をたくさん繰り返して献立を考えてくれたみんな、本当にありがとうございます。高校を卒業してからも、誰かに喜んでもらえるようなことを率先してできる人になりたいと思えました。



写真5 調理の様子

(6) 学習成果発表会（平成 28 年度）

ア 学習成果発表会

生徒一人ひとりが 1 年間の取組の中で、興味・関心のあるテーマについて、調査、研究、資格取得、作品制作、実習などの活動を行ってきた。その成果を発表することで、1 年間の学習活動を振り返るとともに、次年度の学習活動へつなげる。

イ ねらい

- ・津商プレゼンルールをベースに、レインボー・プロジェクトで身に付けた「プレゼンテーション力・コミュニケーション力」を発揮した発表をする。各学年の成長段階に応じた発表を目標とする。
- ・下級生は、上級生の学習成果を知ること、次年度以降の学習に対する意欲の向上を図る。

ウ 実施日時・会場（平成 28 年度）

平成 29 年 2 月 7 日（火）5・6 限（13:20～15:10）本校体育館（平成 29 年度 2 月 6 日）

エ 発表内容

① 1 年生（ビジネス基礎 インターンシップ報告）

1 年生では、「ビジネス基礎」で学んだことを基に、体験活動を通して、学ぶこと、働くこと、生きることの尊さを実感し、勤労観や職業観を育成し、1 年生からの進路選択などに役立てるために、全員実施のインターンシップを取り入れている。実習先は、販売関係、営業関係、事務関係、商品管理関係など、可能な限り将来の就職に関わる事業所に依頼し実施している。事前事後の学習及び、各事業所の体験等を各個人でまとめ、代表生徒（3 名）が報告した。

事前・事後の活動及び指導

5 月初旬 インターンシップ説明会

6 月中旬 実習希望調査

6 月下旬 マナー講習会「インターンシップの心構え」

講師 岡山情報ビジネス学院 藤井朋子先生

7 月上旬 事業所ごとの打ち合わせ及びオリエンテーション

7 月末～8 月上旬

インターンシップ実施 期間：夏期休業中 3 期に分割実施

7 月 20～8 月 4 日 160 名

「インターンシップの手引き」に事前事後・実習中の記録

礼状作成・送付

10 月 PPT による発表用スライド及び台本の作成

11 月下旬 クラス発表会

1 月中旬 各クラス代表者による学年代表者選定

2 月初旬 学習成果発表会（資料 1）

② 2 年生（総合的な学習の時間）

学習活動

1 学期「津山を知る」をテーマに、津山地域で活躍される方を講師として、活動概要や経緯、地域での役割、高校生に期待することなどをお話しいただいた。その中の一つ、「高倉ふれあいの森プレパーク」での取組に興味を持ったグループ（7 名）が発表した（資料 2）。

2 学期「修学旅行で 2 月の関東方面修学旅行の班別自主研修内で行う、企業などの訪問先についてまとめた。その中で、「警視庁」に訪問する予定のグループ（5 名）が発表した。



資料 1



資料 2 総合的な学習の時間発表資料

③ 3年生（課題研究）

課題研究開講講座

課題研究の開講講座は、次の5講座である。各講座代表の生徒（5グループ）が、1年間の学習成果を発表した（資料3）。

| No | 講座名 | 内 容 |
|----|----------|---|
| 1 | 津商モール | 津山商業での学びの集大成となる「津商モール」の総務部として、企画・運営を全体を中心となって行う。具体的には、社長・副社長・営業部・販売促進部・財務部などの役割分担をし、課題解決学習（発想法など）を活用して企画を行う。 |
| 2 | 地域研究 | 津山地域を中心に、私たちが暮らす地域に興味を持ち、その発展に貢献できるような調査・研究活動をする。「商業クラブ」のメンバーとして、研究発表大会に出場したり、「つやま検定」の問題作成・運営をしたりする。 |
| 3 | 映像制作 | ビジネスに生かせる映像制作についての学習を行い、動画編集ソフトウェア「ビデオスタジオ」の使い方を習得して作品制作を行う。イベントが開催される際には、学校紹介ビデオやCMなどを制作し、積極的にPRする。 |
| 4 | 販売実習 | 販売知識についての学習を行い、体験学習を行う。商店街の空き店舗や様々な場所を借りて、「津商ふれっしゅ・まーけっと」を運営し、販売実習を行う。 |
| 5 | 資格チャレンジ！ | 「上級資格コース」は全商1級既合格者を対象とし、「全商1級コース」は卒業時までまでに最低1種目合格または3種目以上合格を目標とする全商1級未合格者を対象とする。 「上級資格コース」は日商簿記・全商会計実務・ITパスポート・販売士・ファイナンシャルプランニング・秘書など。 「全商1級コース」は珠算・電卓・簿記、ビジネス文書、情報処理、商業経済など。 学期ごとに受験検定を選び、コースを変えることもできる。 |



資料3 「地域研究」発表資料

④ランゲージカフェ

放課後、土曜日等に実施した「ランゲージカフェ」では、社会人基礎力の一つである「コミュニケーション能力」育成を目的とし、誰でも自由に参加できる活動である。英語を使って交流したい人、話すことが上手になりたい人、様々な人と話をして自分を磨きたい人を随時募集した（資料4）。

今年度は、生徒の手で企画・運営をすることを目標とし、12月のイベントの企画・運営を手掛けた。また、津山高専の「After School English」にも参加し、津山高専の学生とともに、実践的な英語学習をした。本校のイベント（岡山大学留学生津山観光案内）にも参加し、相互に交流を持つことができ、よい刺激を受けた。ワークショップ等を通して、コミュニケーション力を始め、自分たちで企画・運営をして主体性を持ち、進路実現にもつなげることを意識した活動を行い、その様子を報告した。



資料4

オ 指導・講評まとめ（助言者：美作大学 生活科学部児童学科 講師 岡村健太 先生）

よいプレゼンとは何か。見た後に、私もこれをやりたいな、こういうことがあるのか、ちょっと気にしてみようかな、と日頃の生活の中に影響があるもの、これは間違いなくいいプレゼンテーションであると思う。人に影響を与えるためにはすらすらとしゃべれる方がよいのではない。すらすらしゃべれて、すごく整理されていても、見終わった後、何も残らなければよいプレゼンではない。それでは相手に伝わらない。伝わらないともったいない。その視点で感想を述べたい。

津山商業のみなさんはプレゼンテーションが少しずつ上手になってきているので、次のステップに行こう。発表するからには中身がいる。テクニックにはいろいろある。みんなを巻き込むとか、動いていくとか、いろいろな方法がある。テクニック面でも、もっと上手になっていくと思うが、コンテンツ＝中身がしっかりしたものになっていないと、小手先でパフォーマンスしても伝わらない。常日頃の活動が積み重ねとして発表に出てくる。この発表会のために発表するわけではない。普段からいろいろなことを一生懸命やってお

く必要がある。今日のみなさんの発表は、それぞれ一年間の積み重ねが出てきたものだと思う。これから次の一年間への積み重ね、そしてその積み重ねには自分のグループだけではなく、隣のグループの面白いネタはどんどん取っていくとよい。例えば、映像グループにしか持っていない編集技術が、津商モールのCMに反映されている。地域に普段からよく出て行っている人だからこそ、地域のニーズをつかみやすいのかもしれない。グループ間で、休み時間などに協力してもらえばよいと思う。今後もいろいろなところを少しずつ一歩一歩勉強して深めていってほしい。

カ 生徒感想

【3年生】

- 聞いている人に伝えるためには、大きな声ではっきり話すことが大切だということを感じた。また発表する機会があれば、もっと大きな声ではっきり伝えていきたいと思う。
- 全体を通じて1年間のまとめがきちんとできていたし、どの発表を聞いてもおもしろいと感じた。発表内容だけでなく聞く人を巻き込む「巻き込み型」や告知を入れるなど工夫がたくさんあって飽きがなく聞いた。今回の発表を聞いて、1・2年生は改善すべき点を見つけたり、上級生のまとめたことを活かした発表ができるようになったりしてほしいと思う。また、3年生は3年間の仕上げになったこの発表を進路先でも活かせるような力にできたと思うし、今までを振り返ることのできた良い機会になったと思う。来年度はもっと成長した発表を1・2年生はしてくれと期待している。

【2年生】

- 1年間の積み重ねがとても伝わった。津山でも様々な活動を行っており、地域とのふれあいを大切にしていることが分かった。私も自分でできることを探して、様々なことに取り組む意思を持っていこうと思った。
- 3年生の発表では、来年に向けて詳しく話が聞けて良かった。この発表をもとに自分に合っているものを選択したいと思った。津商モールのことも、その時ではわからなかったことや改善点もよいところも来年度に活かしていきたいと思った。津山商業の生徒だからこそできることがあると思うから、できることをしていきたいと思った。
- 発表を聞いて、やってみたいと思う活動もあったので、今から考えておこうと思った。学校生活の中で、検定や行事など一生懸命して後悔のないようにしたいと思った。津商モールでは先輩方の良いところを活かしてより良いものにしていきたいと思った。3年生の活動は、今までよりももっと津山のことを知れるのでよいと思った。津山のことを知って、少しでも社会に貢献できる津商生になりたいと思った。

【1年生】

- 自分たちが体験したものは、インターンシップと津商モールだったが、これからの課題や次どうすべきかなど、具体的な行動が見えた気がする。先輩方が発表されていたことを見て、いつか自分たちがすることだと思っているとどんどん話に引き込まれていった。全校生徒にわかりやすく説明することの難しさを感じた。岡村先生が言われていた、これをすればうまくいくというものはないという言葉がすごく心に残った。
- 映像とかの技術も、前に出て発表することも、1年後や2年後に私もやらなければならないと思うから、そういう意識を今から持つことも大切なかなと思った。先輩が今までしてきたことを、うまく吸収してより良いものに変えていかなければいけないと思った。
- 地域のためになる活動のことをいろんなグループが発表しており、とても興味を持ったと同時に私も参加してみたいと思った。3年生のようにみんなを巻き込んで楽しませるプレゼンテーション力や、言いにくいことも赤裸々に語る勇氣などを身に付けていきたい。

4 学校行事「津商モール」の取組

(1) 津商モール

本校では平成 21 年度より、社会人となって求められる知識・技術・ビジネスマナー・起業家精神教育などを学習し、地域経済の活性化に寄与するビジネスリーダーを育成することを目標として全校販売実習「津商モール」を実施している。本研究では商業高校での学びによって身に付けた 7 つの資質能力で実践するものとして、「津商モール」に向けたさまざまな取組を系統立てて実施した。

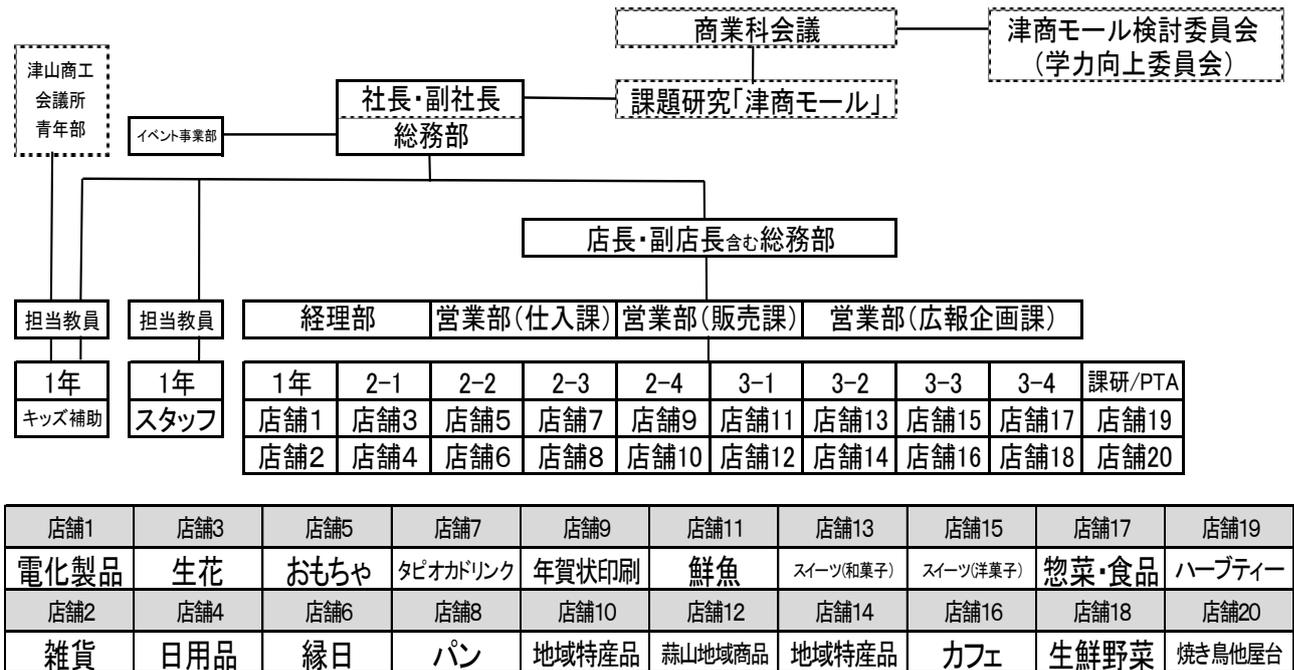
平成 29 年度の実施概要は以下のとおり実施。

ア ねらい 商業高校での学びを実践する場として位置付けており、7つの資質・能力の活用と更なる向上を目指す。

| | | |
|---|--------------------------|-----------------------------|
| 1 | 自分と周囲の人々との関係性を理解できる | (状況把握力) |
| 2 | 社会のニーズを見つけることができる | (問題発見力) |
| 3 | モノ、サービスを考案することができる | (アイデア力) |
| 4 | 失敗したことを次の経験に活かそうとしている | (チャレンジ力) |
| 5 | アイデアを提案することができる | (企画立案力) |
| 6 | 多様な他者と力を合わせて行動することができる | (チームワーク力) |
| 7 | 自分の考えを相手にわかりやすく伝えることができる | (プレゼンテーション力 ・コミュニケーション力) |

イ 日時 平成 29 年 11 月 25 日 (土曜日) 9:45~14:00 (9:30~9:45 オープニングセレモニー)

ウ 組織図・店舗詳細



エ 津商モールに係るスケジュール

- 5月中旬 クラスで概要説明
- 7月上旬 店舗決定と役割分担
- 夏休み中 協力企業訪問
- 9月中旬 全校マナー講習会、クラス準備 (仕入計画)
- 10月中旬 クラス準備 (販売計画、店舗設計)
- 11月中旬 クラス準備 (販売員活動、販売促進)、前日は終日準備
- 2月上旬 学習成果発表会での報告

オ キッズビジネスタウンつやま (津山商工会議所青年部と共同開催)

津山市内の小学生 5・6 年生約 200 名を対象に職業体験を行う事業で、平成 29 年度は 26

業種開設。仕事のほか、ハローワークでの職探し、銀行での給料受け取り、税務署での納税等も体験できる。1回 45 分の就業時間で3業種（3回）体験でき、1回の労働で、津商モール内通貨 550 円が支給（内 50 円は税金支払い）され、モール内でその通貨を使って買い物体験もできる。

本校生徒はその運営補助として、小学生の案内や相談・質問に応じたりする。また、様々な業種・職種のジョブシャドウイングも体験でき、教科での学習の知識・技能の深化も図れる。

カ 中学生のお店

市内中学校を通じて、ビジネス・販売・接客に興味のある中学生に「津商モール」での販売体験希望者を募集。前日に担当店舗の店長より体験内容の説明と予行を行う。当日は実際に接客、販売を行う。

キ 課題研究「津商モール」

商業科「課題研究『津商モール』」3年目。今年度は1年次から課題研究の先輩の姿を見てきた18名の生徒が選択した。津商モールの運営を司る課題研究「津商モール」から、社長・副社長が選出される（ウ 組織図参照）。毎週2時間の授業を使い、第9回津商モールを企画・準備した。昨年度までの経験や課題を踏まえ、どのような津商モールにしたいか等、活発に意見交換が行われ今年度のコンセプトが決定した。全校生徒募集のキャッチコピー「今日という日を幸せに ～Happiness and Smile for you～」(写真1)はそのコンセプトを元に考えられている。顧客の満足を目指とする本校生徒にとっては「Smile (笑顔)」は、非常に重要なキーワードである。イベント企画班では、今までの企画の良い点、悪い点をあげ、よりお客様に笑顔になっていただけるようなイベントを考えた。また、多くの人に「津商モール」を知ってもらうためのPR方法についても検討した。店舗班は今までの店舗や売上を参考にし、今年度の店舗を考えた。ターゲットとなる客層や目玉となる店舗は何か、オリジナル商品が作れないか、他校へ視察にいけないかといった様々なアイデアを出すことができた。6月には協力業者を決定し、電話や訪問等で積極的に交渉した。魅力的な品ぞろえの観点から、新規取引先の開拓もした。過年度の経験からも課題を全員で共有し、全員のアイデアで解決に努めた。係会の内容が全体にうまく伝わらなかった経験から、全体共有の方法について話し合った。部署ごとのリーダー設置や、振り返りシートに連絡事項を加えてはどうか等の案も出た。自分たちの失敗体験からは良い改善案が出ることも分かった。7月は、運営責任者としてクラスや係会の場で説明をし、チームワーク力やプレゼンテーション力を大いに発揮する場面となった。教員の補助をなしに全体を把握して動けるようになるにはまだ課題は残るが、それでも任された仕事をいかに効率よく進めていくか等、自分たちで考え工夫し、取り組む姿が見られた。また、集客のための新たなアイデアの実現に向けて努力し、人型ロボット「ペッパー」を活用した企画(写真2)や、OHK岡山放送局の情報番組「なんしょん？」への応募、テレビ出演(写真3)を果たした。



写真1 キャッチコピー



写真2 イベント企画



写真3 TV出演

ク 店舗係会

9月より週1回、店舗の係会（総務部、営業部仕入課・販売課、営業部広報企画課、経理部）を行った。課題研究の生徒が司会進行を務め、係代表の生徒は資料に沿って説明を聞き、情報共有の大切さを知る3年生は詳細にメモを取っていた。係会終了後、店長・副店長が各係から報告を受けて「ほう・れん・そうシート」（写真4）にまとめ、提出する。それを教室に掲示し、提出書類や作業の進行具合などクラス全体での情報共有を図った。しかし、係会翌日までに十分な情報共有の時間が取れないこと、各係からの報告が不十分な場合や、シートを記入して提出することが目的となってしまう内容を十分に理解しないままになっていることもあった。また、担当教員への報告が十分できていないこともあった。この点は次年度への課題である。



写真4 ほう・れん・そうシート

ケ 地元企業の方の御協力

津商モールは地元企業の方の御協力で成り立っている。鮮魚、生鮮野菜、日用品、生花、電化製品、和洋菓子、惣菜・食品、おもちゃ他様々な商品（写真5）を取り扱わせていただいている。夏休みに取引の御挨拶に伺い、その後も数回訪問して、仕入商品や販売方法について御相談する。前日・当日には商品の搬入や陳列方法のアドバイス（写真6）、商品知識の詳細等、お忙しい中御指導いただいた。また、今年度は企業研修を実施していただくお願いを積極的にした。3社で受け入れていただき、事前研修を受けた（写真7）。事前研修により商品知識や企業の方の商売に対する姿勢や思いを知ることができ、津商モールでの販売に大いに役立てることができた。



写真5 生鮮野菜販売



写真6 企業担当者指導



写真7 販売事前研修

コ アイデアを活かした店舗運営

今年の津商モールには7つの資質・能力の中のアイデア力や企画立案力を発揮した販売が多く目立った。商品の販売方法について各店舗で工夫を凝らし、例えば、カップラーメンタワーや蒜山牛乳のホット販売など消費者が買いたくなる仕掛けが用意されていた。特に3年生の店舗は販売促進の方法を細かに考えており、例えば、和菓子店では伝統的工芸品の作州餅を着用して和のイメージと地元愛を表した接客（写真8）、コーヒー店ではコーヒー豆のグラム当てクイズ（写真9）などである。POP作りも様々な趣向を凝らして丁寧かつ華やかなものになっていた。また、会計処理方法にもアイデアを出し、アイテム数の多い生鮮野菜ではお客様ごとに伝票を手書きする販売方法、鮮魚では購入商品を確認した後に番号札を配布してスムーズに会計処理をする方法等（写真10）、取扱商品に合わせて各店舗で最善の方法を考えて実践していた。



写真8 作州餅着用による接客



写真9 グラム当てクイズ



写真10 伝票記入

(2) 7つの資質・能力の育成及び実践

ア 7つの資質能力の焦点化

津商モールでは生徒は担当する業務や役割、また経験値等によって発揮される力が異なっているため、それぞれの発達段階で身に付ける資質・能力を以下のように焦点化した。

| | 係 | 焦点化した資質・能力 | |
|----|-------------------|------------|---------------------------|
| 1年 | キッズビジネスタウン補助・スタッフ | 状況把握力 | プレゼンテーション力 ・コミュニケーション力 |
| | エフエム | チームワーク力 | |
| | 店舗 | チャレンジ力 | |
| 2年 | 地域ビジネス科店舗 | アイデア力 | チームワーク力 |
| | 情報ビジネス科店舗 | チャレンジ力 | |
| 3年 | 課題研究「津商モール」 | 企画立案力 | 問題発見力 |
| | 地域ビジネス科店舗 | | |
| | 情報ビジネス科店舗 | アイデア力 | |

イ 津商モールに係るホームルーム活動

| | 日時 | 時間 | 1年 | 2・3年 | 備考 |
|---|------------------------|-----|--------------------------------------|--|-------|
| ① | 7/7 (金) | 50分 | 概要説明 (課研究生徒) 1年生店舗について 目標シート記入 | 概要説明 (課研究生徒) 店舗分け、店長・副店長決定 目標シート記入 | 考查最終日 |
| ② | 8/28 (月) | 45分 | インターンシップでの 学びより | 企業訪問の報告 | 始業式 |
| ③ | 9/21 (木) | 45分 | 係別打ち合わせ | 店舗コンセプト決定、 各係より報告 | 5分短縮 |
| ④ | 10/13 (金) 10/20 (金) | 50分 | 係別打ち合わせ ※商工会議所青年部 来校 | 各係より報告・準備 | 考查最終 |
| ⑤ | 11/6 (月) 11/7 (火) | 50分 | マナー講習会 ※外部講師依頼 | マナー講習会 (学年別) ※(株)マルイに依頼 | |
| ⑥ | 11/20 (月) | 45分 | 係別準備 | 店舗準備 | 5分短縮 |
| ⑦ | 11/21 (火) | 45分 | 係別準備 | 店舗準備 | 5分短縮 |
| ⑧ | 11/22 (水) | 45分 | 係別準備 | 店舗準備 | 5分短縮 |
| ⑨ | 11/24 (金) | 終日 | 前日準備 | 前日準備 | 授業カット |
| ⑩ | 12/8 (金) | 50分 | 振り返り、次年度に 向けて | 振り返り、次年度に向けて | 考查最終日 |

「津商モール」実施に向け、7月からホームルーム活動の充実を図ってきた。学習指導案を用い、生徒の自主性を主体に置きながら、ビジネスの視点や話し合い活動の進行の仕方等について、担任・副担任が助言し、話し合いの時間及び準備の時間とした。授業開始時に、「接客8大用語」をクラス、係全員で斉唱(写真11)し、津商モールの意義を強く意識し話し合いに入るようにした。目標を確認した後、店長、副店長等の主導のもと、生徒の話し合い(写真12)によって店舗運営が主体的に進められるようにした。各人が持ち寄ったアイデアを出し合い、それをもとに店舗のコンセプトを決定(写真13)した。昨年度は生徒間の情報共有が確実にできていないという課題もあり、担当教員に進行を任せることが多く、生徒の自発的な話し合いがあまり活発でなかったが、今年度は、定期的係会でそれぞれの係が得た情報を全体で共有し、統一して進めることができたので、作業の進度が揃いスムーズな活動につながった。



写真11 接客8大用語



写真12 話し合い活動



写真13 店舗コンセプト決定

ウ 津商モールと関連した授業実践

昨年度「津商モール」を視察された、文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室 教科調査官 西村修一先生から、商業科の学びの視点からも「よかった」で終わるだけの販売実習にならないように、普段の授業との連携が意識されるべきとの御指摘をいただいた。資質・能力の育成という観点と「津商モール」と教科の学びとを関連づける授業実践を検討した。ホームルームでの活動と合わせて、早い段階から生徒の意識を津商モールへと促していくとともに、身に付けた資質・能力が実際の活動と関わりを意識させた。次は授業実践の一例である。商業科の科目ばかりでなく、普通科の科目での取組も見られた。

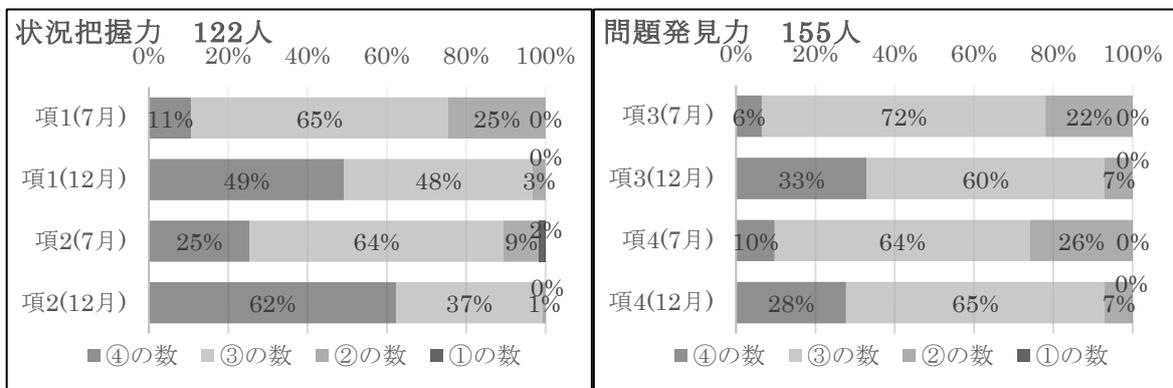
| 学年学科 | 科目 | 単元 | 内容 |
|----------|---------|--------------|-----------------------------|
| 1年商業 | 情報処理 | グラフの作成 | 売上分析 |
| 2年地域ビジネス | マーケティング | マーケティング環境分析 | SWOT分析 |
| | | 情報の収集と分析 | シンキングツールを活用した発表 |
| 2年情報ビジネス | 情報ビジネス | パレゾンスリサーチの基礎 | アンケート分析, 売上のABC分析 |
| 3年地域ビジネス | 広告と販売促進 | 広告と広報活動 | ポスター作成 |
| 3年情報ビジネス | マーケティング | プロモーション | 販売員活動と消費者心理, クロスSWOT分析 |
| 3年情報ビジネス | プログラミング | 応用ソフトウェア | 人型ロボット「ペッパー」のアプリ作成 (会場案内作成) |
| 3年全学科 | 国語表現 | 表現を楽しむ | リーフレット作成 |

エ 津商モール 7つの力に関するアンケート (実施日:平成29年12月9日)

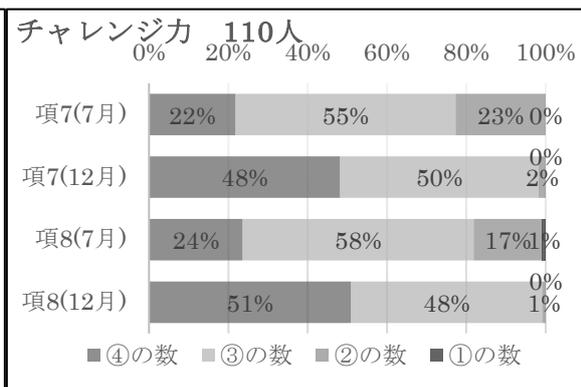
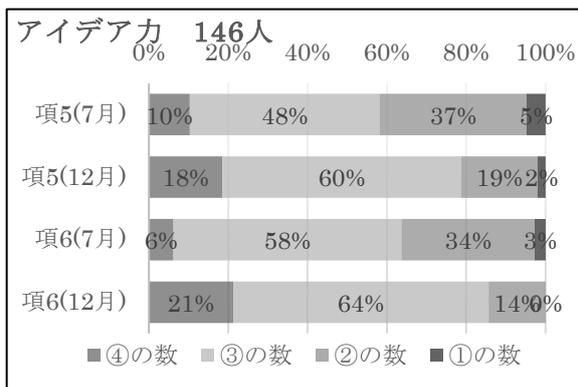
データ数: 470名分 (1年生: 157名 2年生: 158名 3年生: 155名)

焦点化した資質・能力についてそれぞれ7月アンケートの回答と比較した。

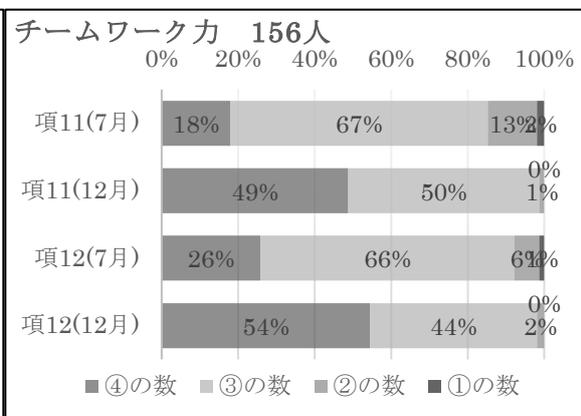
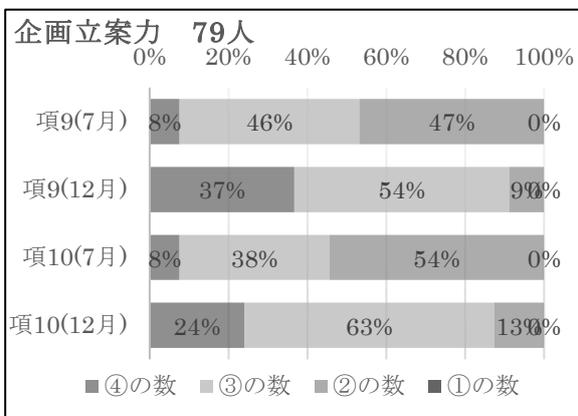
①調査結果



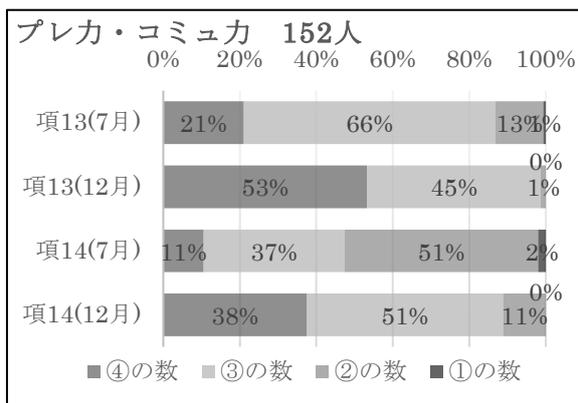
- 項目 1. 場面に応じて、必要な情報を収集することができる。
- 項目 2. 場面に合わせて、自分の言動を適切に調節することができる。
- 項目 3. 問題意識をもって、物事を観察することができる。
- 項目 4. 解決すべき課題を見つけることができる。



- 項目 5. 前例にとらわれず、新しい視点で物事を発想することができる。
- 項目 6. 他者に自分たちの取組を理解してもらうための工夫ができる。
- 項目 7. 初めての体験に対しても、積極的に取組むことができる。
- 項目 8. やり始めた事柄に対して、粘り強く最後までやり遂げることができる。



- 項目 9. 目標達成に向けて、見通しを持って計画を立てることができる。
- 項目 10. 目標達成に向けて、遂行するためのより良い手順を提案できる。
- 項目 11. チーム内の自分の役割を理解し、その役割を果たすことができる。
- 項目 12. チーム内で同じ役割の人と協力して、その役割を果たすことができる。



- 項目 13. 他者の意見を聴き、正しく理解することができる。
- 項目 14. 自分の考えを、相手がわかるように説明することができる。

②振り返りシート（抜粋）

- ・アンケートを取る際、口頭でいろいろ言うてくださったので、頭に結構入った。アンケートと関係ないクレームの対応練習はあまりしていなかったのが難しかった。より多くのお客さんの意見を聞くことができ、とても勉強になった。（1年アンケート係）
- ・ボランティア経験があり、子供たちと触れ合っていたので、優しく声をかけてあげることができた。場所を聞かれたときに直ぐに答えられなかったことが心残り。色々な改善点も出たので、改善をしていけばもっと素晴らしいものになると思うので、来年も頑張りたい。（1年キッズビジネスタウン係）
- ・副店長が自分でよかったのか、今日まで不安でした。気付かないところでみんなを怒らせてたりしていないかと、自信がありませんでした。振り返りの時、自分の働きをみんなが本当に良く見てくれていて、ほめてくれたことに驚きました。ほとんどの人が、あなたが副店長でよかったと言ってくれたので、本当にうれしかった。（2年店舗副店長）
- ・注意はしていたけれど、それぞれの課の情報を共有できていないことがあった。副店長なのに、自分が理解できていないこともあり、初めはうまく指示を出せなかった。しかし、だんだんと他の課とも話し合いをするようにすると、何をすべきなのか、しっかり考え、指示を出すことができるようになった。（2年店舗副店長）

上の力について、具体的にどのようなことができましたか？

(4)番
津商モール当日まで9月下旬から9月の課題がありました。その中でどの順番で解決していくかについてのが考え、やり取りが出来るようになりました。提出物や、企業との打ち合わせなど期限があるものから解決するように出来ました。また、問題・課題を事前にまとめたことによりスムーズに進めました。

9番
提出物のチェックなどは全て把握することが出来た。手配が済んでいる日程の計画なども全て把握することが出来た。

5. 活動を終えて…

自分自身を振り返り、グループやペアで話し合いをして、お互いを評価してみましょう。

昨年店長をしいた分同じ店舗という事もあったのでスムーズに動けたと思う。企業先とも、念入りな打ち合わせも重ねる事が出来て改めて言葉をつめる事の大切さに気が付いた。情報共有のための皆で集まり、企業先との打ち合わせを行った。各課の責任者と企業先へ説明したり、色々とお互いに上手に出来たと思えば良かった。

6. 他の人からのメッセージを受けて…

楽しかったことや昨日より楽しく出来たこと、他のどの店舗よりも盛りあがったこと、2人で頑張ったこと、Pがあり、とても喜ばれたこと。企業先の担当者の方も「今まで一番楽しかった」と言ってくれた。このメンバーで

★この欄には、この活動を経験して、気づいたこと、これから頑張りたいこと、大事だと考えること、津商モールの魅力を伝えること、挑戦したいこと、身につけたことなどを書きましょう。

(3)

資料1 生徒の振り返りシート 3年店舗店長

③アンケート結果、振り返りシートより

初めて津商モールを体験する1年生では、接客体験により、相手に伝える力を重視したコミュニケーション力の育成を目指した。調査の結果では、項目13、項目14について「とてもよくできる」と答えた生徒の伸びが大きく、お客様の案内や商工会の方々との連携を取る活動のため、周囲の状況をよく把握して、声かけや適切な対応ができたと感じていると思われる。1年生の店舗係は、初の店舗運営で経営の知識は十分とは言えないが、能力育成に大きな効果が見込まれる活動でありチャレンジ精神で運営を進めた。初めて出店する2年生は、来場したお客様を勧誘するために工夫を凝らした店舗設計・商品陳列やPOP広告を行うた

めに、アイデア力、チャレンジ力、チームワーク力の育成を目指した。また、地域ビジネス科は、「マーケティング」で学んできた知識や技能を「津商モール」で活かせるよう、アイデア力を重視した。お客様の購買意欲を喚起するための工夫を凝らした店舗設計や商品陳列、また、それぞれ工夫を凝らしたPOP広告や店舗設営（写真14・15）が企画・実施された。

「縁日」では、小学生を呼び込む工夫がなされ、大盛況であった。アンケート調査からもアイデア力、チャレンジ力の伸びが大きく、効果が見られた。3年生は、過去2年間からの問題点を見つけ出し、改善された店舗経営を目指した。3年生地域ビジネス科の「マーケティング」「課題研究 津商モール」においても、課題についてSWOT分析やABC分析で洗い出しを行い、対応策を考え実践につなげた。自分たちで実現に向けて交渉・段取りをする等、接客、実演販売（写真16）など今までない取組で入場者の関心を引き、顧客一人あたり購入価格も昨年度より大幅に増加した。調査結果では企画立案力について「よくできる」と感じた生徒が、大幅に増加しており、売り上げからも証明された。



写真14 集客アイデア



写真15 POP広告



写真16 実演販売

オ 教職員振り返りシート

- ・1年生は準備期間・経験等を考慮しても非常によく頑張っていたと思う。店長を中心に全体に呼びかけ、店員も必死についていこうとしていた。最初の集会では期待だけが先行し空回りしていたが、係を割り当てると一人一人が自覚をもって役割を果たそうと努力する姿が見られた。
- ・係を希望制にしたことによりクラス間で交流ができ、初めは会話をすることさえ苦手としていた者が、津商モールが終わるころにはきちんとコミュニケーションが取れるようになっていたので、生徒にとって良い経験となったのではないかなと思う。
- ・生徒が自由に発想する場面をどこにどのような仕掛けを設定するかが、教員の腕の見せ所だと考える。イベントとか目玉商品でも良いが、このことは最も大切にしたいことの一つなので、商業科全体の課題として考えてはどうか。
- ・様々な規制を緩和することはできないか。規制は生徒の自由な発想を抑制すると思う。販売価格の値引きは、根拠を持って計画的に行うことも考えさせるべき。売れないときに工夫することこそ最も重要な販売実習の体験。生徒への販売時間は必要なく、販売の終末に何としても販売しようとすることに意味があると思う。
- ・最初に店舗の目玉商品を考えていたのだが、後にある生徒のアイデアで「中国五県の野菜」を掲げることになった。そのことで、最初にアイデアを出した生徒と後でアイデアを出した生徒、また、余り関心がない他の生徒もいて、軋轢があったようだ。大きな行事にはそのような生徒同士の衝突はよくあることだが、協力企業の社長さんに、その件に関わることも含めていろいろ人との繋がりを教えていただくことができ、良い機会であった。

カ 外部アンケート

(ア) 協力業者アンケート (回答数 12/24 社)

①調査結果

| 評価項目 | | 大変 よい | よい | やや 悪い | 悪い |
|------|---|----------|----|----------|----|
| 1 | 状況把握力 : 場面に応じた対応や言葉遣いがあった | 3 | 8 | 0 | 0 |
| 2 | 問題発見力 : 課題に気づいたり、その解決策を見つけようとしていた | 3 | 8 | 0 | 0 |
| 3 | アイデア力 : これまでにないアイデアを出して商品やサービスを提供した | 2 | 6 | 1 | 0 |
| 4 | チャレンジ力 : 慣れないことにも積極的に取組み、粘り強く最後までやり遂げた | 5 | 4 | 0 | 0 |
| 5 | 企画立案力 : 目標達成するための計画が立てられて円滑に活動できていた | 2 | 5 | 0 | 0 |
| 6 | チームワーク力 : チーム内で同じ役割の人と協力しながら自分の役割を果たしていた | 3 | 5 | 0 | 0 |
| 7 | プレゼンテーション力・コミュニケーション力 : 相手の話を正しく理解したり、自分の考えをわかりやすく説明したりしていた | 3 | 5 | 0 | 0 |
| 8 | 仕入から販売・支払いまでの生徒の取組の 総合評価 | 2 | 9 | 0 | 0 |

②協力企業コメント

- ・最初は少し頼りなかったが、取引していくうちに責任ある行動や臨機応変な対応が取れていた。
- ・初めて作成したオリジナル商品やパッケージなどが良かった。
- ・初めて1年生が店舗を持つということで緊張感も大きかったと思うが、「良いものにしたい」という一生懸命さが伝わり、素晴らしかった。
- ・わからないことは何度も連絡をしてくださりコミュニケーションがとれ、こちらの仕事もスムーズに行き大変良かった。

③アンケート結果より

半数の協力業者から回答。アイデア力が「やや悪い」とある店舗は初経験の1年生の店舗であった。生徒のアンケート回答でも、1年生のアイデア力については、「あまりできない」という回答が多く見られた。生徒の積極性や熱心に取り組む姿は評価され、特にチャレンジ力は評価が高かった。これも、生徒の回答と同じ傾向を示していた。概ね、高評価をいただいているが、店舗が経験値、商品の取り扱いの難易によって事前に割り振られるため、商品知識がほとんどないところからの協力企業との交渉になるが、企業とのやり取りを通じて、興味を持ったり、専門家に直接教えていただいたりすることは資質・能力の育成に非常に効果が高いといえる。今後販売活動についても経験を積み重ねて成長してほしいとのお言葉もいただき、次年度への課題としたい。

(イ) 来場者アンケート (回答数 378 無記入欄もあり)

① 調査結果

|  第9回 津商モール アンケート結果  | | | | | |
|---|--|-----|------|------|----|
| 1. 性別 | [男性 92 ・ 女性 272] | | | | |
| 2. お住まい | [津山市 225 ・ その他 82] | | | | |
| 3. 年齢 | [10代 92 ・ 20代 19 ・ 30代 49 ・ 40代 112 ・ 50代 36 ・ 60代 38 ・ 70代以上 23] | | | | |
| 4. 来場回数 | [はじめて 95 ・ 2回目以上 157] | | | | |
| 5. 来場のきっかけ | [在校生の保護者 118 ・ 在校生の知人 83 ・ 本校卒業生 35 ・ 中学生の店保護者 2 キッズビジネスタウン保護者 53 ・ 広告宣伝 51 ・ その他 26] | | | | |
| 6. ご覧になった広告宣伝(複数回答) | [ポスター 90 ・ 折込チラシ 124 ・ のぼり旗 52 ・ 学校HP 26 ・ 生徒制作CM(YouTube) 20 OHK「なんしょん」 20 ・ 中学生の店応募用紙 1 ・ キッズビジネスタウン応募用紙 43 ・ FMつやま「山北531」 1] | | | | |
| 7. 満足度 | | | | | |
| | 項目 | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
| (1) | 「商品」について ・欲しい商品がそろっていたり、興味を引くおもしろい商品があったりしましたか。 | 235 | 125 | 6 | 1 |
| (2) | 「価格」について ・商品やサービスに見合った価格がついていましたか。 | 212 | 141 | 16 | 2 |
| (3) | 「サービス」について ・気持ちの良いサービスや買い物が楽しくなるようなアイデアがありましたか。 | 276 | 85 | 9 | 2 |
| (4) | 「店員の対応」について ・目を見て笑顔で対応し、ご質問などに適切にお答えしましたか。 | 299 | 68 | 5 | 1 |
| (5) | 「言葉遣い・マナー」について ・丁寧な言葉遣いをし、清潔感のある身だしなみや礼儀正しい態度で対応しましたか。 | 309 | 60 | 3 | 2 |
| (6) | 「雰囲気」について ・高校生らしいさわやかで活気のある販売実習であると感じられましたか。 | 318 | 51 | 2 | 1 |
| (7) | 総合的な満足度 | 300 | 67 | 10 | 1 |

② 来場者コメント

- ・声をしっかりかけてくれる子，説明してくれる子が多かった。挨拶や言葉遣いがよかった。丁寧に誠意のある対応だった。(状況把握力)
- ・キッズビジネスタウンで生徒が笑顔で子供に接してくださりうれしく思った。小学生のお世話もしっかりしてくれているので楽しく過ごせた。(状況把握力)
- ・サービスがよかった。(アイデア力)
- ・お花の係の方はレジまでご一緒してくださり，少しばかり学校の様子とか近況等をやさしくお声掛けしてくださった。小さな気遣いがよくできていた。(プレゼンテーション力・コミュニケーション力)

③ アンケート結果より

「商品」「サービス」についての(1)(2)(3)の項目が、「店員」についての(4)(5)(6)の項目に比べて「やや満足」，「やや不満」の数値が高い傾向にある。来場者の大半は保護者であり，わが子の販売実習に大きな期待を持って来られている。アンケートのコメントからも笑顔・挨拶がよい，丁寧な対応ができている等，販売員活動に関しては高評価をいただいた。しかし，実際に扱っている商品や提供するサービスについては，「売り切れが早かった」，「抽選会がすぐに終了した」，「価格が少し高い」等，販売や経営に対して見通しや分析の甘さが指摘されている。販売実習の第1の目標は「実際のビジネスの世界でも通用するような販売及び顧客満足」である。資質・能力の育成と合わせて，今後改善すべき方向性が見えた。高校生の販売実習ということに甘えず，商業高校での学びが実社会で通用するレベルに達することを目標に更に努力をしていきたい。

5 授業改善の取組 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」

(1) 授業改善の取組について

本校では、生徒が主体的に考え行動できる人材に育つための授業改善の取組が、平成27年度より始まった。募集定員割れが続いたために国際ビジネス科が廃止され、この年から一学年の定員が160名に減少されたことで、本校の活気がなくなるとのイメージが広がるのが懸念され、マイナスイメージを払拭し、リニューアル津商として取組む活動が必要との判断からのことである。この時に津山商業で育てたい生徒像として次の2点を掲げた。

- ①自ら進んで課題を発見し、その解決に向けて主体的に活動できる生徒。
- ②自分とは異なる様々な「文化」に根ざした人々と、積極的・協同的な態度で接することができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけた生徒。

平成28年度に本研究を始めるにあたって、学校経営計画の一つとして、アクティブ・ラーニングの様々な手法についての研修や公開授業、研究授業等の授業改善の取り組みを積極的に行うことを挙げた。それに基づき、全教員がアクティブ・ラーニングの3種類の手法「ディベート」、「知識構成型ジグソー」、「ロールプレイ（模擬授業、ケーススタディー等）」の中から1つを選び、授業改善に取り組んだ。慣れない手法に戸惑いながらも教員相互で、授業にどのように取り入れたらよいのか検討することで、教員間の意思疎通を図ることができ、3種類の手法の特徴や実践時の取り入れ方を理解しあうことができた。公開授業用の学習指導案シートと振り返りシートを作成して、お互いの授業を見学することで、工夫をしたところの確認や、課題解決に向けての検討を行うことができた。(資料1・2を参考)生徒が主体的に考えたり、発表したりできる時間を必ず取るような工夫、つしよレインボー・プロジェクトにおける7つの力との繋がりについても検討した。

平成29年度については、授業改善の取組として「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の推進に関わる研修や公開授業、研究授業等を積極的に行うことを挙げた。それに基づき、全教員が「主体的・対話的で深い学び」実現のための「言語能力の育成」と「情報活用能力の育成」のうち一つを選び、以下の流れで授業改善に取り組んだ。

- ①「主体的・対話的で深い学び」実現のための「言語能力の育成」と「情報活用能力の育成」について、理解を深めるために校内研修を受ける。
- ②「主体的・対話的で深い学び」実現のための「言語能力の育成」と「情報活用能力の育成」について、全教員がいずれかの手法を選択し、3人の班を編成する。
- ③選んだ育成する能力を使つての公開授業を全教員が年1回以上行う。(指導案は事前に指導教諭に提出し添削後、全教員に配布)同じ班のメンバーは必ずお互いの公開授業を見学する。職員朝礼で公開授業の案内をし、他の班の先生も見学できるようにする。
- ④班ごとで公開授業後、研究協議を行い、成果や課題をまとめ、振り返りシートに記入。授業改善に活かす。
- ⑤2学期に全教員での研修「津商型学習指導研修会」を実施。上記2種類の班から1名が代表し、公開授業を行う。

また、平成28年度に引き続き、公開授業用の学習指導案シートと振り返りシートを作成して研究を進めるとともに、教科指導において「つしよレインボー・プロジェクト」で育成する7つの力(1.状況把握力 2.問題発見力 3.アイデア力 4.チャレンジ力 5.企画立案力 6.チームワーク力 7.プレゼンテーション力・コミュニケーション力)を視野に入れ、各教科が育成すべき力を明確化した指導計画を作成し実践を行い、公開授業指導案には授業内でどの力と関連するのかを明記して取組んでいる。

(2) 授業改善の取組

ア 班計画

平成 29 年度は 3 人 1 組の班を編成し、授業力向上計画をたて、相互に授業見学を行い、テーマに沿った能力を育成すべく授業の内容や進め方について意見を交換しながら、テーマの能力の育成を図ることとした。各教員が受ける研修会等も計画に含め、情報交換を行い、研究に役立てることとした。

| D班 授業力向上計画表 | | | | | |
|--|-----|---|---|---|--|
| *各自の欄に記入するもの：公開授業（めやす）・他校への授業参観・授業改善に係る研修会等・その他 *代表者（班内のとりまとめ）は◎の先生 | | | | | |
| テーマ | | 言語能力 | | | |
| 班員 | | ◎下山雅章 | 兒子 望美 | 片岡 和昌 | |
| 教科 | | 地歴公民 | 英語 | 商業 | |
| 行事等 全体計画 | 5月 | 年間計画の作成 学習に関するアンケート 5/23 教員研修会 | ミーティング(年間計画の作成) | ミーティング(年間計画の作成) | ミーティング(年間計画の作成) |
| | 6月 | 公開授業週間 | | 研究協力校訪問6/15(於高教青陵高等学校) ミーティング(研修報告・授業参観報告) | マーケティング分野教員研修参加 ミーティング(研修報告) |
| | 7月 | 学習に関するアンケート 授業評価アンケート 7つのアンケート | ミーティング(指導方法の検討) | 初任者研修参加(学習指導と評価について) ミーティング(研修報告) | ミーティング(指導方法の検討) |
| | 8月 | | | | マーケティング分野研修会 商業教育研究大会参加 ミーティング(研修報告、情報交換) |
| | 9月 | 7つのアンケート 9/20 長田調査官来校 | 授業参観・ミーティング(振り返り) 公開授業実施 ミーティング(情報交換) | 公開授業参観・ミーティング(振り返り) ミーティング(情報交換) | 公開授業参観・ミーティング(振り返り) ミーティング(情報交換) |
| | 10月 | 公開授業週間 10/6 第3回津商型学習指導研修会 | | 公開授業参観・ミーティング(振り返り) ミーティング(情報交換) | 授業参観・ミーティング(振り返り) 公開授業実施 ミーティング(情報交換) |
| | 11月 | 11/25 津商モール 長田調査官来校 学習に関するアンケート 7つのアンケート | 研究授業参観・ミーティング(振り返り) ミーティング(研修報告、情報交換) | 研究授業実施・ミーティング(振り返り) | 研究授業参観・ミーティング(振り返り) 指導教諭授業参観 ミーティング(研修報告、情報交換) |
| | 12月 | 授業評価アンケート | ミーティング(まとめ) | ミーティング(まとめ) | ミーティング(まとめ) |
| | 1月 | 報告書の作成 | 報告書原稿の提出 | 報告書原稿の提出 | 報告書原稿の提出 |
| | 2月 | H29年度のまとめ | 今年度の成果と課題 | 今年度の成果と課題 | 今年度の成果と課題 |

| J班 授業力向上計画表 | | | | | |
|--|-----|---|---|---|--|
| *各自の欄に記入するもの：公開授業（めやす）・他校への授業参観・授業改善に係る研修会等・その他 *代表者（班内のとりまとめ）は◎の先生 | | | | | |
| テーマ | | 情報活用能力 | | | |
| 班員 | | ◎矢木 良 | 坂田真奈美 | 倉本 直行 | |
| 教科 | | 数学 | 商業 | 商業 | |
| 行事等 全体計画 | 5月 | 年間計画の作成 学習に関するアンケート 5/23 教員研修会 | ミーティング(年間計画の作成) 5/22 高教研数学部会研修会 (津山高校) | ミーティング(年間計画の作成) | ミーティング(年間計画の作成) |
| | 6月 | 公開授業週間 | 公開授業参観 ミーティング(公開授業について) | 公開授業参観 ミーティング(公開授業について) | 公開授業参観・ミーティング(振り返り) |
| | 7月 | 学習に関するアンケート 授業評価アンケート 7つのアンケート | 公開授業 ミーティング(計画の見直し) 7/31~8/1 統計指導者講習会(総務省) | 公開授業 ミーティング(計画の見直し) 初任者研修(総合教育センター) | ミーティング(計画の見直し) |
| | 8月 | | 5年研修(総合教育センター) | 初任者研修(総合教育センター) | |
| | 9月 | 7つのアンケート 9/20 長田調査官来校 | ミーティング(公開授業について) | ミーティング(公開授業について) | |
| | 10月 | 公開授業週間 10/6 第3回津商型学習指導研修会 | 公開授業参観 ミーティング(情報交換) | 公開授業参観 ミーティング(情報交換) 初任者研修(総合教育センター) | 公開授業参観・ミーティング(振り返り) ミーティング(研修報告、情報交換) |
| | 11月 | 11/25 津商モール 長田調査官来校 学習に関するアンケート 7つのアンケート | 授業参観・ミーティング(振り返り) ミーティング(生徒アンケート) | 初任者研修公開授業 ミーティング(生徒アンケート) | 授業参観・ミーティング(振り返り) ミーティング(情報交換) |
| | 12月 | 授業評価アンケート | ミーティング(授業評価アンケート) | ミーティング(授業評価アンケート) | ミーティング(まとめ) |
| | 1月 | 報告書の作成 | 報告書原稿の提出 高教研数学部会研修会(ヒュアリティまきび) | 初任者研修(総合教育センター) | 報告書原稿の提出 |
| | 2月 | H29年度のまとめ | 今年度の成果と課題 | 今年度の成果と課題 | 今年度の成果と課題 |

| つしょうレインボー・プロジェクト授業力の向上・授業改善 班別公開授業 指導案・振り返りシート | | 情報活用能力の育成 J班 | |
|---|---|--|----------------------------------|
| 数 | | 学 | |
| 公開授業振り返りシート | | | |
| 班 | J | 授業日時 | 平成 29年 7月 10日 (月) 4限 |
| 授業者 | 矢木 良 | クラス | 3年3組 |
| 授業内容 | 数学ⅡBⅢ + 数学史 | | |
| 研究テーマ | 情報活用能力 | | |
| 授業力向上 | 授業者の振り返り | | |
| 本時の目標 | 「解かない数学」を実践した。しかし、一方的に話す場面が多く、より研究が必要だと感じた。 | | |
| 津商授業3の取り組み | <p>数学史については、「なるほど」と思わせることができれば良い。小・中学の内容とのリンクを生徒にさせることができればよかった。</p> <p>「根拠をもって説明すること」の大切さをより伝えることができた。</p> | | |
| 主体的な学習活動 | <p>「根拠をもって説明すること」の大切さをより伝えることができた。</p> <p>説明できるようになるのが目標だったので、本人達に話をさせてもよかったと思います。</p> | | |
| 振り返り | <p>「根拠をもって説明すること」の大切さをより伝えることができた。</p> <p>説明できるようになるのが目標だったので、本人達に話をさせてもよかったと思います。</p> | | |
| 主体的な学習活動の取り組み | | 意見交換・研究協議 | |
| <p>○目標を達成するために学習活動がどのように工夫されていたか。(内容等の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芦田章洋の仕込みなど生徒に主体的に参加させるようにしていた。(倉本) ・ 森岡ではなく、セリフを言わせることによって参加できている生徒の姿があったので良かったと思います。 <p>○生徒自身が学習活動にどのように取り組んでいたか。(活動状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生のパワーに何となくついていこうとしていた。専門的なことはわからないが、生徒は前向きであったと思う。 | | | |
| <p>まとめ (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の数学が基礎になって、高度な数学が成り立っている面がある(説明がつくことから)。 ・ 主体的にしようとしていたが、普習った知識を呼び起こすことができずにいたため、考えたことが頭にある前提をもう少し考えるの必要だと思いました。 | | | |
| 岡山県立津山商業高等学校 学習指導案シート (公開授業用) | | 情報ビジネスクラス 3年3組 (選択者8名) | |
| 平成 29年 7月 10日(月) | 第4校時 | 情報ビジネスクラス | 3年3組 (選択者8名) |
| 教科・科目 | 数学・数学Ⅱ | | |
| 教室 | 3-3HR | | |
| 題材 (単元) | 数学ⅡBⅢ + 数学史 (三角関数・指数対数・微積分・数列・複素数平面) | | |
| 単元の目標 | <p>小学校、中学校時代に学習した算数や数学の公式がなせ成り立つのかを説明できるようになり、数学史を利用して数学に対する興味関心を伸ばす。また、根拠をもって説明することの必要性を理解する。</p> | | |
| 指導計画 | <p>数学史・・・1時間 ※夏季特別時間割の授業のため、1時間完結である。</p> | | |
| 単元の指導計画と評価計画 | <p>優：既習の公式を理解することで、論理的思考の重要性を理解する。 良：既習の公式と現在学んでいる数学との関係性がわかる。 可：既習の公式の起源がわかる。 本時においては、全員の生徒が良以上の評価をとれることを目標とする。 本時のねらい(生徒に提示する本時の目標) 自分たちが小学校・中学校時代に学んできた数学の過去と現在を知ることによって、根拠をもって説明することの重要性を理解しよう。</p> | | |
| 津商の授業3 | 生徒の主体的学習活動 (テーマ：情報活用能力の育成) | 評価の観点 | 具体的評価方法・工夫 |
| | 長方形 三角形の面積が積分为用いてい | 数学的見方・考え方 | 優：既習の公式を理解することとで、論理的思考の重要性を理解する。 |
| | 数学Ⅲの区分求積法には、数学Ⅱのシグマを用いるが元をたどれば長方形の面積の和に過ぎないことを発見する。 | 数学的見方・考え方 | 良：既習の公式と現在学んでいる数学との関係性がわかる。 |
| | 中学時代に何の気なしに通っていったマイナスマイクスマイナス=プラスの説明を、数学Ⅲの内容とともに理解する。 | 数学的見方・考え方 | 可：既習の公式の起源がわかる。 |
| | シグマの考え方は、小学校時代の算数が重要になってきていることを理解する。 | 数学的見方・考え方 | 優 |
| | 本時の振り返り(まとめ) | <p>・ 数学に対する興味関心を高めることが、数学の学力向上につながることを理解する。その際、主成分分析を用いて科学的にも検証されていることを理解する。 ・ 当然成立すると思ってきたことを真の意味で理解し、説明できることの大切さを感じる。 ・ 今までの人生すべてが振り返りでありであることを理解する。</p> | |

つしゅうレインボー・プロジェクト授業力の向上・授業改善
 班別公開授業 指導案・振り返りシート

言語能力の育成 D班

◎片岡 和昌

商業

| | |
|-------------------------------|--|
| 岡山県立津山商業高等学校 学習指導案シート (公開授業用) | |
| 平成29年10月5日(木) 第6校時 | 情報ビジネス科 3年3組 41名 |
| 教科・科目 | 商業科・マーケティング |
| 教室：国際経済実習室 | 指導者：片岡和昌 |
| 題材(単元) | 販売活動 (津商モールでの実践をめざした販売員活動と広告活動) |
| 目標 | 津商モールで実践できる効果的な販売促進を行う能力と態度を育てる。 |
| 単元の指導計画と評価計画 全7時間 | 主な学習活動 第1次 プロモーション(2時間) 第1時 プロモーションの重要性と戦略(1時間) 第2時 購買動機と消費者心理(本時) 第2次 広告(2時間) 第3次 販売員活動(1時間) 第4次 PR活動とパブリシティ(1時間) 第5次 その他のプロモーション活動(1時間) 本時のねらい(生徒に提示する本時の目標) 津商モールで販売員の望ましい行動を考えることで、消費者の購買動機や購買までの心理プロセスを深く考える。 |
| 津商の授業3 | 生徒の主体的学習活動 (テーマ：言語能力の育成) 1 津商モールの過去の写真から、顧客の状態を考える。 ①この写真がどのような場面なのか推測する。 ※どのような場面なのか発表し、場面の確認を行い共有する。 ②消費者のどのような心理にはたきかけようとしているのか考える。 ③その場面で販売員の行動・言葉を考える。 ※発表し、どのような心理の時にどのような対応すべきか確認する。 2 津商モールにおいて、購買心理プロセスの流れ図を作成し、どのような時に何を目標としてどのような行動をとるのか、班ごとに考え、発表する。 本時の振り返り(まとめ) |

| | | | |
|--|---|--|--|
| 公開授業振り返りシート | | | |
| 班 | D | 授業日時 | 平成29年10月5日(木) 6限 |
| 授業者 | 片岡 和昌 | クラス | 3年3組 |
| 授業内容 | 津商モールでの実践をめざした販売員活動 | | |
| 研究テーマ | 言語能力の育成 | | |
| 授業力向上 | 黒板に目標と授業の流れを明示すること で、本時の内容を確認させることができた。 | 授業者の振り返り | 参観者のコメント 明示できており、授業の見通しを持たせることができていた。 |
| 津商授業3の取り組み | 本時の目標 主体的な学習活動 昨年の津商モールを思い出させることで、自分たちが何に取り組まなければならないのか気づくことができた。対処法に対しては個人で考え、発表することと班で考え、班で考え、発表することを取り入れることで主体的に活動しなければいけない雰囲気を作り出すことができた。 | 授業者の振り返り 授業のまとめだけでなく、自分とは違った考えの人もいることや津商モールとのつながりについて気付かせることができた。 | 発表者 発表準備ができており、抵抗感なく発言できていた。 発表者はもともと多くてもよいのではないが。 |
| 振り返り | 授業のまとめだけでなく、自分とは違った考えの人もいることや津商モールとのつながりについて気付かせることができた。 | 授業者の振り返り 時間が確保でき、その時間に学んだ内容を振り返ることができていた。 | |
| 主体的な学習活動の取り組み | | | |
| 意見交換・研究協議 | | | |
| ○目標を達成するために学習活動がどのように工夫されていたか。(内容等の工夫) ・昨年の津商モールの写真を利用して、学習活動をスムーズに行うことができていた。 ・顧客に対する販売員の流れ図については、流れそのものを考えさせることで思考が深まるのではないが。 ○生徒自身が学習活動にどのように取り組んでいたか。(活動状況) ・グループごとに主体的に取り組んでいた。 ・グループ内での役割をもっと明確にさせべきだった。 ・最初に自分の考えをまとめ時間をもう少し長く確保し、さらに最後に他者の意見も参考に自分の考えを再度まとめさせるといった流れがあればよかった。 ・時間配分とこの時間に最低限身につけさせたいことをもってはっきりさせておくべきだった。 ・振り返りはもう少し時間をとって良いと思う。 | | | |
| まとめ(成果と課題) ・文章や言葉にすることで、ある程度の成果は得られたが、時間的な制約も考え、次回では、①自分で考える ②グループで考える ③他グループの考えに触れる ④他者の考えも参考にしながら、再度自分で考える という流れで1時間の授業を実践する。 ・多様な考えがあることに生徒は気づいていたようだが、そこからの繋がりを示していく必要がある。 | | | |

ウ 教員向け授業改善に係る取組

●平成 28 年度

| 月 日 | 教員向け | 生徒向け |
|---------------|--|--|
| 4/1 | 第 1 回職員会議での概要説明 | |
| 4/6 | 第 1 回校内教員研修 「AL 手法の習得で授業改善①」 「ディベート」研修 講師 榎野滋子 校長 | 各教科で「育てる力」、「シラバス」の提示。 「津商授業 3」に基づく授業（年間） |
| 4/25 | 第 2 回校内研修会 「AL 手法の習得で授業改善②」 「知識構成型ジグソー法」研修 講師 吉澤智美 教諭 | |
| 7/10 | | コミュニケーション講演会(1年生) 演題「What's Communication?!」 コミュニケーション講演会(2・3年生) 演題「What's Communication?! Part 2」(メンタル強化法を中心に) 講師 実践コミュニケーション研究所 所長・代表 西田弘次先生 |
| 6/1～5 | 公開授業(保護者・中学校対象) | |
| 7/8・ 11・12 | | 文化芸術による子供の育成事業(芸術家の派遣事業)(3年生) 講師 特定非営利活動法人パブリック 林 成彦先生・北村耕治先生 河野 悟先生・元田暁子先生 |
| 10/3 | 公開授業(来校者向け) 第 2 回津商型学習指導研修会 田中宏幸先生, 宮本浩治先生 研究授業「現代文 B」「財務会計」 | |
| 12/16 | 国立教育政策研究所視察訪問 指導助言者 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 長田 徹先生 岡山県教育庁高校教育課 参事 藤岡 隆幸先生 参観者 一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会 三ヶ田 浩二氏 川田 達彦氏 | |
| 1 月 | 国立教育政策研究所教育課程センター 関係指定事業 研究成果報告書発刊 | |
| 2/6 | 成果報告 1 年間の総括 | 学習成果発表会 |
| 3/24 | 国立教育政策研究所教育課程センター 関係指定事業 研究成果報告書発刊 | |

●平成 29 年度

| 月 日 | 教員向け | 生徒向け |
|---------------|---|---|
| 4/3 | 第 1 回職員会議 今年度の研究についての概要説明 ・昨年度の課題と、本年度の研究体制・ 研究計画について | |
| 4/6 | 第 1 回校内研修 「課題解決の方法を見つけ出そう」 講師 指導教諭 片岡和昌 内容 ・「真に自立した人間」に求められる学 力について ・言語能力(情報活用能力)育成の視点で の学習活動について 公開授業(～11月) | 各教科で「育てる力」,「シラバス」の提 示。 「津商授業 3」に基づく授業(年間) |
| 4/20 4/21 | 第 2 回校内研修 講演内容「本研究におけるキャリア教育 の視点」 講師 国立教育政策研究所 教育課程 研究センター 教育課程調査官 長田 徹先生 「本研究に係わる『キャリア教育の視 点』について」 | 講演「震災から学ぶ」 講師 国立教育政策研究所 教育課程 研究センター 教育課程調査官 長田 徹先生 |
| 5/16・17 | | コミュニケーション講演会(1年生) 演題「What's Communication?!」 講師 実践コミュニケーション研究所 所長・代表 西田弘次先生 コミュニケーション講演会(2・3年生 希望者) 演題「What's Communication?! Part 2」(メンタル強化法を中心に) |
| 5/23 | 第 2 回校内研修 「新しい自分に出会える学校」を創るた めに 講師 岡山大学教師教育開発センター 教授 高旗浩志 先生 内容 1 「学習する集団づくり」と協同学習 の理念 2 学習指導観・授業観の確立 3 次期学習指導要領が求める学力 観・学習指導観 4 学校は「新しい自分」に出会うとこ ろ一校内研修の充実 | |
| 6/1～7 | 公開授業(保護者・中学校向け) | |
| 7/7・ 10・11 | | 「文化芸術による子供の育成事業(芸術 家の派遣事業)」(3年生) 講 師 特定非営利活動法人パブリック 林 成彦先生・北村耕治先生 河野 悟先生・菊池祐美子先生 |

| | | |
|--------|--|---------|
| 9/21 | 長田調査官来校 津商モールに係るホームルーム活動参観 | |
| 10/2～6 | 公開授業(保護者・中学校対象) | |
| 10/6 | 第3回津商型学習指導研修会 田中宏幸先生, 宮本浩治先生 ・研究授業「現代文B」「財務会計」 ・研究協議 講師 安田女子大学文学部 教授 田中宏幸 先生 岡山大学大学院教育学研究科 准教授 宮本浩治 先生 | |
| 11/25 | 国立教育政策研究所視察訪問 指導助言者 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 長田 徹先生 研究開発部研究開発課指導課係長 淀川 雅夫先生 教育課程調査官(実務研修生) 今村 豊記先生 岡山県教育庁高校教育課 参事 藤岡 隆幸先生 参観者 一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会 三ヶ田 浩二氏 川田 達彦氏 山口 剛史氏 | 津商モール開催 |
| 12/12 | 校内研修 「授業」から「学習指導」への転換をめざすために-学習カウンセラーとしての教師- 講師 岡山大学教師教育開発センター 教授 高旗浩志 先生 | |
| 1/26 | 国立教育政策研究所教育課程センター 関係指定事業 研究成果報告書発刊 | |
| 2/6 | 成果報告 1年間の総括 | 学習成果発表会 |

エ 平成 29 年度 教員研修詳細

- 4月6日 テーマ 「課題解決の方法を見つけ出そう」
ねらい 真に「自立した人間」に求められる学力を考え、「言語能力」「情報活用能力」を育成するための学習活動について、それを実践するための課題・困難にしている理由を出し合い、解決する方法をグループで考える
講師 指導教諭 片岡和昌
内容 1 真に自立した人間に求められる学力について、どのように考えるか
2 言語能力(情報活用能力)の視点での学習活動について考える
3 振り返り
- 4月20日 テーマ 「本研究におけるキャリア教育の視点」
ねらい 国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業を進めていく上での留意すること等の指導を受ける
講師 国立教育政策研究所 教育課程研究センター
教育課程調査官 長田 徹先生
内容 1 学ぶことと将来をつなぐ
2 各教科の特質に応じてキャリアの視点で授業改善
3 特別活動を要とする
4 資質・能力の設定
5 評価の工夫
6 開かれた教育課程
- 5月23日 テーマ 「新しい自分に出会える学校」を創るために
ねらい 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために必要なことを考える
講師 岡山大学教師教育開発センター 教授 高旗浩志 先生
内容 1 「学習する集団づくり」と協同学習の理念
2 学習指導観・授業観の確立を
3 次期学習指導要領が求める学力観・学習指導観
4 学校は「新しい自分」に出会うところ―校内研修の充実を
5 振り返り
- 10月6日 第3回津商型学習指導研修会
テーマ 「言語能力の育成」・「情報活用能力の育成」
ねらい 「主体的・対話的で深い学び」の実現により目の前の生徒に育成したい資質・能力の伸長が見て取れるものを目ざす
講師 安田女子大学文学部 教授 田中宏幸 氏 「国語」担当
岡山大学大学院教育学研究科 准教授 宮本浩治 氏 「商業」担当
- 12月14日 テーマ 「授業」から「学習指導」への転換をめざすために
～学習カウンセラーとしての教師～
ねらい 学習指導を行っている過程で出てきた悩みや疑問といった課題について学年団を中心にして協議することにより、課題を共有し、誰のために・何のために授業改善が必要なのか再認識をする
講師 岡山大学教師教育開発センター 教授 高旗浩志 先生
内容 1 授業のなかで「気がかりな生徒」を開き合う
2 「気がかりな生徒」から学ぶ
3 振り返り

オ 7つの力と「言語能力」「情報活用能力」の育成を目指した授業とのつながりによる津商モールでの活動場面

| 7つの力 | 「言語能力」「情報活用能力」との活動場面 |
|--------------------------|--|
| 1. 状況把握力 | 津商モールに関するSWOT分析やKJ法等を使ってクラス内で話し合いをすすめ、津商モールの特徴を把握しようとする事ができる。売上データからパレート図を作成してABC分析を行い、販売分析を行おうとする。 |
| 2. 問題発見力 | 売上を伸ばすために自分たちの店舗で何が必要なのか、問題を見つけようとする事ができる。思考ツールを用いて自分で考えるだけでなく、クラス内で検討することで、各店舗の問題を見つけようとする事ができる。 |
| 3. アイデア力 | 売上げを伸ばすための工夫を考えようとする事ができる。お客様の役に立つことができる工夫を考えようとする。 |
| 4. チャレンジ力 | 未経験の役割でも、機会をとらえて自分を変化させようと取り組むことができる。 |
| 5. 企画立案力 | 売上目標高の設定や販売員活動の研修計画など、津商モールまでの計画をたてる事ができる。 |
| 6. チームワーク力 | クラス全員が自分の役割を遂行するだけでなく、助け合いながら解決に向けて取り組むことができる。 |
| 7. プレゼンテーション力・コミュニケーション力 | 顧客に対して、必要なタイミングで必要な事を分かりやすく説明をすることができる。 クラス内での話し合いの中で、相手の考えを聞きながら、自分の考えをまとめて伝えることができる。また、自分の考えに固執することなく、より良い考えを見つけようとする事ができる。 |

カ 成果と課題

「授業評価アンケート」（詳細 p. 55）にある通り、およそ8割の生徒は、授業内で「考える時間」や「振り返る時間」が「ある」と答えている。一年間、私たちが取組んできた「主体的で、対話的で深い学びの実現」のためには、必要不可欠なことである。本校の教員・生徒とも「津商授業3」で学習を行うことは「学習のスタンダード」となっているのだと感じる。およそ2割の生徒がそのことを感じていないことは残念ある。10月6日に行われた津商型学習指導研修会で表れているように、生徒への問の投げかけ方、グループ活動時の授業規律のあり方について先生方の悩みが現実問題として表れているのではないだろうか。12月14日には、岡山大学より高旗先生を招いて、「授業」から「学習指導」への転換をめざすためというテーマで、研修を行った。日頃気になっている生徒を中心に据えて、「学習指導の本質」について考えることで「教える側」からではなく、「学ぶ側」に立ち続けることの大切さに改めて気づかされ、今まで抱えてきた疑問や悩み——目標の立て方、問の投げかけ方、話し合いをいる時の役割分担、机の配置の仕方、発表の方法など——の解決の糸口を見つけたことができたように感じる。すべての生徒が「学習のスタンダード」と感じられるようになるという課題について、今後継続して取組んでいきたい。

キ 授業評価アンケート

授業評価アンケート(全体) 回答数 7月・・・24講座 12月・・・31講座

1-1 授業規律・マナーを守って授業を受けている

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 81.3% | 17.7% | 0.9% | 0.1% |
| 12月 | 77.4% | 21.1% | 1.2% | 0.3% |
| 比較 | -3.9% | 3.4% | 0.3% | 0.2% |

1-2 この授業に積極的に取り組んでいる

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|-------|
| 7月 | 64.9% | 32.6% | 2.2% | 0.4% |
| 12月 | 58.1% | 37.3% | 4.3% | 0.3% |
| 比較 | -6.8% | 4.7% | 2.1% | -0.1% |

1-3 予習・復習を自分でしている

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|-------|
| 7月 | 19.0% | 36.1% | 34.0% | 10.9% |
| 12月 | 18.4% | 38.8% | 33.8% | 9.0% |
| 比較 | -0.6% | 2.7% | -0.2% | -1.9% |

1-4 予習・復習以外の自主的な学習をしている

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|-------|
| 7月 | 15.2% | 24.4% | 42.0% | 18.3% |
| 12月 | 13.2% | 29.0% | 40.1% | 17.7% |
| 比較 | -2.0% | 4.6% | -1.9% | -0.6% |

1-5 課題や提出物は期限を守って提出している

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 62.8% | 28.6% | 7.1% | 1.5% |
| 12月 | 63.3% | 27.7% | 6.9% | 2.0% |
| 比較 | 0.5% | -0.9% | -0.2% | 0.5% |

2-1 先生は「本時の目標」をはっきり示して授業を始めている

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|-------|
| 7月 | 65.8% | 26.1% | 5.5% | 2.6% |
| 12月 | 57.0% | 35.3% | 6.1% | 1.6% |
| 比較 | -8.8% | 9.2% | 0.6% | -1.0% |

2-2 授業の流れは理解しやすくなっている

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 58.1% | 30.8% | 9.3% | 1.8% |
| 12月 | 52.6% | 36.5% | 8.6% | 2.2% |
| 比較 | -5.5% | 5.7% | -0.7% | 0.4% |

2-3 授業の内容が理解しやすくなっている

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 53.1% | 34.0% | 10.3% | 2.6% |
| 12月 | 45.9% | 39.1% | 12.2% | 2.9% |
| 比較 | -7.2% | 5.1% | 1.9% | 0.3% |

2-4 自分で(班で)考える時間がある

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 55.1% | 33.7% | 7.7% | 3.5% |
| 12月 | 45.6% | 38.1% | 12.2% | 4.1% |
| 比較 | -9.5% | 4.4% | 4.5% | 0.6% |

2-5 自分で(班で)考えを発表する時間がある

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|--------|--------|---------|------|
| 7月 | 50.4% | 33.8% | 11.3% | 4.5% |
| 12月 | 36.4% | 42.1% | 16.4% | 5.0% |
| 比較 | -14.0% | 8.3% | 5.1% | 0.5% |

2-6 授業の振り返りの時間がある

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 43.3% | 35.7% | 16.2% | 4.9% |
| 12月 | 35.8% | 40.5% | 17.5% | 6.1% |
| 比較 | -7.5% | 4.8% | 1.3% | 1.2% |

3-1 知識に関する理解がしやすい授業である

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 48.4% | 39.6% | 10.0% | 2.1% |
| 12月 | 44.8% | 43.5% | 9.1% | 2.6% |
| 比較 | -3.6% | 3.9% | -0.9% | 0.5% |

3-2 授業で得た知識を使って、考えたり活動したりする授業である

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|-------|
| 7月 | 46.1% | 42.5% | 9.8% | 1.6% |
| 12月 | 40.8% | 45.3% | 11.3% | 2.5% |
| 比較 | -5.3% | 2.8% | 1.5% | -0.9% |

3-3 自分の考えを広げたり深めたりする内容が盛り込まれた授業である。

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 37.1% | 44.7% | 15.0% | 3.1% |
| 12月 | 35.2% | 44.2% | 16.9% | 3.6% |
| 比較 | -1.9% | -0.5% | 1.9% | 0.5% |

3-4 学んだ内容が日常生活や実社会、将来より良い人生を送ることにつながるものである

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|------|
| 7月 | 44.5% | 41.1% | 12.5% | 1.9% |
| 12月 | 42.3% | 44.4% | 11.2% | 2.1% |
| 比較 | -2.2% | 3.3% | -1.3% | 0.2% |

3-5 宿題の量は適当である

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|-------|
| 7月 | 54.2% | 32.7% | 9.6% | 3.5% |
| 12月 | 53.7% | 36.1% | 7.6% | 2.5% |
| 比較 | -0.5% | 3.4% | -2.0% | -1.0% |

3-6 授業に熱意・工夫を感じる

| | そう思う | 大体そう思う | あまり思わない | 思わない |
|-----|-------|--------|---------|-------|
| 7月 | 53.5% | 36.3% | 7.8% | 2.4% |
| 12月 | 47.7% | 41.4% | 9.2% | 1.7% |
| 比較 | -5.8% | 5.1% | 1.4% | -0.7% |

状況分析

「授業評価アンケート」は、全教員が指導している科目のうち選択実施したものである。アンケートをとった時期について、7月実施分は一学期期末考査後の特別時間割中、12月実施分は検定後・津商モール後・二学期期末考査前、2年生については学期中に修学旅行が重なった時期である。

資料の分析と解釈

各項目について、問1-1、1-2、1-5、2-1、2-2、2-3、2-4、3-1、3-2、3-4、3-5、3-6の12項目については、調査時期に関わらず「そう思う」と「大体そう思う」の合計の割合が80%を越えている。この結果から、これらの内容についてはおおむね目標を達成している。

津商型学習スタンダードのポイントの1つである「本時の目標の明示」に関する問2-1では、肯定的回答が7月実施分では91.9%、12月実施分では92.3%と、ほぼ全ての割合の生徒が「本時の目標」を認識している。

「授業の流れ」について問2-2から、7月実施分では88.9%、12月実施分では89.1%と高水準を示している。これらのことから、本校が目指す「津商授業3」のポイントの一つ目である「本時の目標の明示」については、定着しており、授業の形態についておおむね満足できる結果である。

問3-1、3-2、3-3、3-4について「知識に関する理解がしやすい」、「得た知識を使って考えたり活動した

りする」、「日常生活や実社会とのつながり」についての問いに関しては、その割合に増減のばらつきがあるが、いずれも85%以上の生徒が肯定的に回答している。レインボー・プロジェクトでは、各教科・科目の学習が特別活動や社会との繋がりを意識するものとなることをねらいとしていることから、おおむね達成できていると言える。

しかし、7月実施分から12月実施分にかけて、問1-2、2-1、2-2、2-3、2-4、2-5、2-6、3-1、3-2、3-6の10項目について、「そう思う」の割合が減り、「大体そう思う」の割合が増加している。原因としては、問1-2の「この授業に積極的に取り組んでいる」の割合の減少が、他の項目にも影響を与えていると考えられる。この要因は、以下の2点であると考えられる。

- ① 7月から12月にかけて、授業内容が大幅に難化している。
- ② 3年生は進路決定を控えた時期、2年生は行事が連続した時期であり、生徒・教員ともに余裕がなかった。

次年度の課題

この結果から見ると、次年度は問1-3、1-4のような「自発的な学習」に取り組むことができるような生徒を育てることが課題であることがわかった。このことは「つしょうレインボー・プロジェクト」における7つの力の1つである「チャレンジ力」の育成と関係している。授業や特別活動を通じての「チャレンジ力」の育成が必要である。

また、アンケート内容や文言も教員目線ではなく生徒目線で、理解しやすいものにする必要がある。

まとめ

7月実施分と12月実施分から、問による差はあるもののほとんど全ての項目についておおむね期待する結果へと変化している。しかし、全教員が協力して取り組んだため、教員による授業の工夫の変化を感じていなくなっているように思われる。問3-6から、5%程度の生徒が、教員の熱意・工夫について、「そう思う」から、「大体そう思う」と感じるようになってしまっているため、今後は教員個人の創意工夫を含めた取組を進めたい。

(3) 特別活動につなげる教科の取組

| 商業科 「マーケティング」学習指導案 岡山県立津山商業高等学校 地域ビジネス科 2年2組 平成29年9月21日(木)第6校時(45分授業(5分短縮授業)) 場所：講義室 指導者：小林 通浩 | | |
|--|--|---------------------|
| 単元 (題材) | 第3章 市場調査 第2節 情報の収集と分析 | |
| 単元の 目 標 | 市場調査の手順と方法及び情報の収集と分析を取り扱い、情報を収集・分析して報告書の作成及びプレゼンテーションを行うための基礎的な知識と技術を習得させる。 | |
| 単元の 指 導 計 画 | 第3章 市場調査 第1節 市場調査のプロセス 第2節 情報の収集と分析 (「あなたがお店を創るなら」)・・・ (本時) 第3節 調査報告書作成とプレゼンテーション 単元のまとめ 市場調査実習 | |
| 指導上 の立場 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態 意欲的な生徒が多く、グループワークを通して意見を共有し、理解を深めている。津商モールの取組みでは、はじめて店舗経営を経験するが、興味関心を抱きながらも具体的な取組みはイメージできていない。 ○教材観 顧客満足の実現を目指してビジネスの諸活動を主体的、創造的に行うためのマーケティング活動には、情報の収集・分析・活用は必ず必要であることを意識させたい。また、津商モールを目前に控え、教科学習と特別活動とを効果的に結び付けたい。 ○本単元で工夫する点 本単元の市場調査実習は津商モールを題材とする。実習に先立って、「あなたがお店を創るなら」と生徒自身が起業することをイメージさせ、そこで得られた課題意識から、津商モールを題材とした市場調査実習へと効果的につながるようにしたい。また、思考を深めるためにシンキングツールを有効に活用する。 | |
| 本時の 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ○市場調査の重要性と情報の活用について関心をもち、学習に主体的・能動的に取り組もうとする。また、特別活動である津商モールを題材として取り上げ、活動の見通しを持ってグループで協調的問題解決型学習ができる。(主体的に学習に取り組む態度) ○起業について、様々な角度から多面的に検討し、最適な検討結果を求めることができる。(思考力・判断力・表現力) ○顧客満足を実現するために必要な情報を市場調査で収集し、分析・解釈し伝える知識と技術を理解する。(知識・理解) | |
| 学 習 活 動 | 教師の支援・留意点 | 評価規準【観点】・ (評価方法) |
| 1 前時に個人で作成したシンキングツール(マインドマップ)を確認し、本時から市場調査実習、津商モールへと学習の見通しを持つ。 (5分) | <ul style="list-style-type: none"> ○前時の振り返りを行い、本時のめあてを説明する。本時から市場調査実習、津商モールへと学びの計画を再確認する。 (本時は短縮授業のため、個人ワークは前時に取り組んでおく。) | |
| 【めあて】 魅力あるお店を考えることから、学習と津商モールとのつながりを意識できるようになろう！ | | |

| | | |
|--|---|---|
| <p>2 顧客満足の実現をするには、どのようなお店が良いか、前時に個々で作成したシンキングツール（イメージマップ）で広げた意見を付箋に記入し、シンキングツール（フィッシュボーン）を活用してまとめる。[グループワーク]（12分）</p> | <p>○机間指導をおこない、状況に応じて生徒に質問することで、活発な話し合いを促す。</p> | <p>・与えられた課題について関心をもち、学習に主体的・能動的に取り組もうとする。また、グループで協調的問題解決に向けて取り組める。【主体的に学習に取り組む態度】（行動観察）</p> |
| <p>3 グループで意見を整理（構造化）し、発表準備をする。[グループワーク]（3分）</p> | <p>○机間指導で声を掛けるときは、生徒の中にある意欲・やる気・可能性を引き出し、自発的な行動と、授業目標の実現が図れるように意識する。</p> | <p>・情報を収集、整理、表現する目的、観点、判断基準をつかむことができる。【情報活用の実践力】（リフレクションシート）</p> |
| <p>4 まなボードを黒板に貼付し、発表する。[発表]（写真1）（10分）</p> | <p>○話し合いが行き詰まっているグループには、干渉しすぎず主体性を奪うのではなく、質問で場を支え、主体的・能動的に学習が進むように心掛ける。</p> <p>○まなボードでは、教室後部の生徒には見えづらいので、写真に撮ってビデオプロジェクトに映し出す。</p> | <p>・与えられた課題について思考を深め、探究心をもって論理的に課題解決を図ろうとしている。また、自分達の意見を適切に表現している。【思考力・判断力・表現力】（リフレクションシート）</p> |
| <p>5 学習内容のまとめをする。（5分）</p> | <p>○生徒の発表をまとめ、顧客満足の実現はどのようにあるべきかを提案する。</p> | |
| <p>6 本時の学習内容や取組内容の振り返りをリフレクションシートに記入し、本時での気づきが起る。（本時の振り返り）（写真2）（10分）</p> | <p>○単に「良かった」「悪かった」だけの浅い振り返りでなく、効果的な振り返りになるように、振り返りの視点を明確に与える。</p> <p>○授業後はリフレクションシートから学習内容の定着度や生徒に身に付いた資質や能力を読み取り、次時の授業計画に役立てる。</p> | <p>・学習内容について振り返りができるとともに、学習内容と実社会・仕事・津商モールとを直接つなげて考えることができる。【思考力・判断力・表現力】（リフレクションシート）</p> |
| <p>【つしょうレインボー・プロジェクトの「7つの力」と本時の授業内容との関連】</p> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・状況把握力・・・ ・問題発見力・・・ ・アイデア力・・・ ・チームワーク力・・・ ・プレカ・コミュカ・・・ | <ul style="list-style-type: none"> 津商モールを目前に控え、既習の内容からこの取組みにはどのようなことが必要かを把握できる。 顧客満足を実現するためには、どのような情報が必要かに気付くことができる。学習が社会や仕事に繋がっていることに気付くことができる。 固定観念に囚われず、独創的な意見を発案できる。他者からの独創的な意見を受け入れることができる。 他者と力を合わせてミッションを成し遂げることができる。 自分の考えを相手にわかりやすくまとめて伝えることができる。 他者の意見をしっかりと傾聴することができる。 | |

先にある「実社会」とつながっていることを教員・生徒ともに常に意識しておくためである。

◎授業参観後の指導助言

授業実施後，国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 長田徹先生より次のように御指導をいただいた。

○評価された点

1. 「主体的な学び」の工夫がされていた。
「目標」，「内容」，「流れ」が明確であった。
「前時の振り返り」から始まっていた。
シンキングツール，ICTといった道具を使いこなし，「良い」授業が「スペシャルな」授業になっていた。
発問も的確であった。
2. 「対話的な学び」について
男女の仲が良い。
机間指導で声掛けがされていた。
3. 規律について
タイマーをスクリーンに表示し，生徒に確認させる。
話し合いの途中，全員に右手を挙げさせ，注目させる。
4. 前時に個人で考えを拡散させ，本時に集団で考えを収束させていた。
5. グループでA～Dを毎時決め，全員に発表の機会を与えていた。

○改善すべき点

1. 前時が「いいお店って…」という顧客目線であったが，本時は顧客満足度という経営者目線になっていた。
しかし，フィッシュボーンの例示をしたため，結果はうまくいった。
2. 時間の延長 本時の流れの中で生徒に時間がかかるところを示し，何分いるか聞くなどしてもよい。
3. 導入5分の予定が12分だった。この時間延長が振り返りの時間が不足したことにつながっている。



写真1 発表の様子

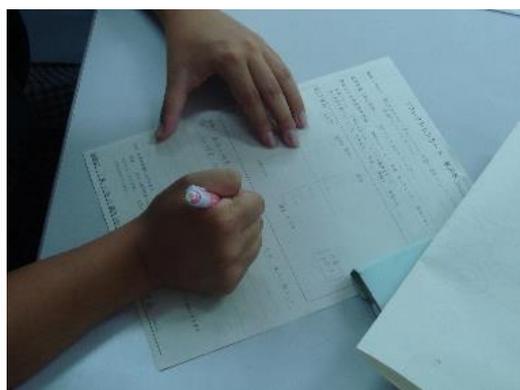


写真2 リフレクションシート記入

平成 29 年 11 月 17 日 (金) 第 4 校時
 情報ビジネス科 3 年 4 組 (男子 13 名 女子 27 名)

教科・科目 家庭 家庭総合

教室 図書館 指導者 高家 千代子

題材 (単元) 第 5 章 食生活 4 献立と調理 (教科書「家庭総合」教育図書)

単元の
目標

- ・豊かな食生活のためには、それぞれの生活スタイル・健康状態などに合わせて食事計画を立て、実践することが大切であることを理解する。【関心・意欲・態度】
- ・家庭クラブ行事の一環としておこなう、孫心弁当宅配ボランティア活動の献立を考える。【思考・判断・表現】

単元の
指導計画
と
評価計画

- 1 何をどれだけ食べる・・・1 時間
 - 2 高齢者食を理解する・・・1 時間
 - 3 高齢者食の調理・・・2 時間
 - 4 献立を立てよう 「孫心弁当」の献立を立てる・・・2 時間 (本時)
- 【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】

本時のねらい (生徒に提示する本時の目標)

高齢者食を理解し、「孫心^{まごころ}弁当」の献立を考える。(図書館活用授業)

生徒の主体的学習活動
(2 時間連続)
(情報活用能力)

評価
の
観点

具体的な評価方法・工夫



津商の
授業 3

1. 授業の流れを理解する。(個人)
2. 献立の立て方を理解する。(個人)
3. 9 品の料理を決める。(グループ)
各料理を誰が担当するかをグループで協議する。
4. 小献立用紙の記入 (個人)
弁当・高齢者食に関する本を参考にし、各自が担当する料理を考える。「津山市立図書館」「岡山県立図書館」「本校図書館」の本を活用する。
5. コンセプトを考える。
(個人)→(グループ)
6. レイアウトの決定 (グループ)
7. 発表原稿の作成 (グループ)
8. 発表 (グループ)
9. 個人の振り返り

関心・
意欲・
態度

思考・
判断・
表現

- ・授業全般について説明する。
- ・高齢期の食事を説明する。
- ・過去の孫心弁当を提示する。
- ・事前課題をメニューに取り入れるように促す。
- ・小献立用紙の表には献立名と絵を記入し、裏には 4 桁番号などの記入があるので誰の作か判断しやすい。
- ・料理を研究しながら、コンセプトを考えている。全員の意見をまとめ、発表用紙に記入している。
- ・献立をバランスよく、食べやすく配置するよう促す。
- ・発表原稿の例を示す。
- ・発表の態度などを評価する。
- ・校内コンテストに向けた提出用紙の処理を指示する。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

本時の振り返り (まとめ)

※振り返りの工夫

ワークシートの振り返り欄を活用し、自己評価と自由記入をおこなう。

(4) 津商型学習指導研修会

ア 日 時 平成 29 年 10 月 6 日 (火)
研究授業 11:50～12:40
研究協議 13:20～15:30 (会場：大会議室)

イ ねらい

本校の教育活動は、未来の津山地域のビジネスリーダーを育成することた目的である。そのためには、真に「自立した人間」に求められる学力を向上させるための授業づくりが課題となっている。

本年度は、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため「言語能力の育成」・「情報活用能力の育成」の二つの研究分野に分かれ、3人1組の班を編成し、年間を通して授業改善に取り組んでいる。本研修会では、2名の授業者が取り組んだ研究の成果を授業実践にて公開し、個々の教員が日頃の授業を振り返るとともに、研究協議において各自の課題を見出し、目の前の生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成に一層効果的な授業の実践の推進の契機とする。

ウ 研究授業者及び参加者

| 研究分野 | 教科 | 科 目 | 授業担当者 | クラス |
|-----------|----|--------|---------|--------|
| 言語能力の育成 | 国語 | 現代文 B | 教諭 萱嶋あや | 2年4組 |
| 情報活用能力の育成 | 商業 | 財務会計 I | 教諭 高見孝志 | 2年1・2組 |

| 本校教員 | 外部参加者 |
|------|-------|
| 40名 | 5名 |

エ 指導助言者

| 研究分野 | 講 師 | 所 属 |
|-----------|---------|-------------------|
| 言語能力の育成 | 田中宏幸 先生 | 安田女子大学文学部 教授 |
| 情報活用能力の育成 | 宮本浩治 先生 | 岡山大学大学院教育学研究科 准教授 |

オ 研究授業の振り返り

○「言語能力の育成」国語「現代文 B」

国語はどの学習材から、何をどのように学び取らせるのかを比較的自由に決めることができる。よって、どの時期に、何を学び取らせる必要があるのかを検討し、課題設定を行いたい。誰かの立場になって考えることで、生徒は問題意識を持ちやすかったように感じる。生徒個々で考えたことを、班で話し合い、発表するという流れを撮ったことにより、「考える力」、「表現する力」の深まりに繋がり、「言語能力」の育成に高められていたように思う。このことは、授業以外の活動の場面において、チームで取組む力に繋がっていくのではないか。

選択肢の作り方については、考えるためのプロセスなのか、結論を導くためのものなのかを吟味しておく必要がある。また、選択肢があることで、考えの範囲を狭めることにつながることも考慮する必要がある。話し合いを行う時の、

机の並び方については適切な方法を選択できるようにしたい。

○「情報活用能力の育成」商業

「商業は実学である」とよく言われる。実社会に繋がっていることを学んでいるからである。しかしながら、財務諸表の作成方法を学んでいるものの、そこから何を読み取ることができるのか気付いていないように感じる。会計に関する情報から企業の利益だけでなく、貸倒や減価償却の処理の仕方により、そこに隠された資本の変化に気付いてこそ「情報活用能力」の育成につながるものと思う。そこで、本時では生徒各自が企業の会計担当者になったものと想定し、何のために貸借対照表を作成するのかを考え、会計処理の操作について、根拠を持って答えられることを目標とした。生徒は話し合うことにより、自分とは違う考えに触れることができ、新たな気づきや考えを深めることにつながることができたのではないだろうか。

カ 研究授業，講評，協議を受けての参加者のリフレクションシートから

【感じたこと/学んだこと/わかったこと】について

○「本時の目標」について

- ・きちんと目標を立て、授業の流れを明示しており、生徒は学習活動をスムーズに行っていたように感じる。改めて、「めあて」、「目標の設定」が大切であることを確認することができた。また、日頃の自分授業と比較し、課題設定により生徒の活動も思考過程もずいぶん変わるということが分かった。適切な課題設定が必要である。
- ・学習活動の中で、何かを判断することに問題意識を持たせること。そのために課題をどのように設定するかということが大切である。

○グループワークについて

- ・両者の授業とも、グループ活動を取り入れていた。グループ内での役割分担を行い、生徒が主体的に活動できるように工夫されていた。しかし、話し合いを行うには、そのための適切な机の配置があることや課題の設定の仕方に工夫が必要な事に気付かされた。

○選択肢の在り方について

- ・生徒の思考や解決の糸口を見つけ易くするために選択肢を用いがちであるが、選択肢の存在により思考が狭まるということに気付かされた。選択肢一つをとっても、なぜその選択肢が必要なのか、その選択肢は適切なのか考えるようにしたい。

○ICTの利用について

- ・ICT(プロジェクタ)を上手に利用して授業の流れや指示内容を明確にされていた。

○思考力を深めるための工夫について

- ・自分の事として考えさせることに苦労している。だれかの立場に立って考えさせることは、もっと難しいように感じていたが、生徒の様子を見る限りでは、自分以外の立場で考える方が取り組みやすいように感じた。なりきるためにいろいろな思考を巡らせることから、思考の深まりも見て取ることができた。また、実社会に則した課題を設定することで、熱心に学習に取り組めたのではないか。

○振り返りについて

- ・振り返りの時間が大切であること。

○その他感じたこと

- ・優先順位を付けた指導が必要である。 ①判断力→②思考力(根拠)→③表現力
- ・言語能力の育成という点で、小説教材でできることをもっとしっかり考えて取り組む必要がある。
- ・情報活用能力の育成ではこちらで材料を用意する際どんな形でどんな量のものが必要かしっかり考えたい。

- ・将来身に付けさせたい力を意識した教育活動が必要。
- ・アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの相関性の再認識ができた。

【これからやろうと思ったこと/始めようと思ったこと】について

○課題設定について

- ・誰かの立場に立ってという視点を持った課題を設定すること。
- ・演劇的要素を取り入れた課題設定。
- ・生徒自身の生活に関係した課題を設定すること。
- ・評価を想定した本時の目標を設定すること。→7つの力に対応したもの

○授業規律について

- ・「授業規律(グループワーク)の時に指示を出すときは正対させる」を全ての教員が意識する。

○授業の工夫について

- 生徒が主体的に取り組める工夫として挙げられたのは次のとおりである。
 - ・その問題を考えるための場面設定を作ること。
 - ・主体的活動を保障しながらこちらで限定しながら誘導していくこと。
 - ・いろいろな立場から物事を考えたり、とらえたりできるような工夫をすること。
 - ・実社会にある内容を取り入れながら、生徒に誰かの立場に立って考えさせる。
 - ・本当の世界(現実)をもっと知らせて思考させる。
 - ・興味・関心につなげるために、実社会に関連した内容を取り入れる。
- 協働的な学習の工夫として挙げられたのは次のとおりである。
 - ・結論を見据えたグループワークの手法選択。
 - ・座席の形態を利用してのグループワーク。
 - ・実験結果をグループで意識させ発展させたこと。
 - ・ワールドカフェなどを用いた対話的な授業。
 - ・対話的な活動を増やす。
- 思考力を深めるための工夫について挙げられたのは次のとおりである。
 - ・質問が適切かどうか再考する。
 - ・理由がきちんと語れる選択肢を考える。
 - ・選択肢の設け方としてどの時点でどのような選択肢を示すのか考える。
 - ・判断から始まり、理由を考えることが思考力を働かせることになり、それを表現力につなげるようにする。
 - ・生徒が考える場面や時間をどのように設定するかしっかり考える。
 - ・演劇的手法を取り入れたい。
- ICT機器の利用について
 - ・これまでは自分の意見を表出するほうに重きを置いていたので、ICT機器を活用したい。
- その他の工夫として挙げられたのは次のとおりである。
 - ・話すこと、聞くことの指導を行いたい。
 - ・効果的なアクティブ・ラーニングを取り入れること。
 - ・見方、考え方を深めるための勉強。
 - ・言語にこだわった指導をもっと丁寧にしっかりとやる。
 - ・教科間連携を行ってみたい。
 - ・今後の入試改革へむけての speaking や writing の力を深めるための活動を取り入れる。

キ 研究授業

①「主体的・対話的で深い学び」の実現：研究課題「言語能力の充実」

授業者 国語科 教諭 萱嶋あや

実施科目 現代文B

実施クラス 2年4組 42名

実施場所 2年4組 HR

内 容

小説を読み、個人で挙げた疑問を班ごと共有し、話し合いによって解決した後、班で出た答えを共有する活動を行った。その過程で本文に根拠を求めながら問題を考える力や、一つではない答えの選択肢から、妥当性を検討したり、選択肢同士を結び付けたりして新たな答えを形成していく力を生徒に身に付けさせる意図であった。本時は主に後者の活動であり、班で一つにまとめた答えを「ワールドカフェ」の形式で交流させた。自分の班の意見を元に他の班と交流し、再度自分の班に戻り問題について再考察させた。毎時間の活動の成果を「成果報告書」に記入させ、生徒が各時間学んだ内容を深化させ、指導者側も生徒の理解度を図ることができるようにしている。

成 果

学習前と比べると、班の方向性は変わらずとも、他班の意見も根拠づけに加えている班や、他班の意見を上手に取り入れ、最初の自班の意見とは大きく変わった班もあった。必ずしも自分の班の意見が正しいと固執したり、他班の意見が正しいと思いきみ妄信したりするのではなく、他班の意見を聞くことで、自分の意見を深化できる可能性を模索できていたという姿勢については一定の成果をあげたのではないかと考える。

課 題

生徒に求めている読解力は、本文を根拠にした上で、 $+\alpha$ の想像力である。本時では、意見の根拠は本文中に求めると言いながら、本文を見る機会を設けることがなかった。自分たちの班の意見がどこの記述を元に行っているかを、こまめに確認させずに進めていくと、勝手な想像で読んでしまう危険性がある。常に本文に立ち返らせる必要を感じた。

また、「到達点」を選択肢にするのか、「到達までの過程」を選択肢にするのかといった点も課題である。到達点を選択肢にしてしまうことで「一つの正解幻想」を求めすぎている生徒や、知識同士を関連付ける発想に至らない生徒を少なくしたいというねらいはあったが、逆に三つに選択肢を縛ってしまうことで、3つの選択肢以外の自由な発想が阻害されてしまう可能性が出てしまう。生徒や、扱う教材によって、「選択肢」を使った効果的な授業を行っていきたい。



班活動の様子



発 表

| 本時案（第四次） | | |
|--|--|--------------------------------------|
| 目標 | ○自分の班の意見を的確に伝え、他の班の意見を正確に聞き取り、個人の考えを深めようとしている（関心・意欲・態度） ○自他の班の意見を比較し、多角的な視点で「Kの死の要因」についての考えを深めることができる（読む能力） | |
| 学習活動 | 指導・支援の配慮事項 | 評価規準・方法 |
| 1 本時の目標をもつ（5分） | ○「Kの死の要因」について調べたことを「ワールドカフェ」の形式で意見交換し、自他の班の意見を踏まえて、「Kの死の要因」について再度考察することを伝える。 ○本時の目標を示すことで、本時にしなければならないことを意識させる。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 本時の目標 他者の意見を聞き、多角的な視点で自分の考えを深める </div> | | |
| 2 発表の準備を行う（10分） | ○ワールドカフェの説明を行う。 ・テーブルホスト一人が班に残り、その他の班員は別の班の席へ移動する。 ・テーブルホストは現時点での「Kの死の要因」の調査結果について説明する。 ・その際本文中の根拠を挙げる、資料を提示する、等説得力のある説明が行えるようにする。 ・他の人は前の人と意見がかぶらないように自分の班の意見を説明する。 ・説明が終わった後は質疑応答の時間として使う ・テーブルホスト以外のメンバーは他の班の意見を聞き、自分の班員に伝える。 | |
| 3 自他の班の意見を交流する（7分×2） | ○発表の準備時間を取らせ、自分たちの意見を持たせることで、スムーズに意見交流に移れるようにする。 ○ワールドカフェを行う。 ・他の班の意見を聞くだけでなく、メモをとらせることで、注意して聞くことができるようにする。 ・話す順番を提示することや指示は時間を伝えることだけにし、生徒が活動する時間を増やす。 | ○班別学習を通して、積極的に話し合いをすることができている。 |
| 4 グループで話し合う（13分） | ○元の班に戻り、聞いてきた意見を自分の班員に伝えさせる。その際に様々な意見を書き出すことで、多様な解釈があることを理解させる。 ○他の班の意見と自分の班の意見を比較する、情報同士を関連付ける、組み合わせることで、自分たちが納得する「Kの死の要因」を考え、「まなボード」に記入させる。 ○「まなボード」を黒板に貼らせることで、全体で意見が共有できるようにする。 | （関心・意欲・態度）〈観察・WS〉 |
| 5 学習のまとめを行う | ○いくつかの班の意見を紹介し、個人の解釈を深めることができるようにする。 ○成果報告書に本時の成果を記入させ、本時学んだことの振り返りができるようにする。 | ○多角的な視点でこの作品を解釈することができる（読む能力）〈観察・WS〉 |
| 6 振り返りを行う（7分） | ○次回は本時で辿りついた解釈について意見文を書くことを伝える。 | |

② 研究授業者による授業改善「情報活用能力」の育成

研究授業者 商業科 教諭 高見 孝志 補助者 教諭 岩本 美穂
実施科目 財務会計Ⅰ
実施クラス 地域ビジネス科 2年1・2組選択者 42名
実施場所 2年2組 HR

内 容

本時の学習内容は、報告式の貸借対照表を学んだまとめとして、検定試験の決算問題をもとに作成した貸借対照表と、同じ問題で利益を操作した2つの貸借対照表を使い、なぜ企業は利益を操作するのか生徒自らが経理担当者になって考えることとした。本来なら報告式の貸借対照表の形式、科目の配列・区分と項目の分類・注記などについて理解し、貸借対照表を作成することが主眼となるが、一步踏み込んで何のために貸借対照表を作成するのかを自らが企業の経理担当者になったものと想定し考えるのである。また、グループ活動を通じて協働して問題を発見し、課題解決させるよう支援を行った。

本時の授業内容とつしょうレインボー・プロジェクト「7つの力」との関連として、状況判断力、問題発見力、チームワーク力、プレカ・コミュカの育成を目標とする。

成 果

普段は貸借対照表が正しく作成できるかを評価しているが、今回の授業ではもう一步踏み込んで、どのような操作をすれば利益が増減するのか。また、利益の増減が企業経営にどのような影響を与えるのか、なぜそのような操作をするのかを経理担当者といった立場で考えさせた。

その結果、検定問題を解き、「解答と自分の作成した貸借対照表が同じだった。」だけでなく、検定試験と同じ問題でも合法的な会計処理を行うことにより、利益を増減することができることを気づくことができるようになった。他者と協力して課題に取り組むことで、考えることを諦めていた課題にも取り組むことができた。今まで取り組んできた内容を眠らせてしまうのではなく、学んだ知識（情報）を活用し繋げることで解答が導き出せることに気づくことができた。

課 題

1時間の授業の中としては、考えさせる内容が多く、最終的に自分の考えを相手にわかりやすく伝えることまで時間がなくなってしまった。他者の意見を傾聴することも大切なことであり、そこからの気づきも多いが、他者の意見を聞いて気づくまでの時間が確保できなかった。主体的に考えさせているときになかなか導き出せないことがあり、予定時間が超過してしまうことがあった。発問の仕方に気を付けることやスモールステップの発問を出すタイミングについて検討する必要がある。

簿記の学習を進めていく中で、検定に合格できても実際に使えないといった話を聞くことがある。基本となる仕訳、各帳簿の関係、決算整理に財務諸表の作成までの「簿記一巡の手続き」を理解することの必要性や様々な会計情報の活用と、「簿記一巡の手続き」のそれぞれの結びつきを生徒に理解させることの大切さを踏まえた授業展開を考え、使える簿記会計の知識を習得させなければならない。



班活動の様子

商業科「財務会計Ⅰ」学習指導案

岡山県立津山商業高等学校 地域ビジネス科 2年1・2組 選択者（習熟度）男子9名 女子33名
 平成29年10月6日（金） 第4校時
 場所：2年2組 指導者：高見 孝志，岩本 美穂

| | | |
|------------|---|--|
| 単元 (題材) | 第Ⅱ編 貸借対照表 第8章 貸借対照表の作成 | |
| 単元の目標 | ○報告式貸借対照表の作成の方法を理解させる。 ○報告式貸借対照表の形式・科目の配列・区分と項目の分類注記などについて理解させる。 ○報告式貸借対照表を正確，明瞭に作成する能力を養う。 ○報告式の貸借対照表を作成することにより，利益の増減が会社経営にどのような影響を与えるのかを考えさせる。 | |
| 単元の指導計画 | 第Ⅱ編 貸借対照表 第1章 貸借対照表の概要 第2章 資産の意味・分類と評価 第3章 流動資産 第4章 固定資産 第5章 繰延資産 第6章 負債の意味・分類 第7章 純資産の意味・分類 第8章 貸借対照表の作成 第Ⅱ編まとめ・・・(本時) | |
| 指導上の立場 | ○生徒の実態 検定試験を取得しようとする意欲の高い生徒が多く，成果も出ているが，なぜ簿記を学習するのか，その必要性を理解していないため，主体的な学習活動が定着していないと考えられる。 ○教材観 報告式貸借対照表の作成後，意図的に利益を操作したB・C2つの貸借対照表からどう操作をしたのか気付かせ，分析をすることにより，利益操作が会社経営にどのように影響するのかを理解させる。 ○本単元で工夫する点 本来なら報告式貸借対照表の形式・科目の配列・区分と項目の分類・注記などについて理解し，貸借対象表を作成することが主眼となるが，一步踏み込んで何のために貸借対照表を作成するのかを自らが企業の会計担当者になったものと想定し考えさせる。また，グループ活動を通じて協働で本時の問題を発見し，課題解決していけるよう支援する。 | |
| 本時の目標 | ○報告式の貸借対照表を作成することにより，利益の増減が会社経営にどのような影響を与えるのかを考えさせる。 | |
| | 学習活動 | 教師の支援・留意点 |
| | 1 前時に作成した報告式の貸借対照表(A)と同じ内容で作成した貸借対照表(B)・(C)を比較し利益の操作をしていることを確認する。(3分) | ○前時の報告式貸借対照表の振り返りを行い，更に一步踏み込み，なぜ利益の違う貸借対照表を作成したのかを考えさせる。 |
| | 【学習活動のねらい】なぜ貸借対照表を作成するのか考えよう | |
| | 2 本時に配付した(B)・(C)の貸借対照表は決算整理仕訳を操作して利益を変えていることを聞き，ワークシートの空いている部分にメモをする。(5分) | ○机間指導を行い，違う部分のメモが出来ているかを確認する。 時間が経過したら，投影してある決算整理仕訳で確認する。 |
| | | ・与えられた課題について関心を持ち，学習に主体的に取り組める。 【関心・意欲・態度】(行動観察) |

| | | |
|--|--|--|
| <p>3 なぜ決算整理仕訳を操作して (B)・(C) のような貸借対照表を作成したのかグループで考えて発表する。(8分)</p> | <p>○比較的考えやすい (C) の貸借対照表の内容を発問しながら考えさせる。その際、生徒の中にある意欲・やる気・可能性を引き出し、自発的な行動を促すよう意識する。</p> <p>○ (B) の貸借対照表は解答が出にくいので、スモールステップの発問をしながら考えさせる。</p> <p>○発表する内容が他のグループに見やすいように工夫させる。</p> | <p>・与えられた課題について思考を深め、探求心をもって論理的に課題解決を図ろうとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 (ワークシート)</p> |
| <p>4 短期の支払い能力を判断する流動比率についてふれ、(A), (B), (C) それぞれ流動比率を計算する。(4分)</p> | <p>○利益を過大に表示するのは、当初流動比率をよく見せるためだったことを伝え、実際に貸借対照表 (A)・(B)・(C) の流動比率を計算させる。</p> <p>○流動比率は短期の支払能力を見るための指標となっていることを理解させる。</p> | <p>・与えられた課題について関心を持ち、学習に主体的に取り組んでいる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (ワークシート)</p> |
| <p>5 正しい決算を行っているのは (A) の内容だったことを聞き、なぜ (B), (C) がダメなのか、どのような問題が起こってくるのかを考えて発表する。(20分)</p> | <p>○3での活動と同様、(C) の内容は考えやすいが、(B) は分かりにくいと思われるので、机間指導を行いながら自発的な行動を促すよう意識して指導に当たる。</p> | <p>・与えられた課題について関心を持ち、学習に主体的に取り組んでいる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (ワークシート)</p> |
| <p>6 本時の学習内容や取り組み内容を振り返り、シートに記入することにより、なぜ貸借対照表を作成するのか、経理担当者として必要な事は何かを考える。(10分)</p> | <p>○過去の学習内容を再確認 (情報活用) することにより、なぜ貸借対照表を作成するのかを自ら導き出せるよう支援する。</p> <p>○実際に自分の将来と重ね合わせて経理担当者として必要なことを考えさせる。</p> <p>○次時の損益計算書の内容 (会計情報) も理解することでより深く経営に関わる分析が行えることを伝え、次時以降の興味が持てるよう指導する。</p> | <p>・本時の学習内容について振り返りができる。財務諸表はなぜ作成するのかということだけでなく、経理担当者として必要な事は何か考えている。</p> <p>【思考・判断・表現】 (振り返りシート)</p> |
| <p>【つしょうレインボー・プロジェクトの「7つの力」と本時の授業内容との関連】</p> <p>○状況判断力・・・同じ練習問題から利益を操作した3つ貸借対照表を比較することにより、どのような情報を操作すれば利益の操作ができるのかに気付くことができる。</p> <p>○問題発見力・・・なぜ企業が利益を操作するのかを考える時に、さまざまな会計情報が必要なことや検定試験対策としての貸借対照表の作成に留まらず、もう一歩先までみる力の必要性が理解できる。</p> <p>○チームワーク力・・・他者と協力して課題に取り組むことができる。</p> <p>○プレカ・コミュカ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。また、他者の意見を傾聴することができる。</p> | | |

IV 研究の成果と課題

1 特別活動を核とした7つの資質・能力の育成

【成果】

- 身に付けさせたい資質・能力を「7つの力」と定義し、特別活動において、ホームルームでの話合いや体験を通してその定着を意識させる取組であった。社会に出て必要な力（人間関係形成能力・社会参画・自己実現）を商業高校での学びと関連付けることにより、「津商モール」という売買体験を通して、より「ビジネス界で活躍できる人材」を育成するという本校の目指す生徒像の育成につながった。
- 特別活動における学習指導案の作成及び目標シート・振り返りシートの活用により、教員・生徒共に学校行事「津商モール」が商業での学びの実践の場と認識され、「7つの資質・能力（の育成及び実践）」を意識して諸活動に臨むことができた。

【課題】

- 「7つの資質・能力」における内容の重複（状況把握力と問題発見力、アイデア力と企画立案力）や具体的内容の不明瞭さのため、活動時に目標が立てにくかったり、振り返りがしにくかったりする場面があった。

2 学校行事「津商モール」で7つの資質・能力の実践及び定着の検証

【成果】

- 身に付けさせたい資質・能力の焦点化・構造化及びアンケート等検証改善方法の確立により、その定着や生徒の変容をより確実に把握し、商業の学びが学校行事「津商モール」における実践を通じて、より深い学びへとつながり、生徒のキャリア形成に強く関連していると実感できた。
- 生徒一人一人の変容を共有できる見取りの方法と評価方法の研究により、発達段階での成長を振り返ることができた。

【課題】

- 記述式のアンケートだけでは、教員・生徒ともに「資質・能力」の育成や変容を正確に把握できたとは言い難い。更なる検証方法を研究が必要。

3 特別活動、各教科、各学年団等において身に付けさせたい資質・能力育成のための指導計画の明確化と効果的な学びの方法の研究

【成果】

- 2年間の継続的な取組により、ホームルーム活動では、生徒の主体的な学びが更に促され、ホームルーム等における話合い活動の充実が図られるようになった。
- 「育成すべき資質・能力」に焦点をあてた様々な学習活動及び行事等の収斂。特別活動と各教科、又は、教科間における関連性を持った年間指導計画が整理された。
- 各教科での学びを特別活動の中の話合い活動等に取り入れることで、各教科と特別活動との関連性や実社会や実生活とのつながりを意識できるようになってきた。

【課題】

- 各教科間においても関連性や系統性を持った学習活動を実施し、効果的な学びとその深化を図る必要がある。

4 発達段階、学習活動に応じた育成する7つの資質・能力の焦点化・構造化及び活動計画の作成

【成果】

- 各分掌で独立実施している諸活動や行事等を、「身に付けさせたい資質・能力の育成」の観点から収斂し、生徒の入学から卒業までの3年間を通して、系統立てた計画・実施を行うことができた。
- 目標を焦点化・重点化することで、身に付けるべき資質・能力について意識的に活動できる。また、焦点化・重点化されたもの以外の資質・能力についても、それらと連動して育成されることが分かった。

【課題】

- 進路実現に資するため、学校行事に向けての事前事後の学習やホームルーム活動の記録等、発達段階における学びや成長について生徒自身が振り返ることができる成果物の蓄積方法を工夫する。

5 特別活動と各教科等の諸活動における横断的な学習の計画

【成果】

- 主に商業科目についてはあったが、「津商モール」での実践を意識した授業計画を立て、店舗経営や接客・対応等の活動に活かすことができた。
- ボランティア活動での実践につなげる授業実践により、生徒の社会貢献への意識、地域への感謝等、態度や意識の大きな変化が見られた。

【課題】

- 限定的な教科にとどまってしまった。更に関りを活かした授業実践を検討していきたい。

6 特別活動と教科の連携によるPDCAサイクルの確立

【成果】

- 生徒・教職員全員、また、地域が関わる学校行事を柱に据え、特別活動や各教科の学びと連携させ、チーム津商として計画・実施・振り返りによる課題の洗い出しを行い、創意工夫を重ね改善につなげていったことで、PDCAサイクルの確立がなされた。
- 生徒においても、目標シート・振り返りシートの蓄積により、教科と特別活動の関りが意識され、次回への改善・計画につながった。

7 今後の取組

特別活動を通して実践された商業高校での学びは、各々の進路選択や決定に向け大きく生かされている。その彼らの成長ぶりを糧とし、今後も生徒の主体的な学びを促し、キャリア形成に資するために、ホームルーム活動を始め、各教科において、生徒自身が発達段階における身に付けるべき資質・能力の育成をより一層意識し、その定着と変容を実感できる評価の工夫と学びの成果の蓄積を図りたい。また、2年間活動してきた校内の研究体制として研究の中心となっている学力向上委員会と津商モール検討委員会が活性化し、良いサイクルが出来上がりつつあることや、教員集団の授業改善の気運の高まりを感じることができた。そこで、学校に求められる教育目標を実現するために、特別活動を核とし、商業高校ならではの教育課程と、各教科を含めた学習や取組を通じて、横断的な視点から教育活動の改善や、その取組に有効なカリキュラム・マネジメントを更に進めていきたい。

おわりに

本校は、間もなく 100 周年を迎える、地域の伝統校です。地元を始め、関西・関東圏でも多くの同窓生の方々が、ビジネス界でご活躍なさっています。しかしながら、岡山県北における急速な少子高齢化による高等学校再編整備により、県北では現在唯一のビジネス教育の専門校となり、また、そのクラス数も往時の半数になってしまいました。同窓生の方々も 100 周年を迎えるにあたり、現在の学校や後輩たちの活躍の様子が気になっておられることと思います。本校に入学してくる生徒達の多くは、真面目で、学業に対しても前向きに一生懸命取り組もうとしています。今回のアンケートの結果からも、自己肯定感は割と高い傾向を示していることが読み取れます。おそらくこの結果は、伝統校に入学した自負と、地域に根差した様々な体験活動を通じたつながりにより、多くの地元の企業様を始め、同窓生、保護者の方々のあたたかい励ましとご支援の賜物に違いありません。「津商モール」が学校行事として位置付けられ、学校を上げて、ビジネス教育の学びの集大成として、取り組んできました。生徒たちの満足度は高いものの、今一つ、普段の学びと「津商モール」関わりが、生徒はもとより教職員にもはっきりと目に見えるものではありませんでした。そのような中、平成 28 年・29 年度の 2 年間、国立教育政策研究所教育課程研究指定事業の高等学校「特別活動」の指定を受け、「津商モール」を柱に商業高校での学びを特別活動で実践するための研究を行ってきました。「津商モール」が学校行事に位置付けられたその年に入学した生徒たちが進路決定の時期を迎えました。彼らはこの 3 年間、「7つの力」を意識し、様々な学習活動に臨み、その力を身に付けてきました。その力が、彼らのこれからの人生において大きな自信となり、社会のどのような場面においてもチャレンジ精神とともに活かされることと確信しています。

最後に、本研究にあたり、特別活動による生徒の育ちに気付かせてくださるとともに、御多用の中、何度も元気の出る御指導をいただきました。国立教育政策研究所教育課程調査官の長田徹先生、授業改善に係る教員研修でお世話になりました。岡山大学教師教育開発センター 教授 高旗浩志様、安田女子大学文学部 教授 田中宏幸様、岡山大学大学院教育学研究科 准教授 宮本浩治様、学校教育と社会とのつながりについて新たな視点を与えてくださいました。一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会様、様々な御指導をいただきました岡山県教育委員会をはじめとする多くの関係機関、関係者の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、今後ますますの御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます、お礼の言葉といたします。

平成 30 年 1 月 13 日

教諭 牧野美穂

関係資料

新聞記事

| | | |
|--------|--------------|------------|
| 津山朝日新聞 | 2017. 11. 28 | 津商モール |
| 津山朝日新聞 | 2017. 12. 16 | 孫心弁当 |
| 津山朝日新聞 | 2018. 12. 17 | 津商モール収益金寄付 |

津商モール通信

| | | | |
|---------|-----|------------|----|
| 津商モール通信 | 第1号 | H29. 4. 25 | 発行 |
| 津商モール通信 | 第2号 | H29. 5. 15 | 発行 |
| 津商モール通信 | 第3号 | H29. 5. 19 | 発行 |
| 津商モール通信 | 第4号 | H29. 6. 2 | 発行 |
| 津商モール通信 | 第5号 | H29. 9. 20 | 発行 |
| 津商モール通信 | 第6号 | H29. 12. 1 | 発行 |

威勢いい掛け声校内に響かす

仕入れから販売実践

津商モール 全校生徒 家族連れら品定め

津山商業高校(山北)の生徒が校内を商業施設に見立てて食料品などの小売店を運営する「津商モール」が25日、開かれた。「いらっしゃいませ」の威勢のいい掛け声が響き、大勢の家族連れらが買い物を楽しんだ。

全校生徒約480人が体育館などに野菜や果物、惣菜、生花、和洋菓子、家電製品、日用雑貨などの店舗を開店。地域の企業や商店から販売物を仕入れ、店長や副店長などの役割分担をして店を切り盛りした。

鮮魚店では、山一水産(戸島)から搬入したイカ、マグロの切り落としなど計30品目を100〜1000円で販売。ネギトロなどが早く完売する一方で、盤は練り物が売れ残り、買つとつみれを付け加えるおまけ商戦や、より安く売る値引き商戦を展開して客を寄せていた。

鮮魚店副店長の地域ビジネス科3年・志茂七海さん(18)は「お年寄りや主婦の行列ができて看板商品が一気に売れた。なんとか店長の仕事をサポートできたとと思う」と話していた。

駐車場や中庭でもPTAや地元商店などが出店を出して盛況。子どもが飲食業や美容師、大工といった計26種の職業を体験できる「キッズビジネスタウンつやま」(津山商工会議所青年部主催)も行われ、親子連れの人気を集めていた。

津商モールは、ビジネスマナーなどを学習し、地域経済に貢献するリーダーを育てることを狙いとした販売実習の一環で、今年で9回目。



鮮魚店を運営する生徒たち

「孫心」込め弁当届ける

津山商高生が手作り

一人暮らしのお年寄りへ
お年寄りへ 城北地区87人喜ぶ

一人暮らしのお年寄りへ
津山商業高校(山北)の生徒たちが15日、



お年寄りに「孫心弁当」を手渡す津山商高生

「孫心(まごころ)弁当」こしらえ、城北地区の
当二と名付けた昼食を 84歳以上の高齢者87人



まごころがこもった手づくり弁当

に届け、喜ばれた。
3年生の家庭クラブ員(155人)がグループごとに高齢者の好みに合うよう栄養のバランスや食べやすさに配慮した献立を作成し、投票によって決まった「もち麦入りそばご飯」「鮭と鶏むね肉の塩こうじ焼き」「かぼちゃのそぼろあんかけ」「切り干し大根の煮物」「スイートポテト」など10品を、朝からクラブ員68人が心を込め分けして調理。出来上がり弁当用トレイに彩りよく詰めていった。同地区の民生児童委員の案内で各家を訪問。上河原の男性(88)宅には、高橋秀郎さんと杉原芽依奈さんが訪れ「みんなで作ったお弁当です。どうぞ食べてください」と手渡した。ハンカチや酒粕甘酒といったプレゼントに「お体に気を付けてください」などのメッセージ

ーシカードも添えた。早速口にした男性は「とてもおいしい。ごちそうを毎年いただいてうれしい」と笑顔。2人は「食材をできるだけ細かく切ったり柔らかくし、食べやすさを考えた」と言い、「喜んでもらえてうれしい」と話した。歳末たすけあい募金を活用し市社会福祉協議会と同校家庭クラブの主催で毎年この時期実施しており、27回目。

収益金の一部を寄付

市社協へ
販売実習 津山商高「モール」

津山商業高校は12日、地域福祉に役立ててもらおうと、同校（山北）で昨年11月に開催した大規模販売実習「津商モール」の収益金の一部を市社会福祉協議会に寄付した。

いずれも3年生で社長を務めた武本莉奈さん、副社長の津田菜月さん、香山綾乃さんが山北の同協議会を訪れた。武本さんが小山了会長に3万円を手渡し「寄付できて光栄。支援に役立てていただきたい」とあいさつ。小

山会長は「皆さんの温かい気持ちを大切に、有効に活用したい」と礼を述べた。

昨年9回目の津商モールは、ビジネススマナ
小山会長に収益金の一
部を手渡す武本さん



「などの学習を狙いに、校内で食料品や雑貨などの小売店を運営して

いる。同協議会への寄付は6回目。



津商モール始動！

4月21日（金）課題研究「津商モール」は2回目の授業で担当の生徒、先生合わせて21人がそろいました。今年度はこのメンバーで「第9回 津商モール」に向けて取り組んでいきます。

今回の目標は「津商モールのコンセプト（テーマ）を決める」



多くの先生方が見守る中、グループに分かれての話し合いです。どんな津商モールにしたいか…昨年度までの経験を生かし、活発に意見交換が行われました。



たくさん出た中からキーワードを絞り、次回コンセプトを決定します。

地域の方々も、運営する生徒もみんなが満足できる津商モールにしていきたいと思います。



キャッチコピー決定！！！！

5月12日（金）集まったキャッチコピー案の中から「これだ！」というのを選びました。ひとつずつ丁寧に検討していき、20ほどに絞った中から今度は全員で考えていきました。



組み合わせたり、少し変えたりしながらできたテーマが…

「今日という日を幸せに ～Happiness and Smile for you～」

原案は2年4組 赤代 和陽くん、1年2組 影山 一翔くんの2人です。

このテーマのもと、お客様はもちろんのこと、私たちにとっても爽りある津商モールになるよう取り組んで行きましょう。みなさん、ご協力ありがとうございました。

そして、社長&副社長が決定しました！！

社長 3年3組 武本 莉奈さん

副社長 3年1組 香山 綾乃さん ・ 3年2組 津田 菜月さん です。

このメンバーを中心に18人、全員で協力して盛り上げていきます！



就任挨拶の様子



第9回 津商モールに向けて！



5月19日（金）店舗班とイベント企画班に分かれ、話合いました。

イベント企画班では、今までの企画のよかった点、悪かった点をあげ、よりお客様に笑顔になっていただけるようなイベントを考えました。



また、多くの人に「津商モール」を知ってもらうためのPR方法についても検討しました。

後半はインターネットを使って、依頼先や依頼方法を調べました。

店舗班は今までの店舗や売上を参考にしながら、今年度の店舗について考えました。

ターゲットとなる客層や目玉となる店舗は何か、オリジナル商品が作れないだろうか、どこかの学校へ偵察に…話は尽きません。

新しい店舗の案もいろいろと出てきました。考査後は業者を決定し、協力していただけるよう交渉をしていく予定です。



5月26日の活動です。店舗班は、どの企業に協力を依頼するか候補をあげていきました。

イベント班は折り込み広告を見ながら、実際の店舗で行われているイベントやサービスを調べました。



先生との入念な練習ののち、放課後いよいよ企業へ電話をし、津商モールへの協力をお願いしました。

多くの企業の方が快く引き受けてくださり、一步前進することができました。



6月2日は昨年度の経験からそれぞれの部署で困ったことなどを全員で共有しました。休憩時間も惜しんで話し合いました。

店舗の横の繋がりが弱く、係会の内容が全体にうまく伝わらなかった経験からは、どうすれば全員で情報を共有できるかを話し合いました。



店長・副店長だけでなく、部署ごとにリーダーをきめたらよいのでは？

振り返りシートの書式を変えてみては？

というような案が出ました。





2学期スタート！係会が開かれました！

課題研究の授業では準備やイベントの企画などを各部署に分かれて着々とすすめています。

2学期になり、9月20日には第1回の係会が開かれました。今年度からは「説明も自分たちでやってみよう！」ということで、課題研究の時間には係会に向けての準備も怠りません。



昨年度の経験をもとに、伝わりやすくなるようにPOP広告の見本を作ったり、説明の練習をしました。



係会では、

各課の仕事の流れや当面の取組についての説明がありました。今日の説明を各店舗でしっかりと共有してください。分からないことはいつでも課題研究の担当者に聞いてください！



限られた時間で効率よく活動していきましょう！

1学期後半の活動・・・

少し発行が滞っていたので、1学期後半の活動の様子もお知らせします。今年度は1年生でも店舗をもつということで、1年生の津商モールLHRを見学してきました。



社長・副社長から津商モールについての説明を受け、どんなことがしたいか考えました。先輩からのアドバイスもあり、有意義な時間となりました。8大用語は・・・まだまだ練習が必要ですね。1年生の様子を見ていると今年の津商モールが楽しみになりました。



津商モール無事終了しました！



当日は朝早くからたくさんのお客様に来ていただき、会場は大盛況！！

来場者数は去年より増えていた気がします。

今年は宣伝に特に力を入れました。OHKの「なんしょん」による宣伝効果や様々な地域にポスターを張り多くのお客様に来ていただくことができました。

キッズビジネスタウンも同時開催でしたが、例年以上の盛り上がりでした。

一年生は小学生のエスコート役でしたが、小学生に対して優しく丁寧に対応していた様子が見られました。そんな優しいお兄さん、お姉さんに憧れて、将来、津山商業に入学して津商モールを盛り上げてくれるといいですね。



キャッチコピー

「今日という日を幸せに

～Happiness and Smile for you～」

のとおり、多くの方に笑顔を届けられました。



来年は節目となる第10回目を迎えます。後輩の皆さん今年よりも盛り上がるよう頑張ってくださいね。

3年生の皆様は売り上げに貢献できるよう懐マナーを増やしましょう！！！！！！！！（社長より）

平成 28・29 年度
国立教育政策研究所教育課程センター関係指定事業
研究成果報告書

「津商モール」を柱に商業高校での学びを实践する
～特別活動を核として商業科及び各教科で取り組む7つの資質・能力の育成～

「つしょうレインボー・プロジェクト」

発行日 平成 30 年 3 月 16 日

発行者 岡山県立津山商業高等学校
〒708-0004 岡山県津山市山北 531 番地
TEL (0868)22-2421/FAX (0868)23-8492

印刷 (株)美成
〒708-0872 岡山県津山市平福 177-2
TEL (0868)28-0127/FAX (0868)28-7011



岡山県立津山商業高等学校

〒708-0004 岡山県津山市山北 531 番地

TEL (0868)22-2421/FAX (0868)23-8492

ホームページアドレス

<http://www.tusho.okayama-c.ed.jp/>